

2022年度 事業計画書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

社会福祉法人
聖隷福祉事業団

2022年度 事業計画書 目次

2022年度事業計画にあたって	…	5
聖隷福祉事業団 理念～目標体系	…	7
聖隷三方原病院	…	10
聖隷おおぞら療育センター	…	14
三方原ベテルホーム	…	16
聖隷浜松病院	…	18
聖隷淡路病院	…	21
聖隷横浜病院	…	23
聖隷佐倉市民病院	…	26
浜松市リハビリテーション病院	…	28
聖隷袋井市民病院	…	30
保健事業部	…	32
聖隷健康診断センター	…	34
聖隷予防検診センター	…	36
聖隷健康サポートセンター <i>Shizuoka</i>	…	38
地域・企業健診センター	…	40
在宅・福祉サービス事業部	…	42
<和合せいれの里> 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みるとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷こども発達支援事業所かるみあ和合 聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき 浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉		
<聖隷ケアセンター初生> 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生		
<聖隷ケアセンター高丘> 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松 訪問看護ステーション住吉第二 聖隷コミュニティケアセンター 浜松市生活自立相談支援センターつながり		
<聖隷厚生園信生> 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北		
<聖隷厚生園讃栄> 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 障害者相談支援事業所ナルド 地域活動支援センターナルド 福祉共同住宅ファーストステップ		

2022年度 事業計画書 目次

聖隷厚生園ナルド工房	… 64
＜浜松学園＞ 障害者支援施設聖隷チャレンジ工房浜松学園 聖隷ワース工房浜松学園 聖隷ステップサポート	… 66
もくせいの里	… 69
＜いなさ愛光園＞ 特別養護老人ホームいなさ愛光園 いなさ愛光園デイサービスセンター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター	… 71
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ	… 74
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	… 76
聖隷訪問看護ステーション三ヶ日	… 78
＜浜北愛光園＞ 特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター 障害者相談支援事業所浜松東 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 聖隷チャレンジ工房浜北	… 79
＜森町愛光園＞ 特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園天宮サテライト 森町愛光園デイサービスセンター 森町愛光園ホームヘルパーステーション 聖隷ケアプランセンター森町 聖隷放課後クラブはなえみ森町	… 82
＜聖隷ぴゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター	… 85
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	… 88
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市ケアハウス 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	… 89
浦安市高洲地域包括支援センター	… 92

2022年度 事業計画書 目次

＜浦安愛光園＞	
介護老人保健施設浦安愛光園	… 93
障害者支援事業所聖隷はぐくみ浦安	
浦安ベテルホーム	… 95
聖隷ケアプランセンター浦安	… 97
聖隷訪問看護ステーション浦安	… 98
＜松戸愛光園＞	
特別養護老人ホーム松戸愛光園	
松戸愛光園デイサービス	… 99
松戸愛光園ケアプランセンター	
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	
＜横須賀愛光園＞	
特別養護老人ホーム横須賀愛光園	
聖隷訪問看護ステーション横須賀	
横須賀愛光園デイサービスセンター	… 102
聖隷ヘルパーステーション横須賀	
西第二地域包括支援センター	
聖隷ケアプランセンター横須賀	
＜宝塚せいれいの里＞	
特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園	… 105
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	
聖隷ケアプランセンターすみれ	
ケアハウス宝塚	… 107
結いホーム宝塚	… 109
宝塚栄光園	… 111
＜聖隷ケアセンター宝塚＞	
聖隷ヘルパーステーション宝塚	… 113
聖隷逆瀬川デイサービスセンター	
訪問看護ステーション宝塚	
聖隷ケアプランセンター宝塚	… 114
逆瀬川地域包括支援センター	
聖隷逆瀬台デイサービスセンター	… 115
聖隷デイサービスセンターあゆむ	
聖隷デイサービスセンター結い	… 116
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 117
＜花屋敷せいれいの里＞	
特別養護老人ホーム花屋敷栄光園	
花屋敷デイサービスセンター	
聖隷訪問看護ステーション山本	… 118
花屋敷地域包括支援センター	
聖隷ケアプランセンター花屋敷	
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	
ケアハウス花屋敷	… 121
聖隷訪問看護ステーション北神戸	… 123
聖隷ケアプランセンター北神戸	
＜聖隷カーネーションホーム＞	
特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム	
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター	… 124
聖隷ケアプランセンター淡路	
聖隷在宅介護支援センター淡路	
＜淡路栄光園＞	
特別養護老人ホーム淡路栄光園	… 126
淡路栄光園デイサービスセンター	

2022年度 事業計画書 目次

＜聖隷ケアセンター津名＞	
聖隷訪問看護ステーション淡路	
聖隷ケアプランセンター淡路第二	… 128
聖隷ヘルパーステーション淡路	
聖隷ライフサポート津名	
聖隷こども園夢舞台	… 130
＜奄美佳南園＞	
特別養護老人ホーム奄美佳南園	
奄美佳南園デイサービスセンター	
奄美佳南園ホームヘルプ事業所	
奄美佳南園訪問入浴事業所	… 132
奄美佳南園在宅介護支援センター	
奄美佳南園春日デイサービスセンター	
聖隷チャレンジ工房カナン	
春日保育園	… 135
のぞみ園	… 137
聖隷かがやき	… 139
聖隷こども園わかば	… 141
聖隷こども園桜ヶ丘	… 143
聖隷こども園ひかりの子	… 145
聖隷こども園めぐみ	… 147
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 149
聖隷のあ保育園	… 151
こうのとり保育園	… 153
聖隷こども園こうのとり東	… 155
聖隷こども園こうのとり豊田	… 157
＜聖隷こうのとり富丘＞	
聖隷こども園こうのとり富丘	
聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘	… 159
聖隷訪問看護ステーション富丘	
野上あゆみ保育園	… 161
野上児童館	… 163
逆瀬川あゆみ保育園	… 164
御殿山あゆみ保育園	… 166
御殿山児童館	… 168
高齢者公益事業部	… 170
浜名湖エデンの園	… 172
宝塚エデンの園	… 174
松山エデンの園	… 176
油壺エデンの園	… 178
浦安エデンの園	… 180
横浜エデンの園	… 182
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞	
藤沢エデンの園一番館	
藤沢エデンの園二番館	
藤沢愛光園	
聖隷デイサービスセンター藤沢	… 184
聖隷ケアプランセンター藤沢	
聖隷ヘルパーステーション藤沢	
聖隷訪問看護ステーション藤沢	
奈良ニッセイエデンの園	… 188
松戸ニッセイエデンの園	… 192
明日見らいふ南大沢	… 196
法人本部	… 198

2022年度 事業計画 「変化の先にある、さらなる進化をめざして」

はじめに

まずは、コロナ禍において、職員が医療・福祉を最前線で支え、地域の暮らしを守り続けていることに心より感謝申し上げます。ウイルスの変異による感染拡大に打ち勝つため、我々にも常に変化と挑戦が求められている。内閣府の「骨太方針 2021」では未来を拓く4つの原動力として、グリーン、デジタル、活力ある地方創り、少子化対策が挙げられている。時代に合わなくなった社会全体の仕組みを、多様性と変化への柔軟な対応力を持ったものへと転換し、ポストコロナに向けた動きを加速する方向性が示された。聖隷の事業も、スピード感をもって変化し、進化していかなければならない。

社会福祉法人として最高の質・使命の追求と地域共生社会を実現する

創立100周年となる2030年にむけて、使命を追求し最高の質を提供するためのあるべき姿を考える「聖隷みらい創造プロジェクト」を始動する。また、地域住民、NPO、企業などの多様な主体が参画し、地域と共に創っていく社会「地域共生社会」の実現を目指す。さらに、聖隷福祉事業団環境宣言に基づき、環境に配慮した活動も積極的に行う。

聖隷DX（デジタル・トランスフォーメーション）をさらに推進する

自動運転車椅子の実証実験や、見守りシステム導入が促進され聖隷DXが進んでいる。IT化やシステム導入にとどまらず、利用者視点で必要な情報をデジタル化し、利用者や社会のニーズを基に業務や組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、事業部横断的に新たなサービスを創造する仕組みづくりを推進する。

大規模広域法人としての組織力を活かした機能を発揮する

熱海市土砂災害に対し、DMAT（災害派遣医療チーム）などの各医療チームを派遣。福祉施設などで新型コロナ患者が発生した際には、医療機関の感染制御チームと協働し、感染防止対策を迅速に行い、大規模広域法人としての組織力を活かした。また事業部を超えた共通健診システムの新規導入を行う。人・場所・情報が統合され生産性の向上が目指すと共に効果を検証し、聖隷DXにもつなげていく。

人材の確保と育成を推進する

高齢化が進み生産年齢人口が減少する中、聖隷の事業は需要拡大が見込まれている。質の高いサービスを提供し続けるためには、共に働く仲間を増やし、仲間を大切に、長く働き続けられる組織であることが重要である。そのため、多様な人材がやりがいを持ちキャリアデザインを実現できる環境と仕組みを整えるとともに、人材育成を一層強化する。

ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

職員には自分や家族との時間が取れる充実した人生を送ってほしいとの思いから、職員視点での施策（働きやすさの向上など）を必ず実行する。職員とその家族の健康を第一に考える健康経営推進のため、「健康推進室」を設置した。また働き方改革を進めるためにも、タスクシェアなど、各専門職の職能を活かした取り組みを推進する。

現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

未知の感染症や、診療報酬・介護報酬改定など我々の事業を取り巻く経営環境は先が見通しにくくなっている。そのような中でも2022年度は静岡県立浜松学園の聖隷への移譲や聖隷浜松病院 S棟耐震化増改築など、経営環境の変化に対応するため、必要な投資を行う。事業をより成長させるためにも、投資に対する評価を確実にを行い、財務体質を強化する。

職員一人ひとりの行動が未来の聖隷を創る

聖隷は、SDGs という世界共通の新たな価値観を取り入れ、持続可能な社会・地域共生社会の実現に向けた取り組みをしている。困っている人がいれば助ける、誰もやらないが必要なことは最後までやり遂げる。地域における公益的な取組など、既成概念にとらわれず新たな価値を創造していく。

コロナ禍における“新たな日常”が定着し、社会のルール、マナーが変化した。社会の変化やより複雑化するニーズに応えるため、聖隷もスピード感をもって変化しなければならない。職場レベルの小さな変化こそ大切にしていきたい。さらに揺るがない理念・ビジョンの元、たゆまぬ変化を続けられる、強靱でしなやかな組織へと進化していく。

変化への取組を大切にする一方で、聖隷の事業は人と人との結びつきが事業の根幹となっている。まずは、聖隷で働く仲間を大切にする。仲間を大切にすることこそ、利用者を大切にできる。職員一人ひとりが膠漆之心(こうしつこのころ)を大切にし、よりよい組織風土を確立していく。

理事長 青木善治

基本理念

キリスト教精神に基づく
「隣人愛」

使命

- ・いのちと尊厳のために
- ・利用される人々のために
- ・地域社会とともに
- ・未来を築く
- ・最高のものを

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・
経営基盤の安定化を実現し、
未来につなげる地域共生社会をつくる

中期事業計画2021-2025

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

基本理念

聖隷福祉事業団が事業を行なう上で根底にある考え方。

使命

聖隷福祉事業団の存在意義。

Vision2025

2025年、聖隷福祉事業団はこうなっている。

中期事業計画2021-2025

Vision2025へ到達するために、7つの重要課題およびテーマを提示し5年間かけて達成を目指す計画。

職員行動指針

使命をもとに職員が共有し実践する具体的な行動を示した指針。

Vision2025

地域連携体制の強化・デジタル改革・経営基盤の安定化を実現し、未来につなげる地域共生社会をつくる

A 2025年、聖隷福祉事業団はこうなっている

B 重要課題

事業

質の高い事業を行う

地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し、また先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦し、最高の質を追求した事業を展開している。



1 社会福祉法人として最高の質を追求した事業を展開する

組織

組織力を活かす

地域課題の解決に繋がる事業部間連携や聖隷の質と規模を維持する人材の確保ができています。大規模広域法人に適した購入や物流、情報システムを構築し、大規模災害に対する連携の強化等、より一層の協働した組織となっている。



2 地域ごとの課題解決に繋がる事業部間の連携を構築する

3 人材の確保と育成を推進する

4 大規模広域法人としての強みを活かした仕組化を推進する

運営

生産性の高い運営体制を築く

ICT・AI・ロボット等を活用し、少人数であっても質の高いサービスを提供できる効率性の高い業務体制を構築している。外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティが進み、働きがいのある仕事を推進している。



5 聖隷DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進する

6 ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する

財務

財務体質を強化する

新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい経営環境を学びにし、需要減少時でも安定する経営構造を構築している。また、予期せぬ経営環境の急変にも揺るがない骨太の財務体質となっている。



7 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

C テーマ

- ・地域共生社会の実現に貢献する社会福祉法人として、地域を支える新たな仕事を見出し挑戦する
- ・先進的な医療の提供、健康寿命の延伸に向けた予防への関与やゲノムなど最先端の課題に挑戦する

- ・事業部を越えた職員間で情報交換しやすい環境、検討する場を設ける等、地域ごとで事業部間が連携し、利便性の向上や課題解決に繋がる仕組みを構築する

- ・生産年齢人口が減少する中、需要拡大が見込まれる聖隷の事業を支える人材確保を図る
- ・聖隷の質を体現・継承できる「聖隷人」の育成を推進する
※聖隷人（せいれいびと）
基本理念および使命を理解し、職員行動指針を実践している人

- ・大規模広域法人としてのメリットを活かし、人事・資材・資金・情報システムなどの一層の効率性を追求する
- ・広域な大規模災害に対する BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）対応と連携を強化する

- ・ICT、AI、ロボット等を活用して少人数であっても質の高いサービスを提供できる、効率性の高い業務体制を追求する
- ・事業部を越えた利用者情報の共有ネットワークシステムの整備、データヘルスサービスなど医療・介護・健康分野の情報化を推進する

- ・健康経営の推進、働き方改革等の制度へ対応するとともに、外国出身者、高齢者、障がい者等を含んだダイバーシティを推進する

- ・成長性：サービス活動収益の成長率 前年比 2%以上
- ・収益性：税引前当期活動増減差額 年 15 億円以上
- ・効率性：総資産に対し税引前当期活動増減差額率（ROA）年 1%以上
- ・安定性：純資産比率 45%以上（2025 年度末）



事 生活困窮者支援などが当たります。



事 災害時の食事提供や健康寿命延伸に向けた栄養指導などが当たります。組 災害時にも安心して食事の提供ができる体制が必要です。BCP（Business Continuity Plan: 事業継続計画）策定など準備を進めます。



事 新たなニーズや制度の狭間など支援が届いていない方への支援、より質の高い医療福祉の提供を目指します。



事 健康、介護予防教育や生活困窮の負の連鎖に対する教育支援などが当たります。組 優秀な人材の確保、育成は事業の質を維持するうえで極めて重要です。今後も人材育成に注力します。



組 育児支援など女性が働きやすい職場をつくと共に女性の経営職の増加を目指します。運 職員へより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。



財 エネルギー使用量を削減する取り組みを継続します。



運 職員へのより良い雇用環境の提供、障がい者や外国人雇用の推進などにより、組織の成長に繋げていきます。
財 地域に必要な事業は行わねばなりません。法人として健全な成長を目指します。



運 医療福祉の領域での DX ははじめとした情報化やロボットなど自動化を推進し、生産性の向上と新たな価値創造に繋げて強みにしていきます。財 強靱で、より持続可能な施設設備を維持する管理を推進します。また DX やロボットなど先進的な技術の導入を推進します。



運 地域共生社会の実現を先導する組織として、内部でも年齢、性別、障がい、外国人などに関わらず活躍できるダイバーシティを推進します。



事 住み続けられるまちづくりは地域共生社会の理念と同一であり、地域包括ケアシステムなどを用いて社会福祉法人に求められています。



組 環境への影響を配慮された物品の使用や電気ガス等の効率的な使用が求められます。財 将来にわたり社会を支えていける様に、事業の持続性を確立します。



組 台風や大雨の激甚化など温暖化による大規模災害が増加していますので、災害に対する準備が一層必要になります。



事 子ども達により良い環境を提供することも私たちの大切な事業となります。



組 各所との連携体制の構築は最も重要なテーマの一つです。内部の連携強化と共に、外部組織とも連携を強めていきます。

医療保護施設 総合病院 聖隷三方原病院

新型コロナウイルス感染症の流行主体となる変異株が α 株、 δ 株、 \omicron 株と次々に置き換わり、なかなか終息の糸口が見つからない。ワクチン接種を3回行うことにより免疫力を引き上げて、感染リスクと重症化リスクを最小にすることが急がれる。また新たな変異株が出現することを考慮すれば、国内だけではなく地球規模での安定にまで至らなければ、この感染症が発生する前のような社会生活を取り戻す状況にはなりえない。院内に確保する専用病床は、現場での感染状況に合わせて柔軟に対応したい。

「医師の働き方改革」は、いよいよB・C水準を申請する病院の受付が始まる。診療部各医師と病院側との間で、業務と自己研鑽の区分を話し合い、ルール作りを行うことが重要である。そして当直体制については大幅な見直しと、効率的に医療資源を活用できる業務改善が急務である。おそらくこの改革により地域の診療体制が夜間を中心に大きく変化するものと考えられる。それに伴い2025年に向けた地域医療構想の話し合いも、従前の病床数の適正配置から、医療のみならず介護も含めた、急性期から在宅まで包括したシステムの再構築へと話題の中心が移ってゆくものと思われる。医師の負担軽減の一助となる看護の特定行為に関しては、定員数もカバーする領域も計画的に増やしてきた。2022年度からは外部からの受け入れも段階的に進めたい。

新型コロナウイルス感染症により医療機関への受診制限が2年に及び、利用者の考えにも変化が起っている。この状況が落ち着いた後も数字が元に戻るには、まだかなり時間を要するものと思われる。利用者が減少した状態がこのまま暫く続くなら、病院内の体制もそれに見合ったものに変えてゆく必要がある。ここ2年間は支援金により病院運営は安定していたが、これからは支援金のない状況でも以前のように安定経営が出来るよう、現場の医療状況に機敏に対応できる年としたい。

【理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

この地域にしっかりと根ざし、住民に信頼される病院づくり

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療の提供
 - (ア) 安全な医療の提供
 - ①医療安全管理の促進
 - ②感染管理体制の評価と更なる充実
 - (イ) 質の高い医療の提供
 - ①各部門の専門特化した医療体制の確立
 - ②専門性の高い看護師の更なる活用
 - (ウ) 新たな病院機能の提供

- ①手術室機能の更なる充実
 - ②病院機能の充実に向けた DX 推進 (※1)
 - ③各種センター設立に向けた検討
 - ④地域障がい者総合リハビリテーションセンターの活用
 - ⑤外来・画像診断部門の再構築
2. ディーセント・ワークの推進と人づくり文化の継承 (※2)
- (ア) 「医師の働き方改革」への対応
 - ①医師の勤務実態（日当直業務・業務と自己研鑽）の把握
 - ②勤務環境改善への取組み
 - ③タスク・シフト／シェアの推進
 - (イ) 医師・看護師・介護職の人材確保と定着
 - ①専門医・専攻医採用の強化
 - ②看護師・介護職・看護助手の安定した確保
 - ③新専門医制度への対応（基幹プログラムの追加）
 - ④臨床研究支援の検討と構築
 - (ウ) 職員教育の充実
 - ①キャリア形成への支援
 - ②指導者育成の推進
 - ③OJT の強力な推進
 - (エ) 多様な雇用形態の促進
 - ①障がい者雇用の維持
 - ②エルダー職の活用
 - ③両立支援が必要な人達の雇用 (※3)
3. 地域より求められる病院機能の整備
- (ア) 新型コロナウイルス感染症への対応
 - ①新型コロナウイルス感染症重点医療機関としての体制維持
 - ②集団免疫獲得に向けたワクチン接種の継続
 - ③地域と連携した感染対策の推進
 - ④発熱等特殊外来の活用
 - (イ) 各種認定施設としての機能の充実
 - ①高度救命救急センター
 - a 重症救急患者の受け入れ体制の充実
 - ②基幹型認知症疾患医療センター
 - a 他医療機関との連携システムの整備
 - b 地域包括支援センター、福祉・介護施設との連携
 - c 相談支援体制の充実
 - ③精神科病棟
 - a 精神科・身体合併症ユニットの体制充実
 - b 西部精神科救急指定病院の体制充実

- ④災害拠点病院
 - a 大規模災害に向けた地域連携
 - b 防災対策の強化（BCP 含む）
- ⑤地域がん診療連携拠点病院
 - a がんサポートセンターの継続的な運営
 - b がん地域連携クリニカルパスの活用推進
 - c がんゲノム医療連携の体制維持
- ⑥地域医療支援病院
 - a 病診・病病連携の強化
 - b 地域連携クリニカルパスの推進
- ⑦基幹型臨床研修病院
 - a 臨床研修医の確保
 - b 指導体制・プログラムの充実
- ⑧聖隷おおぞら療育センター
 - a 地域連携の強化
 - b 医療体制の確立
- (ウ) 利用者サービスの向上
 - ①地域のニーズに即した情報発信の強化
 - ②利便性向上を目指した ICT の活用（※4）
- (エ) 病院機能評価の認定更新
- (オ) 病院ボランティアの再開
- (カ) 医療保護施設としての活動
- (キ) 環境保全のための省エネ活動の継続
- 4. 地域完結型医療実現への取り組み
 - (ア) 地域医療構想への対応
 - ①病床・外来機能の検討
 - (イ) 地域包括ケアシステムの推進
 - ①入退院支援の質向上
 - ②福祉・介護施設との連携推進
 - ③アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進（※5）
- 5. 安定した経営基盤の確保
 - (ア) 診療報酬改定への対応
 - (イ) 施設基準の精度管理
 - (ウ) 職員の経営参画意識の向上
 - ①生産性向上への取組み強化
 - ②コストパフォーマンスの向上

- (※1) DX (デジタルトランスフォーメーション) : データとデジタル技術を活用して、サービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務や組織、プロセス、企業文化を変革し、競争上の優位性を確立すること
- (※2) デイセント・ワーク : SDGs の目標に記載されている「働きがいのある人間らしい仕事」のこと。権利が保障され、十分な収入を生み出し、適切な社会的保護が与えられる生産的な仕事とされている。ワークライフバランスに配慮した「人生と両立できる働きがいのある仕事」と定義する
- (※3) 両立支援 : 子育て、介護、病気の治療などの環境におかれている人への支援
- (※4) ICT : 通信技術を活用したコミュニケーション。情報処理だけではなくインターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称
- (※5) ACP : 患者本人と家族が医療者や介護提供者などと一緒に、現在の病気だけでなく、意思決定能力が低下する場合に備えて、あらかじめ終末期を含めた今後の医療や介護について話し合うこと

【数値指標】

サービス活動収益	22,236 百万円	職 員 数	1,570 人
外来患者数	910 人	外 来 単 価	22,400 円
入院患者数	全体 590 人 <一般 532 人・精神 52 人・結核 6 人>		
入院単価	全体 70,300 円 <一般 74,700 円・精神 28,800 円・結核 39,000 円>		
病床利用率	全体 76.6% <一般 82.4 %・精神 50.0%・結核 30.0%>		
紹介率	80%	逆紹介率	100%

《医療保護施設・無料低額事業》

当院は、医療を必要とする要保護者に対して医療の給付を行うことを目的とする施設であり、また、経済的理由により適切な医療を受けられない人に対し、無料または低額で診療をおこなう事業を展開している施設でもある。2022 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な医療を受けやすい環境を整えていく。

《助産施設 聖隷三方原病院併設助産所》

助産事業は、シングルマザー等への経済的、精神的援助という観点においても意義のある制度である。2022 年度も引き続き「みどりの通信」「院外ホームページ」等による地域への広報を図り、当制度対象者の利用しやすい環境を整えていく。

総合病院 聖隷三方原病院 聖隷おおぞら療育センター

聖隷おおぞら療育センター〈医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所（ショートステイ）〉

2021年度同様に新型コロナウイルス等感染管理対策の徹底と迅速な対応を取れる管理体制を維持する。また、利用者へのワクチン等予防接種を推進すると共に治療薬普及や市中感染を勘案した外出や家族面会を検討する。利用者のADL、発達レベル、医療必要度等に応じた生活環境や安全性、施設機能の再評価を行い、全病棟ゾーンの再編成を実施する。

成人利用者の医療的ケアが多様化しており、小児科以外の診療体制の構築を検討する。

介護・看護職員の人材確保を継続する。職員の安全衛生や利用者の生活介護の観点からIT、ロボット等の導入を検討する。期間限定施設利用者への退所時支援として共同カンファレンス開催や入退院支援看護師の関わりを拡げていく。高齢化していく利用者には施設看取りが求められており、アドバンス・ケア・プランニングへの取組みを推進する。

ショートステイも利用者の体調確認や新型コロナウイルス等の地域感染情報の収集を厳にするなど、施設へのウイルス持ち込み防止対策を徹底する。安全で質の高いサービス提供に努めるとともに、かかりつけ医療機関との連携強化や情報共有を推進し、在宅の重症心身障害児者が安心して地域生活を継続できるように支援していく。

施設全体のBCPについて、訓練等を適時実施し、より高い精度になるよう見直しを行う。

あさひ〈生活介護〉

2021年度同様に新型コロナウイルス等感染対策の徹底と利用者の体調確認、地域感染情報の収集を厳にする。

看護・介護職員の育成と、高まる医療的ケアの提供に必要な適正人員配置に努める。

2021年度から開始した祝日営業は継続する。また、改善した経営効率を維持しながら地域における重症心身障害者の生活を支える役割を果たすため、積極的な事業運営を継続する。

児童発達支援センターひかりの子〈児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援〉

2021年度同様に新型コロナウイルス等感染対策の徹底と利用者の体調確認、地域感染情報の収集を厳にする。

看護・介護職員の育成と、利用児童の発達支援に必要な適正人員配置に努める。

地域拠点である児童発達支援センターとして、周辺各サービス事業所等との連携に努め、重症心身障害児や医療的ケア児のニーズや支援状況等の情報を的確に把握し、必要とされる役割を果たす。

【経営方針】

聖隷おおぞら療育センターは、施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します。

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い障害児者支援の実践
2. 全診療科協力のもとでの専門医療の提供
3. 職員教育の充実
4. 業務改革の更なる推進

【数値指標】

	入所	短期入所	ひかりの子	あさひ
サービス活動収益	1,903,500 千円	145,500 千円	57,000 千円	113,000 千円
職員数	193.0 人		8.5 人	16.4 人
入院患者・利用者数	130 人	13 人	—	—
入院単価（医療）	29,500 円	—	—	—
外来患者・利用者数	25 人	—	12 人	35 人
外来単価（医療）	4,500 円	—	—	—
単価（福祉）	9,470 円	30,700 円	15,850 円	12,500 円

聖隷三方原病院併設 介護老人保健施設 三方原ベテルホーム

2021 年度は新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し緊急事態宣言が発出される中、ワクチン接種の促進と、さらなる感染防止対策の強化により利用者の安全確保に努めながら、超強化型の類型を維持し事業を継続することができた。医療依存度の高い方、終末期の方、緊急入所、緊急ショートステイの受入れなども継続的かつ積極的に取り組み、地域を担う老人保健施設として役割を果たしている。

2022 年度は、感染対策を継続しつつ、施設機能を活かした多様な利用者の受け入れを進め、「本当に困っている人を、困っているその時に」支援できる施設を目指す。理念に立ち返り、利用者寄り添った職員の育成と、利用者にとって居心地の良い環境づくりを進める。パーソン・センタード・ケアの実践を通して、認知症対応力の向上を図る。日々のケアの中から、「私の願い」を引き出し、ACP の形成につなげていく取り組みを継続する。福祉機器・ICT 機器の効果的活用により、安全で働きやすい職場づくりを進める。施設の資源・人材を活用した地域貢献活動を推進する。無料低額事業については、引き続き生活困窮者の経済的支援とともに、自立生活に向けて他の社会サービスと連携した援助を行う。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく「隣人愛」

【経営方針】

地域とつながり その人らしい暮らしを支える

【事業・運営計画】

1. 地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進
 - (ア) 在宅復帰、在宅生活継続を常に意識したチームケアの提供
 - (イ) 施設機能を活かした多様な利用者の受け入れ
 - (ウ) 総合事業と連携した通所リハビリテーション
 - (エ) 行政、医療、施設、居宅等関係機関との連携強化

2. 安定的に事業継続できる体制の構築
 - (ア) BCP(事業継続計画)の強化
 - (イ) 新規利用者の獲得推進
 - (ウ) 聖隷三方原病院後方支援施設としての連携強化
 - (エ) 職員ひとりひとりの経営参画意識の向上

3. 安全で質の高いケアの提供

- (ア) 個々の利用者にあった医療・ケアの提供
- (イ) 利用者にとって居心地のよい環境づくり
- (ウ) 各部門の連携と協働
- (エ) ACP の活用と地域連携
- (オ) 感染対策とリスク分析

4. 次世代を担う人材育成と働く支援

- (ア) 理念と経営方針の浸透
- (イ) パーソン・センタード・ケアに基づく認知症への対応力向上
- (ウ) 高い医療ニーズに対応できる人材の育成
- (エ) 働きやすい職場労働環境づくりの推進
- (オ) 福祉機器・ICT 機器の効果的活用

5. 地域社会に貢献できる施設づくり

- (ア) 地域貢献活動の推進強化
- (イ) 無料低額事業（生活困窮者支援）の推進
- (ウ) 地域防災協定の推進
- (エ) ボランティア、学生実習、体験学習の受け入れ推進

《無料又は低額介護老人保健施設利用事業》

当施設は、経済的理由により適切な介護を受けられない人に対し、無料または低額でケアを行う事業を展開している施設である。2022 年度も引き続きこのような方々に対して、積極的に手を差し延べ相談に乗り、必要な介護を受けやすい環境を整えていく。

【数値指標】

	入所（短期入所含む）	通所リハビリテーション	訪問リハビリテーション
利用者数/月	125 人	28 人	2 件
	入所 116 人	介護保険 27 人	
	短期入所 9 人	介護予防 1 人	
単価/人	15,060 円	13,000 円	9,000 円
サービス活動収益：	800,000 千円		職員数 ： 92.9 人（常勤換算）

総合病院 聖隷浜松病院

引き続きコロナ禍、2021年度においても感染症の対応と病院運営の両立を目指した1年となった。夏期の第5波においては増大する重症者に対応すべく臨時的にHCU病床の一部をコロナ専用病床として運用、加えて一般病棟にコロナ患者受入病床を増床した。近隣の医療機関において患者受入れが難しい状況下では、外来・入院・救急を断らないことに努め、地域医療に貢献した。また、内視鏡室やカテーテル室など各ユニットおける稼動状況の見える化により、限りあるスペースを効率的に活用するための運用改善に取り組んだ。その結果、外来患者数、入院患者数ともに昨年を大きく上回り、地域からの信頼を得られたと考える。

新S棟開設まで残り1年、限りある資源をいかに活用できるかが鍵となる。2022年度は、「シフト」をテーマに掲げ、時間や曜日変更、運用や体制の見直し、さらに職員の思考を変えていく。また、デジタル問診票導入をはじめとするDXの推進、業務プロセスを再構築することで職員の負担軽減を図るなど、新たな課題に取り組んでいく。今後も高度急性期病院として利用者ニーズに応え、地域に貢献していく。

【病院使命】

人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します

【病院理念】

私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ

【運営方針 2025】

私達は常に信頼される病院であり続けます

- 望まれる良質な医療を提供します
- 地域とのつながりを大切にします
- 良い医療人を育てます
- 働きやすい環境を作ります
- 健全な経営を継続します
- 災害・感染対策を強化します
- 環境に対する責任を果たします

【事業・運営計画】

「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）

1. 利用者満足の向上

(ア) 選ばれ続ける病院

①患者満足度調査結果（LINE3回）

この病院に満足している

肯定回答率 90%以上

その他 1項目

②接遇に関する患者満足度調査結果（LINE3回）

医師や職員は礼儀正しく親切で丁寧だった

肯定回答率 90%以上

その他 2項目

③新入院患者数

1,800人/月以上

- (イ) 職員負担軽減 (ジョブダイエット) ①職員満足度調査結果 (デスクネッツ年 3 回)
 お互い協力し合って業務を遂行する
 肯定回答率 75%以上
 その他 5 項目
- ②定着率 (看護・事務・医技) 95%以上
- ③超勤時間
 医師: 80 時間/月超 7 名以下
 看護・事務・医療技術: 30 時間/月超 80 名以下

「価値提供行動」の視点 (病院機能・質の向上のために)

2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実

- (ア) 断らない医療の徹底 ①救急車制限時間 (重症患者制限) 60 時間以下
 ②紹介患者断り率 3%以下
- (イ) 地域連携の充実 ①転院患者の DPC II 期以内比率 33%以上
 ②初診率 (放射線科・救急科除く) 7.2%以上
 ③紹介初診患者数 総数 2,050 件/月以上
 同一開設者 220 件/月以上
- (ウ) 入院機能の有効活用 ①HCU 算定率 (8 月算定開始) 70%以上
 ②病棟別稼働率の差異
 7:1 対象病棟 20%以下
 全病棟 (C3 病床除く) 20%以下
- (エ) 外来機能の有効活用 ①内視鏡検査実施件数 780 件/月以上
 ②外来化学療法室実施件数 640 件/月以上
- (オ) 手術室・カテーテル室の有効活用 ①8:30~19:00 の手術室稼働率 65%以上
 ②19:00 以降終了の予定手術件数 40 件/月以下
 ③9:00~17:00 のカテーテル室稼働率 60%以上
- (カ) がん診療の推進 ①サイバーナイフ件数 14 件/月以上
 ②新規がん患者数 141 件/月以上
- (キ) DX の推進 ①ID-Link の閲覧回数 300 回/月以上
 ②電子問診票導入診療科数 (年度末時点)
 5 診療科以上

3. 医療の質と安全の保証

- (ア) 災害・感染・環境対策 ①ANPIC 返信率 2 時間以内 60%以上
 ②手指衛生実施率
 医師 50%以上・看護 80%以上・事務医技 65%以上
 ③ CO2 排出削減
 電気使用量前年同月比 3%削減
 ペーパーレス会議の実施率 60%以上

- (イ) 安全な職場風土の醸成
- ①RRS (院内迅速対応システム) 件数 15 件/月以上
 - ②医師の IA レポート数 50 件/月以上
 - ③患者誤認発生率 事象レベル 1 以上 0.27%以下
 - ④麻薬・ハイアラート薬品関連の IA 発生率
事象レベル 2 以上 0.09%以下
 - ⑤転倒・転落による負傷発生率
事象レベル 2 以上 0.75%以下

「成長と学習」の視点 (人材確保・成長のために)

4. 明日を担う人材育成と活用

- (ア) 共に育ち認め合う職場づくり
- ①e ラーニング必須研修受講率 100%
 - ②目標参画面談実施率
医師 100% 看護・事務・医技 95%以上

「財務」の視点 (経営・運営の安定のために)

5. 目指す医療ができる安定した財務

- (ア) 年度予算の達成
- ①収益 (サービス活動収益) 34,613 百万円以上
 - ②費用 (サービス活動費用) 33,236 百万円以下
 - ③利益 (税引前当期活動増減差額)
1,000 百万円以上

【数値指標】

サービス活動収益	34,613 百万円		職員数	2,182 名	
入院単価	91,300 円	入院患者数	690 名	病床利用率	92.2%
外来単価	22,000 円	外来患者数	1,600 名	平均在院日数	10.5 日
地域医療支援病院紹介率	65.0%		逆紹介率	70.0%	

【地域における公益的な取組】

当院は、地域のがんを含む長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに、行なう相談会を定期的で開催している。2022 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大状況をみながら、ハローワーク相談会を 12 回、社会保険労務士の相談会を 4 回開催する計画としている。また、がんに罹患し、就労継続に困難をかかえる療養者と事業主に対し、商工会議所と連携し、当院の患者支援センターが相談の窓口を担っており、2022 年度も継続していく。

【助産施設 聖隷浜松病院併設助産所】

2021 年度は 2 月までに 5 名の方の利用があった。社会的経済的に困難を抱えた妊産婦の方々に利用していただくことができた。2022 年度も引続き受入体制の確保と充実を図っていく。

聖隷淡路病院

2022年度は総合診療科を新設し、日常的に頻度が高く幅広い領域の疾病と傷害について適切な初期対応と必要に応じた継続医療を全人的に提供することを目標として診療を行う。同科は多様な医療サービス（在宅医療・緩和ケア・高齢者ケアなど）を包括的かつ柔軟に提供し、場合によっては小さな外科手術や縫合もでき、複数の健康問題や介護保険にも対応していくことを目指す。

疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応できる病院機能を活かして、外来診療の更なる充実、医療機能別の病床管理による高稼働、保健事業の充実と拡大を図る。淡路島において地域から望まれる病院像を明確にし、地域医療の中で役割を果たしていく。

淡路市内の聖隷関係施設と密接に連携し、2022年度は人事交流を積極的に行う。聖隷各事業の質の高いサービスをシームレスに利用者に提供することで、地域における聖隷ブランドの付加価値を高めていきたい。

【施設理念】

『聖隷精神（隣人愛）を継承し、地域に根ざした医療・福祉に貢献する』

【経営方針】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す
4. 経営基盤を確立する

【事業・運営計画】

1. 疾病予防から急性期・回復期・在宅支援まで幅広く対応し地域医療に貢献する
 - (ア) 病床の安定稼働に向けて医療機能別の病床管理を行う
 - (イ) 地域包括ケア病床の機能を有効に活用する
 - (ウ) 質の高いリハビリにより、急性期から在宅まで切れ目のないサービス提供を行う
 - (エ) 各診療科の診療体制の充実とともに診療科の垣根を超えた相互協力体制を構築する
 - (オ) 保健事業を拡充し、地域住民の健康増進と地元企業の健康経営に貢献する
 - (カ) 総合診療科の新設により、断らない初療に努め、より複合的な疾患に対する診療能力を発揮し、家族・社会・行政とも連携した診療提供や、在宅医療・終末期医療等を包括的かつ総合的に診療を行う体制とする
2. 職員の資質と組織力の向上に努め、安全で質の高い医療サービスを提供する
 - (ア) 組織体制・委員会・会議の再構築によりガバナンスを強化する
 - (イ) 各職種の専門性向上と質の高いチーム医療を実践する
 - (ウ) 病院機能評価（日本医療機能評価機構）の結果を元にさらなる質改善に努める
 - (エ) 医療安全管理体制を強化する

- (オ) 院内感染対策を徹底する
- (カ) 医療倫理的な問題を審議し、その結果に基づいて医療提供を行う
- (キ) クリニカルパスを運用し、医療の標準化と質の向上を図る
- (ク) 初期臨床研修における地域医療研修と総合診療専門研修のプログラムを充実させる
- (ケ) 地域に根差した人材を確保し定着させる
- (コ) 各部門の役職者を育成する
- (サ) 利用者からの声を活かし、院内の環境改善に努める
- (シ) 職員が働きやすい労働条件・職場環境を整備する

3. 地域との共存共栄を図りながら持続的な成長を目指す

- (ア) 地域の医療機関との役割分担を明確にし、地域連携の推進により、入退院支援・在宅復帰支援を充実させる
- (イ) 淡路市内に開設する助産院への支援と淡路島内外の産後ケア事業を継続して行う
- (ウ) 淡路市内の聖隷関係施設と有機的に連携し、人事交流等を積極的に行う

4. 経営基盤の確立

- (ア) 医療資源を最大限に活用し、入院・外来・健診の患者増を図る
- (イ) 収益に見合った費用の削減に取り組む
- (ウ) 職員一人一人が経営参画意識を高め、経営目標を共有して改善を行う

5. その他

- (ア) 防災・防犯活動の推進とBCP（事業継続計画）の策定に向けた検討を行う
- (イ) 省エネ、資源循環、社会貢献活動に積極的に取り組む

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域住民に向けた健康啓発活動を継続的に実施する
- (イ) 骨粗鬆症治療の地域住民への啓発を目的としたNPO法人の設立に協力する

【数値指標】

サービス活動収益	2,084,000 千円		職 員 数	195 名	
入院患者数	129 人/日	入院単価	31,500 円	病床稼働率	84.8%
外来患者数	128 人/日	外来単価	11,000 円	地域包括ケア病床稼働率	95.7%

《無料又は低額診療事業》

無料又は低額診療事業を行う施設として広く生活困窮者の受け入れを行い、基準10%以上の実績を維持する

聖隷横浜病院

2021年度は、感染対策を継続する中、地域完結型医療を推進するケアミックス型の病院として、地域医療を支え、守る覚悟で取り組んだ。脳疾患の受け入れ強化のため脳卒中ケアユニットを3床増床したほか、各医療機関との連携をより強固にするため、紹介に対し即日返信の強化を行った。また、オンライン形式による市民公開講座の定期開催や横浜市と協力して15,000回以上のワクチン接種を行うなど、利用者に当院を知ってもらうための活動を積極的に行った。中でも、ワクチン接種に関しては横浜市内唯一の市民接種、職域接種が可能なワクチン接種施設として、行政との信頼関係を深めながら、接種の加速化に貢献することができた。これらの取り組みは職員の努力と団結によるものである。安心して利用できる病院であるという利用者の評価を得ることができた結果、これまで当院を利用したことがない多くの方々にも利用していただき、地域に根ざした病院としての基盤を構築することができた。

2022年度は、経営移譲後、20年目の節目の年度である。医療サービスを必要とする地域の多くの方々へ良質な医療を提供し続けるため、救急および外来診療体制の充実、各医療機関との連携の強化、広報活動の充実を図り、地域から愛されつづける病院づくりを職員と共に進めていく。

【病院理念】

私たちは、隣人愛の精神のもと、安全で良質な医療を提供し、地域に貢献し続けます

【運営方針】

1. 急性期医療を中心に安全で良質な医療を提供します
2. 地域包括ケアシステムを推進し、在宅まで連続した医療を提供します
3. 職員が参画し、資源を最大限に活用した健全な経営を目指します
4. 病院理念を実践する人材を確保し、育成します
5. 全ての利用者にとって最適な環境づくりをします

【事業・運営計画】 ※は、中期事業計画 2021-2025 における区分との繋がりを表記

1. 安全で良質な医療の提供 事業、運営、財務
 - (ア) 医療安全管理体制および感染管理体制の強化 事業
 - ①新型コロナワクチン 市民接種および職域接種の推進 事業
 - (イ) 救急診療体制の充実 事業
 - ①救急医療の体制を充実し地域医療への貢献 救急車受け入れ年間 4,500 件 事業、財務
 - ②「急性心疾患」、「脳血管疾患」、「外傷（整形外科）救急」の受け入れ体制の充実 事業
 - (ウ) 外来診療科体制の充実 事業、運営、財務
 - ①午後の外来診療の増枠 事業、運営
 - ②受付および問診体制の見直し 事業、運営
 - ③総合的な待ち時間対策の検討 事業、運営、財務
 - ④維持透析利用者の増加 事業、運営、財務

- ⑤ 専門看護師・認定看護師・特定行為看護師の活動の場の拡大 事業、運営
- ⑥ 循環バス利用者の促進および利便性向上に向けた検討 事業、運営
- (エ) ドック・健診事業の充実 事業、運営、組織、財務
 - ① 日曜乳がん・婦人科検診の拡大 事業
 - ② 健診予約枠の拡大 事業、運営、財務
 - ③ ドック・健診フロア拡大プロジェクトの立ち上げ 事業、運営、組織、財務
- 2. 地域包括ケアシステムの推進 事業、運営、組織、財務
 - (ア) 地域完結型医療の実践 事業、財務
 - ① 回復期リハビリテーション病棟の安定稼働 事業、財務
 - ② 緩和ケア病棟の安定稼働 事業、財務
 - ③ 地域包括ケア病棟の安定稼働 事業、財務
 - ④ 訪問看護における提供サービスの質向上 事業、運営、組織
 - (イ) 地域連携および広報活動の強化 事業、運営、組織
 - ① 診療所からの紹介件数：月間 850 件 事業、組織
 - ② 顔の見える広報活動（オンライン市民公開講座）の充実 事業、運営、組織
 - ③ 効果的な病院ホームページの検討 運営、組織
- 3. 資源を最大限に活用した健全な経営の実践 事業、運営、組織、財務
 - (ア) 人員配置に見合った収益確保（人件費率：年間平均 60%） 運営、財務
 - (イ) BCP（事業継続計画）に基づく防災訓練の実施 組織、運営、財務
 - (ウ) 手術室の効率的な稼働による件数増加：年間 1,800 件（手術室実績） 事業、運営、財務
 - (エ) 無料低額診療事業の基準 10%以上を堅持 事業
 - (オ) 病院設備および医療機器の管理体制の充実 事業、運営、財務
 - (カ) 自然環境に対する取り組み 事業、運営、財務
 - ① 環境に配慮した資源活用（フードロスの活用、薬品、物品の適正使用） 事業、運営、財務
 - ② 食材の地産地消の推進 事業、財務
 - ③ 井水の災害時提供の検討 運営、財務
- 4. 多様な人材確保と育成 事業、組織、運営
 - (ア) ディーセントワークの推進 事業、運営、組織
 - ① 障がい者雇用と定年後における雇用延長の推進 運営、組織
 - ② 働き続けたいと実感できる職場づくり 事業、組織、運営
 - ③ 職員の心と身体の健康管理の推進 事業、運営
 - (イ) 次世代リーダーの育成 事業、組織、運営
 - (ウ) 病院と訪問看護との人事交流の推進 事業、組織、運営
 - (エ) コンプライアンス教育の推進 組織、運営
 - (オ) 地域に求められる医療を推進し続ける職員の育成

5. 最適な環境づくりの推進 事業、組織、運営

(ア) 働き方改革関連法への対応 事業、運営

①働き方改革を見据えた診療体制の検討 事業、運営

②慣例に捉われない業務手順の見直しやスリム化 運営

③超過勤務の適正化と業務量削減のための検討 組織、運営、財務

(イ) 安全・感染対策に配慮した療養環境と労働環境の整備 事業、運営

(ウ) 将来の病院の在り方を検討（病床数、機能、病棟建築など） 事業、組織、運営

(エ) インフラ（電子カルテ、ネットワークなど）の整備の検討 事業、運営、財務

(オ) 職種の垣根を超えた協働による、自己および組織成長の推進 組織、運営

(カ) 共に育ち、互いを認め合う組織づくり

(キ) 聖隷 DX の推進

関連項目：1-（ウ）-②、1-（ウ）-③、1-（エ）-③、5-（ア）-②

【数値指標】

サービス活動収益	9,185,000 千円	職員数	698 名		
外来患者数	555 名	外来単価	16,900 円	救急車受け入れ件数	4,500 件
入院患者数	300 名	入院単価	56,400 円	病床稼働率	81.7%
訪問看護介護保険単価	10,300 円	訪問看護介護保険訪問数	10,665 件		
訪問看護医療保険単価	11,100 円	訪問看護医療保険訪問数	3,285 件		

<地域における公益的な取り組み>

- ・ 無料健康相談会の開催
- ・ ひとり親世帯への生活必需品の無償提供（職員家庭からの募集品）
- ・ 寄付型自動販売機の設置

<無料低額診療事業>

無料低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い、基準 10%以上の実績を維持する

聖隷佐倉市民病院

2022年度は「ひとり残らずファンにするっ！」を合い言葉に、地域医療への貢献、より強固な経営基盤の確立を目指す。

【施設理念】

キリスト教精神に基づく『隣人愛』に立ち、患者本位のより良質な医療を求めて最善を尽くします

【経営方針】

1. 隣人愛の精神の継承と実践
2. 安全かつ迅速で適切な医療・看護の提供
3. 地域医療との連携、地域住民参画の医療
4. 創造的な変革を通し、効率的で安定した健全経営
5. 働きがいのある職場づくり

【事業・運営計画】

1. 地域医療に貢献し、信頼され、選ばれる病院づくり
 - (ア) 地域のニーズ（医療・保健・福祉）に応えられる病院づくり
 - ①新型コロナウイルスなど変化する外部環境に対し、医療従事者としての使命を果たす
 - ②予防から診断・治療、そして在宅医療、終末医療など利用者の求める医療提供
 - ③救急の受入を強化し、地域住民の急病に対応する
 - (イ) 利用者に優しい病院づくり
 - ①待ち時間対策
 - ②利用者の立場に寄り添ったコミュニケーション力の強化
 - ③職員がキャッチした利用者の声を活かせる仕組みづくり
2. 安心・安全で質の高いサービス提供
 - (ア) 医療安全体制の整備
 - ①全職員にむけての医療安全・感染対策についての情報発信・共有
 - ②医療安全対策（PDCA サイクル活用）および感染状況に応じた防御策の実施
 - (イ) 利用者が安心できる、質の高い医療サービスの探求
 - ①医療機能評価認定への取り組み
 - ②利用者に対する十分な説明と患者意思を尊重した医療の提供
3. 地域連携、院内連携により、地域に寄り添った No.1 の病院を目指す
 - (ア) 地域社会との繋がりをパワーアップ！
 - ①地域ニーズの把握と連携体制強化（紹介・逆紹介の向上）
 - ②各部門と外部（他医療機関・行政・利用者・協力会社）との連携強化
 - (イ) 病院一丸となったチームワークづくり
 - ①TEAM SAKURA（多職種協働）を活かしたタスクシェアリングによるチーム医療の推進
 - ②職員間のコミュニケーション強化
 - (ウ) 院内外に向けた情報発信力の強化

- ①当院の強みを発揮できるよう当院のトリセツ（当院利用方法）の再発信
 - ②聖隷ブランドをPRするための院内イベント企画および地域イベントへの参加
 - ③顔がみえる院内広報活動
4. この病院で働きたい、働き続けたいと思える環境づくり
- (ア) 職員にとって働きやすい魅力ある病院づくり
 - ①働き方改革のさらなる推進
 - ②出産・育児・介護などのライフイベントに対応した組織づくり
 - ③健康で働き続けるための健康経営推進（病院の魅力の再発見と周知）
 - (イ) 職員の成長を支援する
 - ①専門的知識・技術向上（研究発表や学術発表）のためのサポート
 - ②医療人としての職員教育の充実
5. 変化する外部環境に対応した持続可能な経営基盤の構築
- (ア) 経営基盤の強化
 - ①新たな取り組みによる利用者確保
 - ②診療報酬改定に対する適切な対応
 - ③戦略的なコスト管理
 - ④経営参画に寄与できる職員の育成
 - (イ) 外部環境の変化にも対応できる基盤づくり
 - ①大規模災害、新興感染症に対するBCPの策定
 - ②SDGsやDX化（ICT活用）への積極的な取り組み
 - ③医療圏での当院の役割の再検討（疾患別、手術別シェア分析等）
6. 地域における公益的な取組
- (ア) 生活困窮者の自立促進に向けたケースワーカーによる相談支援
 - (イ) 地域住民の病気予防・健康寿命延伸につなげるための市民公開講座の実施

【数値指標】

サービス活動収益	10,890,000千円	職員数	805.4名
外来患者数	830名	外来単価	14,500円
入院患者数	310名	入院単価	53,900円
病床稼働率	82.2%	健診受診者数	200名
訪問看護 訪問件数	5,880件	ケアプラン 請求件数	696件

せいれい訪問看護ステーション佐倉 / せいれいケアプランセンター佐倉

2021年度は新型コロナウイルス感染症に対するBCPの検討を開始し在宅における感染症対策及び整備を重点的に行い利用者、職員の安全・安心に努めた。2022年度は、ケアプランセンターの増員に伴い、教育体制の整備及び事業の拡大を目指していく。また、引き続き新型コロナウイルス感染症の状況に注視しつつ患者支援センターとの連携強化、病院から在宅へのスムーズな移行を目指すとともに行政機関とも情報交換を密に行い地域包括ケアシステムに参画していく。

＜無料又は低額診療事業＞

無料又は低額診療事業を行う施設として生活困窮者の支援を行い基準10%以上の実績を維持する。

浜松市リハビリテーション病院

2022年度は、聖隷福祉事業団の指定管理受託15年目を迎える。2021年度はコロナ禍において、この地域の医療を止めないよう感染状況に合わせた連携の要としてのリハビリテーション診療体制の維持に尽力した。引き続き感染対策を徹底するとともに、IT機器を有効に活用しつつ、2022年度も安心・安全なリハビリテーション医療を提供していく。

当院の特色である「えんげ、スポーツ、高次脳機能」の3つのセンター機能は年々充実し、全て浜松市医療奨励賞を受賞した。また臨床倫理について病院をあげて取り組んでおり、患者の自律を尊重した医療を展開している。これからはリハビリテーションにおけるリーディングホスピタルとして地域全体のリハビリテーションの質向上に寄与していく。また、先進機器を効率的に活用することでリハビリテーション効果を引き上げ、当院でしか受けられない医療を積極的に提供する。カンファレンスや患者説明の運用を見直し、利用者にとってタイムリーな情報提供の機会を充実させる。さらに、訪問診療の開始や就労・就学支援など退院後の生活適応期に必要なサービスを構築するとともに、地域との連携を具体的に進めていく。

「効果的・効率的なチーム医療体制の構築」を2022年度の継続目標とし、質的・量的に専門職が専門性を発揮できる環境を創っていく。これにより、職員の育成と満足度向上につなげ、職員一人一人が前向きに主体性を持って仕事ができることを目指し、「この病院で働いてよかった、ここで働きたい」と思ってもらえる環境をつくる。内部環境・運用面においても地域をリードできるリハビリテーション病院として存在感を持てるよう取り組んでいきたい。

【病院理念】

私達は、地域に根ざし、利用してくださる方々の尊厳と生活の質を尊重した、患者中心主義に基づく医療を提供します

【運営方針】

1. 多職種共働による、安全で科学的な根拠に基づく質の高い医療を提供する
2. 患者・家族のニーズに即し、個別性を重視した関わりを大切にする
3. 地域包括ケアを念頭に置き、幅広い連携体制を構築する
4. 健全な経営基盤を確立する
5. 職員の資質・技能向上に努め、人材確保とその育成に努力する

【回復期リハの基本姿勢】

地域と連携し“その人らしい”社会参加に向けて、個人の病態や生活環境に配慮したリハビリテーション支援を行う

【2022年度事業テーマ】

「リハビリテーションにおけるリーディングホスピタルを目指す！」

【2022年度 事業目標・年度重点施策】

1. 地域共生社会の実現に向けた連携の具体化
 - ① 訪問診療支援システムの構築
 - ② 地域のニーズに応じた入退院支援の充実
 - ③ 当院独自の社会復帰支援モデルの構築

2. 地域に期待される質の高いリハビリテーション医療の提供
 - ① 特色ある医療提供体制（えんげ、スポーツ、高次脳機能）の充実
 - ② 先進機器を活用したリハビリテーション医療の促進と評価
 - ③ 医療安全意識の高い風土の醸成
 - ④ この地域のリハビリテーション医療を止めない感染防御体制
 - ⑤ 倫理観を持った医療の展開

3. 効果的・効率的なチーム医療体制の確立
 - ① タイムリーなリハビリテーション医療の提供
 - ② エビデンスに基づいた予後予測による診療支援
 - ③ 利用者・職員に有益な情報共有ができる仕組み作り
 - ④ スタッフの実績が形となる環境整備

4. 安定した経営基盤の確立
 - ① 安定した病床稼働
 - ② リハビリ提供単位数の増加
 - ③ 介護保険事業の拡大
 - ④ 専門職が本来業務へ注力できる環境整備

5. 地域における公益的な取り組み
 - ① 健康寿命延伸に向けた取り組みの実施
 - ② 地域と連携した災害対策の強化
 - ③ 地域ニーズに沿った積極的な情報発信

【数値指標】

サービス活動収益	3,693百万円		常勤職員数	439名		
	外来	入院			介護	
		回復期	一般	合計	通所	訪問
患者・利用者数	134人/日	174人/日	40人/日	214人/日	719人/月	328人/月
単価	8,880円	42,500円	34,500円	41,000円	4,510円	8,900円
利用率		96.6%	88.9%	95.1%		

聖隷袋井市民病院

開設以来中東遠医療圏における後方支援病院としての役割を果たしつつ、この数年“退院後の生活の支援”にも注力し、地域包括ケアシステムの一翼を担うため発展し続けている。

2022年度は袋井市からの指定管理第2期最終年度であり、開設10年目となる。地域住民へのコロナワクチン接種を継続しながら、『地域NO.1』の回復期・慢性期医療を提供すべく進化を続ける。特にロボットを活用したリハビリテーションはこの地域で先駆的な取り組みとなり、本格的に訓練に応用していくことで身体機能向上や患者のモチベーション向上に寄与できると考えている。一般・回復期・療養病棟それぞれの特長を伸ばしていくこと、地域住民に認知されることで選ばれていくことのサイクルをまわしていきたい。コロナ禍では制限されることもあるが、これまで気づかなかったことを整えていくときでもある。医療の質の向上に注力し、期待される役割を果たし続けていきたい。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - (ア) 多職種で取り組む質改善活動の推進
 - ① 職場や委員会等の質改善に向けた取り組みの可視化
 - ② 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの向上
 - ③ 患者の利便性・満足度の向上
 - (イ) 多職種による安全な医療サービスの提供
 - ① 事故予防策の検討、実践
 - ② 院内感染管理体制の強化
 - (ウ) 地域における先駆的なリハビリテーション医療の充実
 - ① ロボットの活用を含めた特色あるリハビリテーションの提供
 - ② ボツリヌス療法や装具療法、嚥下入院の充実
 - ③ 高次脳機能障害への支援の充実

2. 地域包括ケアシステムの推進

(ア) 地域住民が自宅で最期まで自分らしく生活し続けるための支援体制づくり

- ① 退院後生活の支援（退院支援機能の向上、訪問診療の開始、訪問リハビリテーションの拡充、看護師による退院後生活のサポート）
- ② ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援

3. 人材の確保・育成および働きやすい職場環境づくり

(ア) 人材の確保と育成

- ① 採用困難職種（医師・看護補助者）の採用強化
- ② 障がい者の雇用促進
- ③ 専門性向上の支援

(イ) 働きやすい職場環境づくり

- ① 業務効率化の推進と労働環境の整備
- ② 両立支援制度の普及啓発、活用

4. 経営基盤の安定化

(ア) 病床稼働の安定化

- ① 入退院調整の強化
- ② 情報発信力の強化

(イ) 災害対策の強化

- ① BCP で課題とした項目の改善および対策

5. 地域における公益的な取り組み

(ア) 袋井市との協働と発展

- ① 地域における多職種協働（認知症初期集中支援活動、介護予防・健康増進活動、『こころのノート』普及）
- ② 地域に向けた啓発活動の実施

【数値指標】

サービス活動収益	1,667,150 千円	職員数	197 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	55 人／日	7,300 円	-
入院	131 人／日	28,300 円	87%
再掲（回復期）	43 人／日	36,700 円	86%
（一般）	42 人／日	26,200 円	84%
（療養）	46 人／日	22,300 円	92%

保健事業部

2021年度も新型コロナウイルス感染症の拡大による国の緊急事態宣言発出、外出自粛の状況等が継続し、上半期の受診控えに対する受診機会の回復に奔走する年度となった。保健事業部においては、市町の集団ワクチン接種及び企業・商工会議所等の職域ワクチン接種への積極的な支援を行い、地域住民の集団免疫の獲得と地域の経済活動の再開に貢献、社会福祉法人の使命を果たすことができた。今後も職員の感染対策の徹底を継続し、安心・安全に受診できる環境を維持する。

コロナ禍の継続が予測される2022年度は、経営方針である「利用者が安心して選び続ける保健事業部」をさらに推進する。「健診の入口から出口までの質を担保」することで「信頼・安心」を提供する「精度管理センター」の開設、SEIREI-CAREプログラム（遺伝性がん個別化検診）への取り組み等を皮切りに、2022年度は「新健診システムの稼働」により、新たな境地を切り開くスタートの年と位置付ける。健診システムの更新は、Web予約・Web問診（2022年10月開始予定）など利用者の利便性向上とともに、健診精度の向上にも貢献する。さらに、今まで人や紙で対応してきたものをシステムに置き換える効率的な運用により、法人の掲げる「聖隷DX」を具現化していく。

また、「巡回健診の平準化」への継続的取り組みや「健診コースごとの原価計算」の精度向上により、根拠ある数字をもとにした経営管理を促進する。「重症化予防」や各企業への「健康経営」の支援の取り組みにより、働く人の健康づくりや地域の健康寿命の延伸に寄与する。

「利用者に保健事業部（各センター）を選び続けていただく」こと、そのためには職員一人ひとりが、やりがいや誇りを持って業務に取り組むことが重要である。全職員が「利用者の目線」で経営に参画できる組織を目指し、以下の計画に取り組む。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. 利用者が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりが、やりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) 利用者の声を反映するしくみの構築（情報の収集・分析・発信）
 - (イ) 「重症化予防」の強化（保健指導・受診勧奨、地域専門医との連携強化）
 - (ウ) 利用者が納得できる結果説明の実施
 - (エ) 保健事業部の資源を活用した行政・企業等との協働による地域共生社会の実現
 - (オ) 利用者が主体的に関われる双方向コミュニケーションツールの検討
 - (カ) 安心・安全に受診できる環境の整備

2. 経営基盤強化のための取り組み
 - (ア) 利用者の獲得及びメニューの見直しによる収益増加
 - (イ) 契約内容見直し、巡回健診の平準化、コスト管理の徹底による費用削減
 - (ウ) ベンチマーク・原価計算等による採算性評価の精度向上
 - (エ) 聖隷グループ全体の資源の活用
3. 働き方改革への対応から人材の育成・確保
 - (ア) 自律した職員の育成
 - (イ) 人員配置の適正化の検証（業務効率化による費用削減の効果検証）
 - (ウ) 働きやすさ、働きがいづくりを実現する環境の整備
 - (エ) 保健事業部の専門性評価のしくみづくり
 - (オ) カスタマーセンター（苦情解決）設置の検討
4. 「健康経営」の実践と発信
 - (ア) 専門職による産業保健全般のコーディネート（医師・保健師・コンサル・測定士など）
 - (イ) テレワークの継続実施、ICTの活用等によるディーズセント・ワークの推進
5. データヘルス計画に向けて
 - (ア) 保険者・利用者の双方の目線に立ったデータヘルス改革の取り組み
 - (イ) マイナポータル対応とPLR（Personal Life Repository：個人生活録）の情報収集
 - (ウ) 個人ニーズに合った情報発信手法の検討（アプリの活用など）
 - (エ) データヘルス改革の拡大（生活習慣病への介入、労働衛生機関として集団へアプローチ）
6. 連携の強化
 - (ア) 事業部・施設・職場目標の共有による仕事の価値・働きがいの共有
 - (イ) 事業部内のさらなる情報共有・連携による、効率化と標準化の推進
 - (ウ) 事業団・グループ内の他事業部、他施設との連携を強化（「聖隷」の価値向上）
 - (エ) 他業種企業との共同事業の検討（企業退職者の継続的な健康管理、知財の発掘など）
7. 社会福祉法人の使命として地域共生社会の実現
 - (ア) 商工会議所会員事業所に向けた「健康経営」の支援
 - (イ) フレイル予防活動や健診弱者に対する支援を通じた地域貢献
 - (ウ) 聖隷クリストファー大学との連携（SGEプロジェクト等）と活動の拡大・水平展開

【数値指標】

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
65,307 名	201 名	528,306 名	11,506 名	93,096 名
特殊健診	精密外来	合計	サービス活動収益	職員数
51,756 名	40,940 名	789,192 名	8,793,000 千円	837 名

聖隷健康診断センター

2021年度も2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に苦慮した運営であった。その中で、人間ドック利用者の状況は2020年対比107.4%(11月時点)と改善傾向にあるが、施設内の「密」状態について、利用者から多数のご指摘をいただいた。受付(予約)時間遵守の運用、受付の婦人科フロアへの追加設置、女性のドック利用者の入館後直接誘導等の対策を実施した。また、婦人科フロアでは検査に先んじての問診実施、ニーズに合ったオプション検査の提案、より個人に合わせた人間ドック項目の提供ができた。今後は、ドック利用の全員に問診開始の運用とし、セミオーダー化を図る。

また、60歳以上の市民(人間ドック利用者)を対象に、筋力測定及び運動指導を追加する提案が浜松市ウェルネス推進事業に採用され、フレイル予防推進により地域貢献ができた。新型コロナウイルスワクチン施設内接種は、5月からのべ9,000回実施した。新型コロナウイルス感染症の対応とともに、「受診控え」をしている方々へ、地域と連携して健康診断の積極的な受診勧奨を行う。

2022年度は、新健診システムが稼働する。システムを効果的に活用しながら、利用者目線でのより良質なサービスの提供に向けて、職員一丸で取り組む。「滞在時間の短縮」は継続課題であり、人間ドックの“スピード化”を進める。自らの施設の「健康経営」に取り組み、適正な労働時間や労働環境への配慮を行う。

職員一人ひとりが「自分に余裕と自信をもって働くこと」を目指し、「やりがいを実感できる職場風土づくり」を継続して追求する。「地域で選ばれ続ける健診施設」として、接遇の強化はもちろんのこと、利用者ニーズに応え、相互に利益を感じられる「Win-Win」の関係を強化する。利用いただく一人ひとりが「自ら考える健康を実現」できるよう、最適な支援を行う。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【経営方針】

1. 利用者が安心して選び続ける保健事業部
2. 職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) ホスピタリティ向上を目指し、全ての利用者が安心して受診できる環境の整備
 - (イ) 個人に対応したオーダーメイドサービスの提供
 - (ウ) 重症化予防対策の促進
 - (エ) 顧客満足度(CS)を向上させる
 - (オ) 新健診システムの安定稼働と効果的な活用
 - (カ) 「新内視鏡センター」の開設検討

2. 経営基盤強化のための取り組み
 - (ア) 既存サービスの拡充と見直し
 - (イ) 費用削減の推進
 - (ウ) 外部資源を活用した事業展開の推進
 - (エ) 新しい検査の情報収集と対応
 - (オ) 情報発信の強化
3. 人材（人財）の育成と確保
 - (ア) 新健診システムに対応した適正人員の配置と検証
 - (イ) 欠員等不足人員の確保
 - (ウ) 経験や階層に応じた人材育成の促進
 - (エ) 多様な人材がやりがいを持ち働ける職場風土づくり
4. 「健康経営」の実践
 - (ア) 労働時間の適正化（超過勤務の削減・有給休暇の取得等）
 - (イ) テレワーク等を活用した勤務体制の構築
 - (ウ) 職員の心身の健康の保持及び増進
 - (エ) 職場環境・職員スペースの環境整備
5. データヘルス計画に向けて
 - (ア) マイナポータルの運用促進
 - (イ) 契約団体への「健康経営」の支援（データ提供等）
6. 連携の強化
 - (ア) 事業団内における情報共有、横断的な業務連携による「強み」の発揮
 - (イ) 医療保険者等の顧客と連動した保健サービスの提案
7. 地域における公益的な活動
 - (ア) 地域住民・団体等を対象とした健康啓発活動・イベントの開催
 - (イ) 行政と提携した活動への参画及び実施
 - (ウ) 地域の教育機関（大学・高校等）との連携

【数値指標】

ドック	PET 健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,692 名	201 名	50,345 名	4,005 名	23,675 名
特殊健診	外 来	合 計	サービス活動収益	職員数
2,640 名	18,478 名	126,036 名	2,526,000 千円	196 名

聖隷予防検診センター

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により変化する社会ニーズを見据え、新たな事業モデルの構築に挑戦しながら地域の課題解決を目指した年度となった。

国の施策である新型コロナワクチン接種事業を積極的に受入するとともに、季節や時間等に起因する繁閑の平坦化に向けた「ピークシフト戦略」を引き続き継続、待ち時間を軽減しながらも、3年前と比較し午後の利用数をほぼ倍増させることが出来た。また、産学官連携も積極的に推進、聖隷クリストファー大学との「SGEプロジェクト」では、浜松市とともに女性に向けたがん検診啓発活動を実施、コロナ禍で多くのがん検診の受診率が低下した中において唯一子宮頸がん検診は受診率が向上、市担当者より本プロジェクトの活躍がその一因であるとの評価を頂くことが出来た。あわせて健康食監修の事業化やオンラインによる重症化予防事業の構築など、新たな生活様式に合わせた事業モデルの開発も進んでいる。

そのような多忙な中でも、常に笑顔で現場に立ち続け、利用者視点を忘れずに最善を尽くすため奮闘した全ての職員に対し、この場を借りて心からの感謝を伝えたい。

2022年度、これまで以上の安心・安全なサービスの提供を目的に、新たな健診システムを導入する。職員一丸となって運用構築を進めているが、その一方で、新型コロナウイルス感染症をきっかけとした健診やがん検診の受診控えが顕在化している。受診控えは健康上のリスクを高める可能性があり、定期的な受診が生活習慣病の予防やがんの早期発見・早期治療につながることを、今まで以上に啓発していく。

2022年の干支である壬寅には「新たな動きが胎動し大いに伸びる」という意味がある。今後も利用者を選び続けていただくため、サービスの本質である「人が提供する温かみや優しさ」は大切に守りながら、エビデンスや利用者ニーズに基づく適切なサービスの提供を行っていく。

あわせて、新健診システム稼働後も利用者が安心・安全に受診できる環境の整備とともに、新健診システムを活用した効果的・効率的な事業展開を推進する。2021年度に引き続き、職員がワクワクしながらいきいきと活躍できる環境を提供し、「職員も利用者も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 全ての職員がいきいきと働くことができる職場づくりの実践（健「幸」経営）
 - (ア) 業務負荷軽減と効率化による生産性向上
 - (イ) ストレスチェックの組織集団分析に基づく事後措置の実施
 - (ウ) 定期健康診断後の再検査受診率の向上
 - (エ) 長時間労働の解消に向けた施策の実施
 - (オ) 職員の「ナイスプレー」の見える化

2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立
- (ア) 事業・運営計画に合わせた適正な職員数の配置
 - (イ) 地域・企業健診センターとのプラスの融合
 - (ウ) エビデンスと利用者ニーズに基づく適切なサービスの提供
 - ① 人間ドック・生活習慣病予防健診を中心とした新規顧客獲得
 - ② 初回利用者のリピート率向上に向けた取り組み
 - ③ 新たなオプション検査の提供
 - (エ) 職員全員に向けた「経営指標の見える化」
 - (オ) 新健診システム稼働後も利用者が安心・安全に受診できる環境の整備
3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供
- (ア) 利用者満足度の向上（ワンランク上の「おもてなし」を目指して）
 - ① 利用者の滞在時間短縮
 - ② オンライン予約の環境整備
 - (イ) 利用者、企業、行政等、全てのステークホルダーの課題を解決
 - ① 重症化予防対策の推進
 - ② 聖隷関連施設との有機的連携
 - 病院・高齢者施設等の利用者情報を活用した「医保」「介保」連携の推進
- ※「医保」：「医≡病院」、「保＝保健事業部」
 「介保」：「介≡高齢者施設」、「保＝保健事業部」
4. 次世代を担う人財の育成
- (ア) 入職1年目から中堅職員に向けた効果的なOJTの実践と評価
 - (イ) 中堅職員に向けたボトムアップの仕組みづくり
 - (ウ) 係長に向けたスキルアップ機会の提供
5. 地域における公益的な活動
- (ア) 地域住民・団体等を対象とした健康啓発活動の実施

【数値資料】

ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
20,940名	33,800名	3,510名	16,610名	1,920名
外 来	合 計	サービス活動収益(地域含む)		職員数
12,310名	89,090名	4,139,000千円		160名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2021年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*(以下サポートセンター)は、開設11年、聖隷静岡健診クリニックの充実を図り、静岡県中部圏内への巡回健診事業の展開を進めてきた。しかし、新規受注した地域がん検診が、コロナ禍による受診控えの影響で、予定数の半分にも満たない受診者数となるなど、地域巡回健診での落ち込み等が大きかった。新型コロナウイルスワクチン接種については、静岡市中山間地区住民に対しては、現地にて集団接種を実施、また施設内では近隣事業所の職域接種を実施するなど、地域・職域に貢献ができた。また、サポートセンターでは「健診機関併設婦人科外来」の強みを生かし、予防医療、プレコンセプションケア(注1)に特化した仕組みを地域に先駆けて構築し、12月より運用を開始した。

2022年度は、①巡回健診部門：1方向の追加・検診車2台の追加等による静岡県東部(富士・富士宮等)及び山梨県への進出・拡大、②聖隷静岡健診クリニック：近隣事業所や静岡市住民へのPR活動による閑散期をなくす取り組み、③サポートセンター：閑散期対策やリピート率アップ施策の実施・OP検査等追加による単価アップの取り組み等を図る。

サポートセンターは、さまざまな情報をいち早く収集、対応し、「選ばれ続ける総合保健施設」として、静岡地区で最高の質の保健・医療サービスを提供するため、“職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織”をさらに目指していく。

(注1：「妊娠する前からのケア」という概念。妊娠前の生殖年齢の女性に医学的・行動的・社会的な保健介入を行なうこと。病気の予防と健康管理を通じて女性の健康状態を改善していくことを目的とする。)

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

(ア) 利用者ニーズに合ったサービスの提供

- ① 顧客満足度調査の継続と改善策の実施
- ② ニーズに合った専用デー(メンズ・夫婦・高齢者等)の開催検討
- ③ 混雑緩和を軸とした感染対策の徹底
- ④ 健康維持増進をサポートする取り組みの推進
- ⑤ IAレポートの分析の徹底及び迅速な改善

(イ) サービスの質を維持するための設備投資

- ① 医療機器設備の計画的な更新
- ② 新システム導入後の効率的で安定的な運用構築
- ③ 立地条件を強みとする聖隷静岡健診クリニックの環境整備

(ウ) ストレスチェックの検証・フォローまで含めた包括的なサービスの提案・提供を行う

(エ) 地域や企業等からの依頼の講演会・取材への積極的な協力体制の構築

2. 経営基盤強化と新たなサービスの創造

(ア) 効率性を高めた巡回健診の実施

- ① 契約事業所の「原価計算」管理の実施と「平準化」の推進
- ② 巡回健診支援システム導入後の運用構築と費用の削減
- ③ 労働安全衛生法の検査項目を省略する企業に対するコンプライアンス遵守の案内

(イ) より多くの利用者を受け入れるためのサービスの向上

- ① 各種健診・外来予約の利用率の向上
- ② 午後ドック導入の検証
- ③ 閑散期ドック受診への誘導
- ④ 魅力あるオプション検査の積極的導入

3. 人材育成・確保

(ア) 係長や中堅職員の次世代リーダー育成

(イ) 従業員満足度 (ES) の向上を目的とした施策の強化

(ウ) 目標を明確化し一体となれる組織づくり

4. 健康経営の実現

(ア) 職員一人ひとりが働きやすく、職員がやりがいや誇りを持って働ける職場づくり

(イ) ビジョンの共有化

(ウ) 職員超過勤務時間削減

(エ) 衛生委員会を中心とした職員の健康意識の向上

- ① 職員ドックにおける結果説明受診率 100%とする
- ② 職場別ストレスチェック分析及び職場環境改善の提案と実施

5. データヘルス計画に向けて

(ア) 医療保険者・利用者目線に立ったデータヘルス改革

(イ) マイナポータル対応の体制整備 (パーソナル・ヘルス・レコード、特定健診、がん検診等)

6. 連携の可視化

(ア) 静岡県立大学・厚生労働省等への研究協力の継続による地域公益活動の実績づくり

(イ) 医師会・浜松医科大学・地元総合病院・行政との連携強化

(ウ) 事業部内外及び関連法人施設との密接な連携 (渉外活動・人的協力等)

7. 地域共生社会への取組

(ア) 地元とのつながり強化を目的とした自治会の地域のイベントへの継続参加

(イ) 過疎地域における健康診断の実施継続・拡大

【数値指標】 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka*

1日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
17,675名	115,917名	2,071名	19,203名	8,207名
外来	合計	-	サービス活動収益	職員数
10,152名	173,225名	-	2,028,000千円	177名

(医療事業収益内訳) 聖隷健康サポートセンター *Shizuoka* 1,225,430千円

巡回健診事業 462,910千円 ・ 聖隷静岡健診クリニック 291,660千円

地域・企業健診センター

2021年度は、「新型コロナ感染症への取り組み」「巡回健診の平準化」「接遇の強化」の3点を重点目標として、「職員が働きやすい環境」と「安心・安全で質の高い巡回健診の提供」に取り組んだ。「新型コロナ感染症への取り組み」では、地域における公益的な取り組みとして、近隣市町のワクチン集団接種（磐田市・袋井市・焼津市・島田市）及び職域接種を積極的に受託し、85,653人に対し接種を行うことが出来た。

また関連法人である聖隷沼津病院・聖隷富士病院と取り組んだ人的資源の有効活用施策や2022年度からの静岡地区への大口契約先移行計画の推進等、事業部内外施設との連携により、利用者サービスの質を高めながらも、職員が働きやすい組織づくりにつなげることが出来た。その他、静岡県および静岡社会健康医学大学院大学からの受託事業である「賀茂地区コホート研究」への参画や、島田市住民健診の継続受託の獲得など、経営基盤の安定に寄与できた。

2022年度は、職員が働きやすく、そして働きがいのある組織風土の醸成に向けて、職員が一丸となり取り組むことで、質の高いサービスの提供と経営基盤の安定の両立を図る。質の高いサービスの提供では、巡回健診の品質向上のために「質の保証」と「接遇の強化」に取り組んでいく。経営基盤安定に向けた取り組みでは、巡回健診の生産性向上のための「巡回健診の平準化」、「現有資源（配車・人・機材等）の有効活用」、健診契約ごとの「原価計算等の採算性評価」のさらなる推進と評価、新規契約団体に向けた円滑な健診実施、コロナ禍に伴う「受診控え」に対する未受診者対策（被扶養者・ファミリー健診含む）の拡大等を、戦略的に展開する。

法人の課題である「聖隷DX」推進については、4月より更新する「新健診システム」の安定稼働や新たに導入する巡回健診システムによって、「人的作業」から「安全で効率的なシステム」への置き換えを促進し、契約から健診実施後フォローまで、利用者の視点からも満足頂ける高品質なサービスの提供体制を構築する。

そして、2021年度に職員とともに定めたセンターのモットー『あしたの元気をおてつだい』を全員で共有し、職員の働きやすさ、働きがいの追求、「仲間を大切にする風土」づくり等に取り組む、働く仲間・利用者・事業所・地域とともに、「一人ひとりの健康（幸）」の実現のため、質の高い選ばれる巡回健診を目指していく。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1. 利用者の目線に立った質の高いサービスの提供
 - (ア) 巡回健康診断の品質向上（質の保証・接遇の強化）
 - (イ) 新健診システムの安定稼働
 - (ウ) 契約内容の見直し・受診機会の提供（新規・既存契約）
 - (エ) 巡回健診支援システムの新規導入による精度の向上
 - (オ) 危機管理能力の向上（感染対策・医療事故・災害対策・ISMS等）

2. 経営基盤安定のための取り組み

(ア) 戦略的事業拡大

- ①住民健診の契約・継続（新規・既存契約）
- ②行政が推進する事業への積極的関与
- ③未受診者対策・被扶養者健診・ファミリー健診の拡大

(イ) 巡回健診の生産性向上

- ①「巡回健診の平準化」、「現有資源の有効活用」の推進と評価
- ②健診契約ごとの原価計算等による採算性評価の精度向上

(ウ) 他施設とのプラスの融合

- ①聖隷予防検診センター及び他施設との効率的な業務応援体制の構築

(エ) 事業所ニーズに合わせた産業保健活動の推進

3. 次世代の育成と働き方改革

(ア) 「仲間を大切にする風土」の醸成（職員間の礼節）

(イ) 職員への継続的なモチベーション向上及びキャリア支援の継続

(ウ) 専門職による渉外部門の教育（営業ツールの活用・評価）

(エ) 健康経営『ディーセントワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進』

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 各地域の健康フェスティバル等への参画

【数値指標】

一般健診	予防接種	婦人科健診	特殊健診	合計	職員数
314,644名	13,600名	33,608名	38,989名	400,841名	180名

在宅・福祉サービス事業部

社会は未だ様々な制限の中で活動している。利用者における身体や心的な影響はあまりに大きく、今までの支援や援助の枠組みでは支えられない福祉ニーズや利用要望を生み出している。また、これを支える職員にとっても仕事の側面での制限に加えて私生活面での制限や自粛によって、心理的な圧迫を感じながら業務にあたっている現実がある。

事業部では国の方向付けと一致させる形で不足する介護人材確保を女性の活躍、外国人、障害者、高齢者に求め、2019年からは福祉の生産性向上を意識し、業務の切り出しを行い、2020年からは現場改革として業務のICT化に取り組んできた。2021年はそれに設備が実装され、2022年はいよいよ本格稼働を開始することとなる。私たちの仕事は加速度的に変化する。しかし、これを受け止めるべき現場(利用者、職員)のモチベーションとリンクして動かねば効果的とは言えない。聖隷が進めるDX(デジタルトランスフォーメーション)は単なるICT機器の導入であってはならない。利用者や職員にとって変化・改革すべきものに対して自動化を図っていくものでなくてはならないと考える。

事業部では2022年の大きな事業として静岡県立浜松学園の委譲を受ける。何らかの障害または課題を持つ方たちに対してICT機器が利用者の支援ツールとなることを目的に、仕事の変革、自動化、機械化を図る取り組みを行う。活動の全てが利用者に向けられた支援として仕事の仕組みを変えることがテーマとなる。

2022年度においてもコロナ禍での制限ある生活と活動は続く。この最中で現場(利用者、職員)のモチベーションを確認し、真に進めるべき変化が利用者に向けられているか確認し、ダイナミックに現場改革を進めることとしたい。

【事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【中期事業計画における事業部目標】

私たちの仕事は自動化される

Society5.0時代を見据えて全てが繋がり、共有され、新たな価値が生まれる

【2022年事業部目標】

現場改革 thirdstep

現場のモチベーションを確認して、働き方を改革する

多様な人材が活躍できる職場づくりを目指す

時間意識を高め、健康を確保する

福祉の生産性向上を意識し、価値を生み出す

【2022年重点目標】

1. 業務の ICT 化を進める

- ①現場の職員、利用者の視点に立って自動化すべき点を改めて見直し点検する
- ②ICT化する業務が単にマニュアルに従うものでなくストレスを基本とする
- ③エリア（静岡・関東・関西・奄美）の実情に応じた ICT 化を進める
- ④分野（介護・障害・保育・福祉）の実情に応じた ICT 化を進める
- ⑤職能（介護・看護・相談・就労・事務）の実情に応じた ICT 化を進める

2. ICT 化で生まれる改善効果を、支援や仕事の仕方に生かす

- ①職員にとってのメリットは何かを確認して導入、活用する
- ②利用者のご家族にとって無機質なサービスであってはならない
- ③地域にとって安全安心のサービスであり、価値あるものとして理解して頂く
- ④多様な職員（外国人、障害者、高齢者等）に対して理解し易い仕事になる
- ⑤取り組みを通して生み出す価値が、誰かの利益となる

3. 成長する

- ①目に見える事業拡大の方向から目に見えない情報拡大の時代へ視点を変える
- ②エリアを軸に分野を超えた横断的な福祉を目指す
- ③エリアを軸に事業を超えた横断的な福祉を目指す
- ④職員に対して成長が実感できる学習機会の提供に努める

4. エリア制の主体性を発揮する

- ①エリア組織における統括所長の主体性を重んじ、連携し合議する
- ②エリアにおけるスーパービジョンがある
- ③エリアにおける職員の健康管理を重んじ、職員確保にも努める
- ④管理会議の位置づけはエリア会議、統括所長会議での議論を重んじた組織とする

5. 介護、看護、障害、保育における各システムの本格導入と新規導入

- ①LIFE に対応する ICT 入力支援デバイスの導入を拡大する
- ②入所者募集機能強化の為、待機者情報をやりとりできるシステムの導入の検討
- ③WELMO 社の「疾患を重視した次期 AI ケアプラン」の開発協力と本格導入
- ④訪問予定調整ソフト「ZEST」の導入事業所の拡大
- ⑤訪問介護システム「けあピアノート」の勤怠管理機能の強化、更なる利用を促進
- ⑥森町愛光園でナースコール設備更新に合わせて行う見守りシステム導入を検討
- ⑦高齢者、障害システムの契約更新年度であり、システム更新に合わせ機能の見直しを行う

6. 主な施設整備、取り組む事業

- ① 浜松学園の静岡県委譲に伴う新規事業への取り組み
(事務センター、ランドリー工場、菓子工場、生活介護、ショートステイ事業他)
- ② 横須賀愛光園の大規模修繕工事、ICT化事業、看護小規模多機能事業の取り組み
- ③ 浦安市との浦安特養、ケアハウスの指定管理における見直し協議
- ④ 児童発達支援センターかるみあ和合開設による建設工事
- ⑤ 磐田市、静岡県との東部幼稚園委譲に伴うこども園・支援センターの協議
- ⑥ 浜松市生活困窮者支援事業における一時生活支援事業の開始
- ⑦ 訪問看護ステーションの事業所拡張(住吉第二)、サテライト開設(住吉)
- ⑧ 労務業務における障害者就労への取り組み

【静岡第1エリア】

- ① 児童発達支援センター開設に向け、医療的ケア児等をサービス横断的に支援するための組織体制の検討、利用者確保を進める
- ② 訪問看護ステーション住吉におけるサテライト開設、並びに訪問看護ステーション住吉第二の事務所拡張を進め、新たなエリア展開、利用者確保を図る
- ③ 聖隷ケアセンター初生の給食自営化を進め、新たな食事提供方法の確立と専門職の働き方を刷新する
- ④ 「浜松市一時生活支援事業」を浜松市生活自立相談支援センターつながりにて受託し、生活困窮者をこれまで以上に漏れなく支援する
- ⑤ 事業種別に応じたシステムを実装し、業務省力化を図るとともにスタッフのモチベーションが向上する働き方を追求する

【静岡第2エリア】

- ① 医療・福祉・介護の関係者が協働しての地域での個別支援に積極的に参画し、浜松市北区内の地域連携体制に貢献する
- ② 民営化となる浜松学園の経営基盤の安定化に努める
- ③ 浜松市三ヶ日地区における新たな社会資源の開発に寄与する

【静岡第3エリア】

- ① ICTの導入・活用を浜北愛光園・森町愛光園が連携して行いケアの質向上を図る
- ② 聖隷袋井市民病院をはじめ関係機関との連携を強化し、袋井市の利用者獲得を図る

【関東第1エリア】

- ① 浦安市と次期指定管理契約を期限とし将来計画の協議を行う
- ② 訪問看護ステーション浦安、稲毛海岸サテライトの一体化について検討する
- ③ 同地区における経営管理組織の強化を行う

【関東第2エリア】

- ① 大規模修繕工事、ICT設備設置工事、看護小規模多機能開設等、一連の工事を実施し、横須賀愛光園の事業価値を高める
- ② 短期入所1床を入所枠となる協議を行い、稼働率を高める

【宝塚第1エリア】

- ①ICT 関連業務と既存業務との連携を、職員の業務改善に繋がる内容に深化させる
- ②厨房委託見直しに伴い食事サービスの標準化と、新たな食事提供形態を確立する
- ③宝塚すみれ保育園閉園後における就労支援事業所開設に向けて企画準備する
- ④在宅・入所施設利用の希望者へ、聖隷の事業所展開・取組内容を見える化する

【宝塚第2エリア】

- ①在宅事業と施設が協働した支援の強化により、利用者確保を図る
- ②見守りシステム等の導入PJを進め、既存業務や体制の見直しを行う
- ③各事業や階層に応じた育成や現場改革によるモチベーションの向上に努める

【淡路エリア】

- ①見守り機器導入及び通信環境整備を実施（淡路栄光園、聖隷カーネーションホーム）
- ②聖隷カーネーションホームにおいて短期入所事業の増床を協議する
- ③聖隷こども園夢舞台の運営課題を洗い出し将来ビジョンをつくる

【奄美エリア】

- ①在宅事業の強化を重点施策とし、事業の見直し再編を検討する
- ②利用者の受入れに限界を生じているのぞみ園の拡張について検討する
- ③エリアにおける職員育成を緊急の課題とする

【保育浜松エリア】

- ①かるみあ和合の移転新築に向けた利用者確保と準備を行う
- ②聖隷こども園桜ヶ丘の魅力発見PJにより施設運営の見直しを図る
- ③保育業務支援システムの見直しを行い新システムへの移行を準備する

【保育磐田エリア】

- ①東部幼稚園委譲に伴う事業計画策定と磐田市・静岡県への協議を進める
- ②磐田市子育て支援センター受託に向けた協議を進める
- ③磐田市の取り組む発達障害児こどもカルテへの協力を行う

【保育宝塚エリア】

- ①宝塚市より運営委託されている児童館の事業見直しを行う
- ②逆瀬川あゆみ保育園の運営課題を洗い出し将来ビジョンをつくる

【運営管理部】

- ①現場を知ることが職員育成に努める
- ②労務業務の一部委託化に加え、障害者就労との業務連携に挑戦する
- ③施設に対する業務支援を見直し、サポート機能の強化を目指す

和合せいれの里

特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき
障害者支援施設みとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター
聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷こども発達支援事業所かみあ和合
聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき
浜松市中障がい者相談支援センター 聖隷ヘルパーセンター
聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症を恐れるだけではなく、如何に利用者や家族、地域の方々の日常を取り戻していくかの検証と実践を重ねてきた。職員も自己管理を行い、感染症を持ち込まない対策を徹底した結果、施設内での感染症拡大は阻止できた。

また、2021 年度は介護保険事業・障害福祉サービス事業ともに報酬改定が行われ、特に、介護保険制度は LIFE へのデータ提出等、実践しているケアの科学的根拠を問われる仕組みに舵を切られた。その中、我々は何のために事業を行っているのかを改めて自問し、それぞれの専門職が目指すべき方向性を確認することで、より質の高いサービスの提供や適切な加算算定に意欲的に取り組むことができた。同時に、介護・福祉等のプロフェッショナルがプロフェッショナルとしての業務に専念できるよう記録システムや見守り支援システム等の ICT 機器を導入し、職員の働き方を刷新する基盤整備を行った。あわせて、6 月に児童発達支援事業所を開設し、障がいを持ったこどもの支援強化も図った。

2022 年度は、2021 年度の流れを継承し、利用者や家族、地域の方々の「やりたいこと」とサービス提供主体となる我々の「やりたいこと」を合致させることができるように、各事業所の特性や能力を繋ぎ合わせ、その方のライフステージに応じた適切な支援を切れ目なく提供できる体制を構築し、和合せいれの里がこの地にある意義を今まで以上に顕在化していく。

【施設理念】

和合せいれの里の全事業所および全職員は、和合せいれの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、ライフステージの変化に応じた切れ目のない支援体制の構築を目指す
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職のキャリアアップを促進しながら、AI、ICT、ロボット等の機器やシステムの具体的な活用を図ることで、専門職としてのやりがいを創造する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割等を果たし、地域貢献に取り組む

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた切れ目のない支援体制の構築

- (ア) 地域ニーズに合致したサービスを計画的に創造、拡充していく
(訪問看護の浜松市西区展開、児童発達支援事業所の定員増加・センター化の準備 等)
- (イ) 高齢者福祉事業と障害者福祉事業、施設サービスと在宅サービスという制度の枠を超えた切れ目のない支援体制を構築するとともに、地域への周知に努める
(障害福祉サービス部門の管理・支援体制の構築、会議体制の再編 等)
- (ウ) 事業種別を超えた協議を重ね、地域課題を見通す能力（マーケティング力）を醸成する

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、利用者の状態変化に早期に気づき、対応することで状態悪化を抑制していく
- (ウ) 支援困難な方や医療ニーズの高い方等の受け入れを積極的に検討、実践していく。あわせて、稼働率を意識した受け入れの徹底を図る
- (エ) 個別性にフォーカスしたケアに努め、利用者の生きがいややりがいを創造する
- (オ) 利用者の生活を見つめなおし、より適切な認知症ケア、看取りケア等の提供に努める

3. 新たな働き方・やりがいの創造

- (ア) 資格取得や関連研修等の受講を促進し、専門性の向上を図る
- (イ) 次世代リーダーの育成に注力する
- (ウ) 根拠を持ったケアが実践できるように、プリセプター制度等の OJT 体制を再構築するあわせて、画一的な育成システムではなく、多様性に対応できるシステムを創造する
- (エ) 業務仕分けを進め、高齢者・障害者・子育て世代等の雇用を促進する
- (オ) 記録システムや福祉機器等の活用を図り、業務の効率化並びに業務負担軽減を目指す

4. 運営安定化の推進

- (ア) 2023 年度の児童発達支援センター開設に向けた計画的な投資を図る
- (イ) 施設・事業所の継続性を意識し、新たな価値を生み出す計画的な購入、改修を図る
- (ウ) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る
- (エ) 水光熱費、消耗備品の購入、及び外部委託業者の契約状況等を評価し、適正化を図る

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 静岡 DWAT メンバーを中心に、地域の避難訓練等に参加し福祉施設の役割理解を促す
- (イ) 小中学校や介護未経験者、近隣企業等を対象に、情報発信、介護相談、研修会開催等を通して、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する
- (ウ) 学習支援事業へ聖隷キッチン和合の弁当配食を継続する
- (エ) 河川里親制度に登録し、隣接河川の環境美化活動を継続する

【数値指標】

■高齢者入所・通所事業

	和合愛光園			和合 サテラ イト	和合愛光園 デイサービスセンター			やま ぶき 生活 支援 ハウス
	特養入所		短期		通所介護			
	従来型	ユニッ ト型	従来型 (障害)	ユニッ ト型	一般型 介護	予防	認知症 対応型	
利用者定員	62名	40名	20名	29名	50名		12名	5名
利用者延数	22,174名	14,112名	6,510名	10,402名	7,862名	757名	2,564名	365名
一日平均利用者数	60.8名	38.7名	17.8名	28.5名	25.4名	2.4名	8.3名	1.0名
稼働率	98.0%	96.7%	89.2%	98.3%	55.6%		68.9%	20.0%
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	310日		310日	365日
単価（一人一日）	12,179円	14,714円	12,181円	14,634円	10,500円	6,000円	14,000円	—
サービス活動収益	281,591 千円	207,644 千円	79,969 千円	152,230 千円	89,904 千円		35,899 千円	6,204 千円
正職常勤換算数	34.3名	25.0名	9.4名	14.7名	6.5名		2.5名	0.2名
パート常勤換算数	7.4名	3.8名	1.5名	6.1名	11.8名		4.2名	1.2名

■障害者入所・通所・相談事業

	聖隷トライサポート 和合		障害者支援施設 みるとす			相談支援 くすのき	中障がい者 相談支援 センター
	介護 予防	共生型 機能訓練 生活介護	施設入所 生活介護Ⅰ	生活介護 Ⅱ	短期 入所	特定 児童	浜松市 受託
利用者定員	40名(午前・午後・1日)		20名	20名	2名	—	—
利用者延数	11,380名	2,026名	7,130名	6,160名	1,095名	1,758名	—
一日平均利用者数	36.8名	6.6名	19.5名	20.0名	3.0名	—	—
稼働率	72.3%		97.7%	100.0%	150.0%	—	—
稼働延日数	309日		365日	308日	365日	—	—
単価（一人一日）	6,621円	8,597円	18,370円	14,565円	8,900円	—	—
サービス活動収益	92,747 千円		134,017 千円	89,721 千円	10,259 千円	33,203 千円	43,634 千円
正職常勤換算数	11.2名		14.2名	7.0名	—	5.0名	4.0名
パート常勤換算数	6.4名		4.5名	10.7名	—	0名	※3.0名

※他法人出向受入

■就労支援・障害児通所支援事業

	聖隷チャレンジ工房和合				はなえみ和合		かるみあ和合
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	放課後等デイサービス		児童発達支援
					学校日	休校日	
利用定員	10名	15名	10名	—	20名		20名
利用者述べ人数	2,672名	4,570名	2,430名	62名	3,488名	703名	5,247名
一日平均利用者数	9.6名	16.4名	10.0名	—	17.2名		21.1名
稼働率	96.1%	109.6%	100.0%	—	86.2%		105.4%
稼働日数(延べ)	278日	278日	243日	—	202日	41日	249日
単価(一人一日当り)	8,579円	8,312円	7,617円	—	7,257円	8,051円	13,724円
サービス活動収益	28,747千円	47,035千円	48,276千円	2,040千円	32,641千円		74,965千円
正職常勤換算数	7.9名				4.5名		8.4名
パート常勤換算数	15.4名(うち、A型利用者7.6名)				2.8名		3.0名

■訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

訪問看護ステーション 住吉	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	219名	1,123件	13,483件		9,803円		135,309千円	22.6名	
聖隷ヘルパーセンター	介護給付		予防給付		単価		サービス活動収益	常勤換算職員数	
	平均利用者数	訪問件数		利用者		介護(時間)			予防(時間)
		月間	年間	月間	年間				
62名	716件	8,589件	30名	381名	4,229円	3,926円	65,284千円	8.9名	
聖隷ケアプランセンター和	年間請求件数			平均単価			サービス活動収益	常勤換算職員数	
	介護	予防	予防A	介護	予防	総合A			
	3,130件	120件	120件	19,100円	3,700円	3,700円			44,017千円
地域包括支援センター和合	浜松市受託収入		予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価	サービス活動収益	常勤換算職員数		
	31,270千円		3,660件	2,880件	4,471円				
	日常生活支援総合事業の予防プラン								
	種別	ケアマネジメント請求件数	うち再委託件数	ケアマネジメントプラン単価	58,175千円			7.5名	
	ケアマネジメントA	2,220件	1,710件	4,471円					
ケアマネジメントB	132件	0件	3,246円						
ケアマネジメントC	48件	0件	324円						

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生

2022年度は、2021年度の取り組みをさらに進め、特に私たちの提供するサービスが「科学的根拠を持った生活支援サービス」であることを踏まえて、ケア内容一つ一つにそれらが活かされるようにすると同時に、災害時や新型コロナウイルス等感染症まん延時においても事業が確実に運営されるように、引き続き取り組んでいきたい。2022年度は、厨房の自営化、完全調理品の活用に取り組み、今までにない食事提供体制を構築し、栄養管理体制強化に重点的に取り組み、地域とも連携した新たな栄養管理体制を構築したい。また、積極的に当センターの事業を地域にアピールし浸透させていくために、SNS等を積極的に活用していきたい。それは、「安心安全で必要不可欠なサービス」として、各事業が継続できるための組織を拠点として構築・深化させていくことに他ならない。

当センターは、地域においては小さな拠点であるが、2022年度も大きな期待を受けて一人一人の職員が、事業を継続していくことの責任を意識し、担い手として積極的にサービスの質の向上に貢献できるよう取り組みを進めていく。世代等に応じた多様な働き方、多様な役割、価値観を踏まえ、各々が目標をもってスキルアップし、全ての人にとって「笑顔があふれ、人が集う場所」となることを2022年度も目指していきたい。

【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続ける

【経営方針】

1. 事業所全体の危機管理意識を高め、どのような状況下でも、安心して利用継続できるサービス提供体制を構築し、PDCAサイクルを推進する。
2. センター全体で「自立支援ケア」「重度化防止」の実践に確実に取り組み、エビデンスに基づく科学的介護を推進する姿勢で、利用者の生きがいを支援する。
3. センター全体で、要介護利用者の意思決定を常に支援し、「看取りケア」「認知症ケア」の質を高め、人生の最期まで望む生活が実現できるよう取り組む。
4. 職員ひとりひとりの成長を促し、世代や役割に応じたやりがいと成果を実感できる経営を行う。

【事業・運営計画】

1. いかなる時も事業が継続できるように、個々の職員の防災力、感染症対応力を高め、予防的対策、発生時対策、発生後対策が滞りなく実施できる。
 - (ア) 日常的なスタンダードプリコーションの徹底及び抗原定性検査の実施等、迅速な感染症対応ができるようにさらに仕組みを整える。
 - (イ) ビジネスチャットアプリケーションを活用し、非常時の迅速な情報共有と指示の徹底対応できるように、さらに仕組みを整える。
 - (ウ) 地域と、非常時の相互支援体制が構築できるように、運営推進会議等を活用していく。

2. 「自立支援ケア」「重度化防止」を確実に実践し、最期まで利用者の生きがいを支援する。

(ア) 通所介護利用者本人の意思に基づいた様々な活動への参加を支援する。

- ① 事業所独自に業務支援ソフトを活用し、必要でかつ効果的な機能訓練、口腔ケア、栄養ケアに負荷なく取り組み、利用者の「心身機能の維持向上」に努める。
- ② 通所利用目的を常に意識し、社会的自立支援として、ICF の概念に基づいて「利用者が求める活動」を明らかにし、本人の可能性を引き出すことでそれぞれの「社会参加」を実現する。
- ③ 自営厨房体制を構築し、事業所に管理栄養士を配置することで、栄養マネジメント体制を強化する。
- ④ 食事提供をメインに据えた保険外事業提供等、事業所の独自の取り組みを検討し、利用者の在宅生活継続に貢献する。
- ⑤ 送迎車両の小型化、移乗移動支援機器の導入、インカム機器の活用等職場環境整備を進め、職員の負担軽減と生産性向上に努める。

(イ) 小規模特養入居者本人の意思、本来の姿に沿った生活を実現し、重度化を防止する。

- ① 介護士が、看護師、管理栄養士、セラピスト等専門職と積極的に協同し、より質の高い口腔、栄養、排せつのケアに取り組めるよう、ヒト、モノの環境を整備する。特に、自営厨房体制を構築し、事業所に管理栄養士を配置することで、体の基本となる栄養管理体制を強化する。
- ② 移乗介助や立位保持をサポートする機器の活用を進め、入居者、職員の介護負担軽減に努める。2021 年度構築した独自の Wi-Fi アクセスポイントを活用し新たな見守りシステム等を導入するなど、介護分野の ICT 化をさらに進める。
- ③ ビジネスアプリケーションを活用した利用者家族との情報共有、新規入居希望者の獲得に取り組む。
- ④ 穏やかな終末期を迎えるために利用者本人、家族と「人生会議」を行い、意向に沿ったケアが実現できるように、職員に対して、年間通じて効果的な研修を実施する。
(もしバナゲームの活用 (もしものための話し合いゲーム))

3. 通所介護、小規模特養それぞれにおいて「認知症ケア」の質を高め、利用者の意思決定を支援し、望む生活の実現に取り組む。

(ア) ケアセンター全体で、認知症の利用者とのコミュニケーションスキルを引き続き高める。

- ① オンライン研修を活用し全職員が「ユマニチュード」のケア技法を身につける。
- ② 「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」をふまえ、認知症利用者との「会話」を取り戻し、「想い」を理解する。

(イ) 通所介護における認知症利用者の対応力を向上させる。

- ① 積極的に外部の研修、実習等の機会を得る。認知症初任者・実践者研修の受講をさらに進める。
- ② MCI チェックリストの活用、プログラム「寺子屋」の充実や脳機能活性化トレーニングに取り組む。

- (ウ) 小規模特養入居者における認知症利用者への対応力を向上させる。
- ① 認知症実践者研修、リーダー研修の受講を積極的に進め、認知症ケア加算算定を目指す。
 - ② 生活総合機能改善機器「フリーダム」の回想法メニューや脳機能活性化プログラム等を活用し、個々の認知症利用者の機能訓練に取り組む。
4. サービス・プロフィット・チューンの概念を活かした事業所づくりを今年もすすめる。
- (ア) 人が自然と集まり、成果が実感できる組織づくり(自然と笑顔が生まれる組織作りをさらに目指す)
- ① 職員の満足度を上げるために、業務改善(先端技術の活用)、労働環境改善を引き続きすすめる。
 - ② e-ラーニングをさらに活用し、引き続き全職員が介護に必要な知識と技術を恒常的に学べる。
 - ③ WEBセミナーを活用し、それぞれの職員の興味に沿った研修が受講できる。
- (イ) 個々の職員が、能力、特性を活かし、制度枠にとどまらない事業提案をできる組織になる。
5. 地域における公益的な取組
- (ア) 福祉避難所の役割を果たすことを常に念頭に、地域防災拠点としての組織作りに取り組む。
- (イ) 高齢化しつつある近隣地域の状況を踏まえ、定期的な見守り安否確認、完全調理品を活用した食事提供の取り組みを検討する。
- (ウ) 園外掲示板、SNSを活用し、福祉介護情報等を定期的に発信する。

【数値指標】

	和合愛光園初生サテライト	聖隷デイサービスセンター初生	
		介護給付	総合事業
利用者定員	29人	50人	(50人)
利用延数	10,512人	10,780.0人	276人
一日平均利用者数	28.8人	35.0人	5.8人
稼働率(%)	99.3%	81.6%	
稼働延日数	365日	309日	
平均介護度	3.81	1.8	—
単価	14,500/日	9,600円/回	33,500/月
サービス活動収益 (千円)	154,526(千円)	112,742(千円)	
職員数(正職)	15.1人	6.0人	
職員数(パート)	7.2人	17.1人	

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザ I N高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

【事業・運営計画】

1. 聖隷ケアセンター高丘内の連携を図り、センター全体として地域の中で、質の高いサービスを展開できる
 - (ア) 訪問看護ステーション高丘はチームで協働し、質の高いサービスを効果的・効率的・迅速に提供することで、利用者・家族の生活を支える
 - (イ) 聖隷リハビリプラザ I N高丘はリハビリテーションに特化したデイサービスとして地域に根ざすとともに、介護予防や障がいをもった方にも専門的に個別の介入が行えるデイサービスを目指す
 - (ウ) 地域包括支援センター高丘は様々な相談に対応するとともに、認知症に優しい地域づくりの継続、地域課題を抽出し、センター内外に向けて情報を発信する
 - (エ) 聖隷ケアプランセンター浜松は根拠に基づいたケアマネジメントをチームとして実践できる力を高めるとともに、複雑化・多様化しているニーズを早期に把握し対応する
 - (オ) センター化の強みを生かし、各事業所の会議への参加や必要時の訪問同行等を実践する
 - (カ) 高丘拠点のそれぞれの事業所が日々の実践や成果を高丘ケアセンター学会で発表する

2. 職員1人ひとりがやりがいを持ち、働きやすい職場風土を醸成する
 - (ア) 業務の効率化、業務負担の軽減を目指し、安全に「質の高い」情報共有ができることを目的に、ICT化をすすめる
 - (イ) 職員が自分や家族との時間がとれ、心身ともに健康に過ごせるような職場環境の整備をする

3. 感染予防に留意し、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築する
 - (ア) センター内で定期的な訓練、勉強会、マニュアルの見直しを行い、職員個々がリスク管理を徹底する
 - (イ) 非常事態に備え、センター、各事業におけるBCPを作成し地域と連携した対応を強化する

4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) ロコモーショントレーニング事業、地域のニーズに応じた活動を考えて継続する
 - (イ) 地域行事（防災訓練等）・学校行事に参加する
 - (ウ) 各専門職の実習・職場体験、ボランティアの積極的な受け入れを行なう

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤換算）
205 人	1081 件	12,880 件	9,646 円	12,035 千円	15.1 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザ I N 高丘）

介護給付			予防給付		共生型		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数		
43.4 名	692.2 名	8,307 名	74.9 名	899 名	26.3 名	316 名	84,067 千円	13.2 名
単価 （円）	6,129 円		33,744 円		8,929 円			

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）		
41,575 千円	3,351 件	2,574 件	4,471 円			66,530 千円	7.7 名
日常生活支援総合事業の予防プラン							
種別	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価				
ケアマネジメント A	1,980 件	1,213 件	4,471 円				
ケアマネジメント B	346 件	0 件	3,246 円				
ケアマネジメント C	0 件	0 件	2,195 円				

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動 収益（千円）	職員数 （常勤 換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,400 件	360 件	15,950 円	3,807 円	12 件	4,400 円	40,326 千円	5.8 名

訪問看護ステーション住吉第二

2022年度訪問看護ステーション住吉第二は、各地区の特性を活かし、重症度の高い在宅療養外来通院の患者が抱える様々なニーズに応えるため、各病院との連携を密に行いシームレスな支援に取り組んでいく。

【施設理念】

利用者の家族に寄り添い、利用者を主人公として自己決定を支援する

【経営方針】

1. 他機関と連携し早期からシームレスな支援を行う
2. 個々の持ち味を生かし、ニーズの高い疾患を探求学習しスキルアップできる
3. 働きがいを感じながら、生き生きと仕事ができる

【事業・運営計画】

1. 他機関と連携し早期からシームレスな支援を行う
 - (ア) 退院後不安なく在宅生活スタートできるよう支援を継続する
 - (イ) 外来受診で支援が必要な利用者には受診同行をし、医師・看護師と連携を深める
 - (ウ) 相談支援事業所や居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなど報告書の手渡しをとおして新たな関係を構築する
2. 個々の持ち味を生かして、ニーズの高い疾患を探求しスキルアップする
 - (ア) グループ活動で職場全員の知識を深める
精神・神経難病・認知症のグループで勉強会や事例検討会を行うとともに、障害福祉分野も強化する
 - (イ) 職種別ラダーの継続
定期的なナーシングスキルの勉強会を月1回カンファレンスで行う
 - (ウ) 希望の研修に年1回参加し、共有の継続をする
3. 働きがいを感じながら、生き生きと仕事ができる
 - (ア) スケジュール作成ソフト「ZEST」の導入
 - (イ) 環境改善・訪問看護師増員のために、10月を目標に事業所の拡張を検討する
 - (ウ) なんでも語り合える、相談できるあたたかい職場風土を築く

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年間訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
46人	771件	9,248件	9,871円	91,294千円	16人(13.5)

聖隷コミュニケアセンター

2022年度も障害福祉事業との連携強化を行い、聖隷コミュニケアセンターの組織変革を行う。福祉用具貸与等の介護保険事業は継続し、介護保険事業以外の施設販売・貸与については段階的に障害者就労支援事業所へ業務移管を進めていく。介護保険事業では利用者が安全で安心できる在宅生活が送れるよう、福祉用具と住環境の視点から専門的な情報発信ができるよう職員全体で質の向上を目指していく。

【事業・運営計画】

1. 聖隷コミュニケアセンターの再編

- (ア) 高丘販売管理室移転先の場所・時期を検討し、計画的に移転準備を進める
- (イ) 介護保険事業以外の施設販売及び事務業務を段階的に浜松学園の就労支援事業所に移管する
 - ①病院、他法人向けおむつ販売業務を浜松学園に業務移管を行う
 - ②施設貸与業務を浜松学園に業務移管を行う
- (ウ) 店舗運営の経営判断を行い、継続と廃止の検討を行う

2. チーム活動を活性化させ組織力を向上させる

- (ア) 職場内のチームを再編成しリーダーの役割・権限を明確にし、次世代育成を行う
- (イ) 貸与部門と販売部門の連携を強化する
- (ウ) フォロー体制の構築。予算に挙げた人員を確保し安定した事業運営を図る

3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場環境を作る

- (ア) 福祉用具専門相談員としての専門知識の底上げ
 - ①目標参画システムを活用し、職員1人1人が自分のしたいこと、挑戦したいことの想いを確認し目標を明確化。スタッフの実績が形となる環境を作り出す
 - ②福祉用具プランナー、住環境コーディネーターの資格を取得ができるよう事業所として支援していく。習得した知識・技術を利用者に還元していくことで顧客満足度を高める
 - ③職場会議で定期的に勉強会を開催。福祉用具、住環境に特化した勉強会を開催する
- (イ) ライフワークバランスを念頭においた職場環境作り
 - ①有給休暇を計画的に取得できる調整を行い、職員がリフレッシュできる職場環境を創造する
 - ②会議・委員会・研修会を業務時間内に行える環境を整備する

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 聖隷の在宅サービス事業所、行政が行う地域に向けた取組みに協賛していく

【事業収益：数値指標】

	レンタル件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
コミュニティーセンター	14,995 件	187,440 千円	205,563 千円	20,000 千円	413,003 千円	30.8 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

【事業計画】

1. 地域における公益的な取組

- (ア) 生活困窮世帯のうち、住まいを失い、失業、減収した世帯に対して『住まい』と『食事』の提供及び就労支援を一体的に支援する『一時生活支援事業』を受託、運営する。
- (イ) 『一時生活支援事業』対象者の内、年間 10 世帯を生活再建につなげる。
- (ウ) 『一時生活支援事業』の実施を通して、事業の効果及び『住まい』と『食事の提供』以外に生活再建に必要な課題等を浜松市へ提言する。

2. 就労支援及び就労準備支援

- (ア) 就労支援対象者のうち、年間 120 名を目指す。
- (イ) 就労準備支援対象者の新規利用者 15 名の支援を実施する。
- (ウ) 協力企業を活用し職場見学、職場体験から就職へ年間 4 名の就職を目指す。
- (エ) 就労・就労準備支援のケース検討を 2 ケースずつ実施し、支援体制強化を目指す。

3. 学習サポート及びキャリア形成支援

- (ア) キャリア形成の一環として、中学 1 年～3 年生を対象とした将来の『進路』『生活』を考え、今後の目標設定ができる企画を立案、実施する。
- (イ) 卒業生を対象に高校定着や就労支援など必要な支援が実施できるよう、早期に課題がキャッチできる SNS の活用について検討・運用開始する。
- (ウ) 教室に通えない生徒や家庭に課題のある世帯に対して訪問支援を実施し、学習支援及び生活相談支援を実施する。

4. 地域との連携強化

- (ア) 生活困窮ケースについて、民生・児童委員や行政機関、福祉サービス提供事業所等とケース検討を年間 4 ケース実施し、地域における『連携支援』を検討、実施できる。
- (イ) 連携支援を実施したケースについて関係機関が集まる研修会等に参加し実践報告する。

【数値指標】

	つながり				学習サポート事業
	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者一時生活支援事業	学習支援事業	ホームレス巡回支援事業	
サービス活動収益 (千円)	70,842 千円	11,608 千円	4,358 千円	384 千円	-千円
職員数 (常勤換算)	16.5 名				0.6 名

聖隷厚生園 信生

障害者支援施設 聖隷厚生園信生寮

聖隷厚生園まじわりの家

訪問看護ステーション細江

聖隷ケアプランセンター細江

聖隷ヘルパーセンター浜松北

2022年も引き続き医療と介護・福祉の連携強化を行い、コロナ禍でも利用される方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、一体的な事業展開を目指す。

聖隷厚生園信生寮では、廃用性による身体機能の低下を予防するとともに、利用者が生活の中で楽しみを見出せる支援を行う。職員においても利用者のためにやりたいことができる組織運営を目指し、一人ひとりが仕事にやりがいを感じられる取り組みを行う。またノーリフトケアによる労働環境の改善や障がいがある方と共に仕事ができる風土を作り、多様な人材が長く働ける職場づくりをする。

在宅部門においては、利用者が望む地域生活が選択できるように、終末期ケアの充実や介護保険、障害福祉分野との連携強化を継続し、地域の多様なニーズに対応できる事業運営を目指す。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳のある生活ができる支援を行う
2. 地域課題の解決に向けた取り組み
3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造
4. 介護人材の確保と育成の取り組み
5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者が楽しく安心して尊厳ある生活ができる支援を行う
 - (ア) 身体機能の廃用性や生活意欲の減退を防ぐため、介護過程に基づいた利用者の“できる”を引き出す個別支援を多職種協同で行う。
 - (イ) 入所・通所者の咀嚼能力等の口腔機能及び栄養状態を適切に把握し、かたちのある食べ物を口から食べる楽しみを多職種で支援する。
 - (ウ) 短期入所と聖隷厚生園まじわりの家が合同でケアカンファレンスを行い、共通の利用者の課題共有と統一的なケアを実践し、利用者や家族が安心して利用できる体制を整える。
 - (エ) 虐待防止セルフチェック表を年2回実施し、利用者の尊厳を守る取り組みを行う。
 - (オ) 感染予防に配慮して、利用者が施設の中で楽しめる新しいかたちのイベントを企画する。

2. 地域課題の解決に向けた取り組み

- (ア) 訪問看護ステーション細江では、意思決定支援をさらに強化させながら、聖隷三方原病院との連携によるターミナルケアの受け入れを積極的に行う。また特定行為看護師による医行為を必要としている利用者の地域生活を支える取り組みを行う。
- (イ) 聖隷ヘルパーセンター浜松北では、介護保険においては細江、引佐、三方原、都田4地区を中心に地域ニーズに応じていく。また障がい福祉では浜松市北障がい者相談支援センターや相談支援事業所ナルドと連携し、新規利用者の受け入れを積極的に行う。
- (ウ) 聖隷ケアプランセンター細江では、聖隷三方原病院の病棟カンファレンスに参加して、訪問看護と連携し、ターミナルや医療依存度の高い利用者への対応を強化させる。また浜松市西区に活動エリアを広げ、広く地域ニーズに応える。
- (エ) 在宅福祉サービス事業所、通所事業所、相談支援事業所等が合同カンファレンスを定期的に行い、支援困難ケースを通じて実質的な連携に取り組み、課題解決の糸口を見出す。
- (オ) 聖隷厚生園まじわりの家では、リハビリテーションをメインに行う浜松学園新設の『聖隷ステップサポート』との差別化を図り、喀痰吸引や経管栄養の利用者の受け入れを行う。
- (カ) 西部特別支援学校からの体験実習を積極的に受け、卒業後に利用者やその家族が求める地域生活ができるように支援計画を提案する。

3. 利用者も職員も安心・快適に過ごせる施設環境の創造

- (ア) ノーリフトケア推進を継続し、職員が長く働き続ける職場づくりに努める。
- (イ) 職員が身体的負担を感じている体位交換・オムツ交換の方法を見直し、改善につなげる。
- (ウ) 介護アシストスーツを試験的に導入し、腰痛軽減を図る新たな取り組みをはじめめる。
- (エ) 業務のICT化を進め、効率化によって生まれた時間を新たな利用者支援につなげていく。
- (オ) 新型コロナウイルス等の感染症拡大の予防及び発生時マニュアルの整備、定期的な研修会等の実施に加えて訓練（シミュレーション）を行い、発生時に備える。
- (カ) 職員が利用者のためにやりたいことが実現できる自発的な活動を推進させる。

4. 介護人材の確保と育成の取り組み

- (ア) 各専門職ラダー、コンピテンシー評価を活用し、職員の人材育成を図る。
- (イ) 人事企画部と連携し、EPA介護福祉士候補生の学習支援の強化を図る。
- (ウ) 聖隷クリストファー大学・介護専門学校等と連携し、実習及びインターンシップの受け入れを積極的に行い、養成校とともに将来の介護人材の育成に貢献する。
- (エ) 聖隷厚生園ナルド工房・聖隷ワース工房浜松学園と連携し、障がいをもつ方がやりがいをもって介護の仕事をしてもらえるように障がい者雇用、就労継続支援の受け入れを積極的に行う。

5. 災害時対策・地域における公益的な取り組み

- (ア) 大規模災害時や感染拡大時にも事業が継続できるように、BCPを作成する。
- (イ) 地域の要請に応じて、災害等発生時には応援職員を派遣する。

【数値指標】

■障害者入所・通所事業

	信生寮			まじわりの家	
	入所	短期	日中一時	生活介護	機能訓練
利用者定員	60名	10名	-	14名	6名
利用者延べ人数	22,265名	3,820名	3,386時間	4,077名	1,233名
一日平均利用者数	61.0名	10.5名	-	15.9名	4.8名
稼働率	101.7%	104.7%	-	113.3%	80.0%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	257日	257日
単価(一人一日当り)	20,619円	9,582円	-	16,326円	10,490円
サービス活動収益(千円)	386,209千円	36,605千円	2,709千円	80,912千円	
職員数(常勤換算)	58.8名			13.8名	

■訪問・居宅介護支援事業

訪問看護 ステーション細江	月平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	254.1名	906件	10,866件		10,143円				
聖隷ヘルパー センター浜松北	介護給付		予防給付		単価		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	平均利 用者数	訪問件数		利用者数		介護 (時間)			予防 (月)
		月間	年間	月間	年間				
44.3 名	365 件	4,380 件	37.0 名	444 名	4,400 円	20,549 円	47,637 千円	5.9名	
聖隷ケアプラン センター細江	年間請求件数		平均単価		ケアタイム(三方原)		サービス活 動収益	常勤換算 職員数	
	介護	予防	介護	予防	月件数	月額			
	2,040件	360件	16,600円	4,023円	8件	84,000 円			36,639 千円

聖隷厚生園讃栄

救護施設聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド

障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ

障害福祉サービスが充実し、障がいを抱えながら地域生活を送る事ができる方が増えてきている。その一方で何らかの理由でサービス利用に繋がらない方や地域生活で困っている方も多数いる。聖隷厚生園讃栄は、そういった方に対して生活改善が図れるようアプローチしていき、地域に貢献できるよう取り組んでいく。

救護施設では感染対策をしながら利用者が地域の中で活動し、社会マナーや社会生活スキルを習得できるよう機会を設け自立促進していく。通所・相談支援事業は地域の福祉ニーズを発掘する為に障がいを抱え生活に困っている方や家族にアプローチしていく。

【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

【経営方針】

1. 利用者が地域の中で活動できる機会を設け、自立促進する
2. 日常生活で困らないよう利用者の身体機能維持向上を目指す
3. 利用者の楽しみである食事内容の充実を図る
4. 利用者が適切な社会資源を利用できるよう関係機関との連携を図る
5. 公益的活動における地域貢献など

【事業・運営計画】

1. 利用者が地域の中で活動できる機会を設け、自立促進する
 - (ア) 利用者が地域生活のイメージを持ちやすくする為、外勤作業や地域ボランティアなど地域の方と活動できる機会を設ける。
 - (イ) 感染対策を行いながら、利用者が社会マナーに触れ、地域のルールなど習得できるように施設外での行事や活動を増やす。
 - (ウ) 身寄りのない高齢利用者の施設移行支援において後見人や保佐人と連携し、スムーズに高齢者施設への移行ができるよう支援する。
2. 日常生活で困らないよう利用者の身体機能維持向上を目指す
 - (ア) 利用者の身体状況に合わせ、排せつや入浴など日常生活で利用者が困っている動作に介護職員と作業療法士など専門職が協働し、個別リハビリテーションを実施する。
 - (イ) 利用者が定期的に身体を動かせる余暇支援を継続して取り組む。
 - (ウ) 利用者の心身状況に合わせ、複数名での対応が必要な時などに ICT 機器を活用し、利用者が安心できる生活と職員が安心できる業務環境を整える。

3. 利用者の楽しみである食事内容の充実を図る
 - (ア) 食事の調理方法の工夫や食事姿勢の評価、口腔ケアなど行い、誤嚥・窒息を防止する。
 - (イ) 選択食、外食メニューを導入し、食事に対する利用者の満足度向上を図る。

4. 利用者が適切な社会資源を利用できるよう関係機関との連携を図る
 - (ア) 相談支援事業所ナルドでは、医療機関へ社会資源の情報提供を行い、利用者にとってより適切な退院支援を行う。
 - (イ) 生活訓練事業所ナルドでは、聖隷厚生園ナルド工房と協働し、就労支援事業所に繋がるような訓練プログラムに取り組む。
 - (ウ) 福祉共同住宅ファーストステップでは、12床⇒13床に増床する。利用者の課題に対して関係機関と情報共有や役割分担する事で地域生活移行を実現する。

5. 公益的活動における地域貢献など
 - (ア) 大規模災害発生時など、要請に応じて災害福祉チーム静岡 DWAT 応援派遣を行う。
 - (イ) 新型コロナウイルス感染拡大時など地域の要請に応じて職員派遣を行う。

【数値指標】

	聖隷厚生園讃栄寮		
	救護施設	救護通所	短期入所(総合支援法)
利用者定員	60名	10名	4名
利用者延べ人数	23,725名	2,920名	1,400名
一日平均利用者数	65.0名	8.0名	3.8名
稼働率	108.3%	80.0%	95.9%
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日
単価(一人一日当り)	10,368円	4,996円	6,698円
サービス活動収益	257,872千円		9,376千円
職員数(常勤換算)	31.3名		

	生活訓練事業所ナルド		ナルド	ファーストステップ
	生活訓練	生活介護	指定相談支援	共同生活援助
利用者定員	10名	10名	-名	13名
利用者延べ人数	2,312名	2,638名	-名	4,265名
一日平均利用者数	9.0名	10.3名	-名	11.7名
稼働率	90.0%	102.6%	-%	89.9%
稼働日数(延べ)	257日	257日	-日	365日
単価(一人一日当り)	9,037円	7,018円	-円	3,584円
サービス活動収益	21,624千円	19,641千円	52,605千円	15,285千円
職員数(常勤換算)	4.7名		6.2名	3.1名

聖隷厚生園ナルド工房

2021年度は、終息の見えない新型コロナウイルスの脅威の中にあって、企業からの請負作業が影響を受けたが、感染予防対策を強化しながら利用者へ施設外での実践的な就労機会を提供することができた。

2022年度は、静岡県立浜松学園の民営化に伴う事業再編と連動し、菓子製造部門を聖隷ワース工房浜松学園へ移管する。聖隷厚生園ナルド工房では、就労継続支援B型の定員を15名から25名に増員することで、利用者が就労を通じて地域の中で活躍できる機会を拡大する。また、聖隷内の他事業所と協働して、利用者に新たな仕事の機会提供や取り組みに挑戦する。

そして、厚生園内をはじめとした相談支援事業所や在宅サービス事業所の多職種と協働して、利用者が心身ともに安定して働くことができるよう支援する。

【施設理念】

働くことが『生きる喜び』となるように共に歩みます

【経営方針】

1. 利用者が仕事にやりがいと自信がもてる支援の提供
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
3. 職員が仕事の達成感をもてる働きやすい環境と人材育成体制の整備
4. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者が仕事にやりがいと自信がもてる支援の提供
 - (ア) 菓子製造部門に代わる新たな作業を創出する。
 - (イ) 利用者に役割をもたせることで日々の仕事の目標設定を明確にする。また、成果をフィードバックすることで仕事にやりがいと自信がもてる支援をおこなう。
 - (ウ) 利用者へ根拠に基づいたフィードバックをするために、作業ごとの作業検定の実施と仕事の成果を視覚的に確認できるようにする。
 - (エ) ベッドメイクや介護補助作業、名刺・ICカード印刷作業の範囲を拡大し、利用者により実践的な仕事ができる場を提供する。
 - (オ) 施設内作業とガーデンメンテナンス作業では、働く場でのルール理解の促進に力を入れ、利用者の就労準備性ピラミッドにおける「基本的労働習慣」を伸ばす支援を行う。
 - (カ) 就労移行支援のグループワークでは、就労継続支援B型の就職希望利用者にも参加者を拡大する。早期に企業見学や実習をし、就職へのイメージをもった目標設定支援を行う。
2. 利用者のステップアップを支える多職種・関連機関と協働した取り組み
 - (ア) 厚生園内の作業療法士と協働し、利用者の仕事をする身体の姿勢等による働き難さの軽減を図るため、専門的意見を交えた就労支援を展開する。

- (イ) 生活訓練事業所ナルドと協働し、就労体験を通じて生活訓練から就労継続支援 B 型へのステップアップをイメージできる取り組みをおこなう。
- (ウ) 「就労パスポート」(厚生労働省推進ツール)を就労移行支援、就労定着支援で活用する。利用者が働く上で、自分の特徴や希望する配慮を、自身で整理ができるように支援する。企業担当者と情報共有の場で更新し、必要な支援を受けられる体制を整備する。
- (エ) 特別支援学校の生徒・保護者が、卒業後の見通しが立つように効果的な実習をおこなう。卒業後の進路として選択していただけるように進路担当者と情報交換し、計画的に実習を受け入れる。

3. 職員が仕事の達成感をもてる働きやすい環境と人材育成体制の整備

- (ア) 職員間の相互理解を深め、仕事の成果を共有できる機会と雰囲気作りのため、月 1 回の意見交換会を実施する。
- (イ) ICT 等を活用し、業務の効率化を図り、効果的な利用者支援ができる取り組みをおこなう。
- (ウ) e-ラーニングや外部研修を活用し、利用者の障がい特性の理解や職業指導スキル向上を図り、根拠に基づいた支援ができる人材を育成する。
- (エ) 虐待防止セルフチェックを年 2 回実施する。結果を職員間で分析し、利用者への関わりを定期的に振り返る。
- (オ) 職員と利用者が一緒に感染予防対策に取り組むため、定期的にグループワークを開催する。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 近隣施設と合同防災訓練を企画・提案し、有事の際に協力ができる関係作りをする。

【数値指標】

	聖隷厚生園ナルド工房		
	就労移行支援	就労継続支援 B 型	就労定着支援
利用者定員	10 名	25 名	20 名(利用者数)
利用者延べ人数	2,670 名	5,579 名	10 名(登録者)
一日平均利用者数	11.0 名	23.0 名	-名
稼働率	109.9%	91.8%	-%
稼働日数(延べ)	243 日	243 日	-日
単価(一人一日当り)	11,875 円	7,161 円	30,756 円
サービス活動収益	35,169 千円	47,008 千円	3,906 千円
職員数(常勤換算)	12.7 名		

浜松学園

障害者支援施設 聖隷チャレンジ工房浜松学園
聖隷ワース工房浜松学園
聖隷ステップサポート

2022年度、浜松学園は静岡県立での運営から“完全民営化”となり、時代と地域ニーズに応えることのできる事業再編を行い、新たなスタートを踏み出すこととなる。入所の障害者支援施設は『静岡県立浜松学園』から『聖隷チャレンジ工房浜松学園』と名称変更し、従来の就労移行支援・施設入所支援に就労継続支援 B 型・短期入所を新たに加えた多機能型施設として生まれ変わる。通所では就労継続支援 A 型『聖隷ワース工房浜松学園』、肢体不自由者のリハビリと介護を行う『聖隷ステップサポート』を新設する。施設入所をメインとした事業から地域社会と連携し、多様なニーズを抱えた利用者一人ひとりの未来をともに描く支援をして、地域共生社会の実現に貢献していく。

【施設理念】

『働く』・『暮らす』 — その人らしい未来を描けるようともに歩む —

【経営方針】

1. 「働く」新作業の導入と、就職後“6カ月定着”が達成できる就労支援を行う
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる支援を行う
4. 新規事業の経営安定化を目指す取り組みを行う
5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化
6. 地域における公益的な取り組みを行う

【事業・運営計画】

1. 「働く」新作業の導入と、“6カ月定着”が達成できる就労支援を行う
(ア)新作業（リネン・事務・菓子製造販売等）を導入し、目標平均工賃 20,000 円／月を目指す
(イ)作業評価シートによる評価を利用者と一緒に行い、自信につなげる支援を行う
(ウ)施設作業⇒実習⇒就職⇒定着支援の時期をサービス担当者会議で決定し、計画的に支援する
(エ)就労パスポートをケース担当者が中心に、利用者、作業担当、就労支援員で共同して作成し、相手先企業へわかりやすく利用者の能力や特性を説明できるようにする
(オ)オールしずおかベストコミュニティや障害者就業・生活支援センター等と連携し、2022年～2023年に15名の6カ月以上の就労定着者を輩出する
2. 「暮らす」自己理解・他者理解を育む支援を行い、利用者の地域社会の中で生きる力を養う
(ア)特別支援学校等の教育支援計画の内容を引き継ぎ、ケース担当者が利用者の障がい特性に基づくアセスメントを行い、PDCA サイクルによる“チーム”で課題解決できる支援をする

- (イ)利用者の日誌や生活環境 check シートを基に、ケース担当者が定期面接を行い、自己理解を引き出す支援を行う
- (ウ)施設生活で“起こる問題”から、利用者自身がなぜそれが起こったのかを構造的に理解できるように、行動変容につなげる支援を行う
- (エ)利用者による自治会運営では、利用者自身が生活の仕方やルールをグループで考え、自ら決めて生活できることを支援し、自立を促進する
- (オ)利用者と職員がともに計画し楽しめる行事企画を行い、個別支援に必要な関係性を築く

3. 「学ぶ」「わかる」「できる」ことの喜びを利用者の自信につなげる支援を行う

- (ア)生活支援講座（金銭管理、携帯電話の使い方、性教育、食生活、整理整頓、感染対策）を行い、講座ごとに利用者同士でグループワークを行い、考えを深める支援を行う
- (イ)VRを活用した社会生活技能訓練を導入し、具体的な場面で利用者のコミュニケーションの特徴をつかみ、就労支援場面や施設生活での支援につなげる
- (ウ)電子黒板や iPad を導入し、視覚的理解を促す支援のあり方を模索する
- (エ)漢字検定や資格検定などの学習する機会を提供し、できたことの喜びを自信につなげる

4. 新規事業の経営安定化を目指す取り組みを行う

(聖隷ワース工房浜松学園)

- (ア)「スコア表」130点以上を達成するために、主に生産活動、支援力の向上、地域連携活動の3項目の向上を重点的に行う
- (イ)事務・厨房・聖隷厚生園の介護周辺業務などの委託業務契約で11人分の仕事を用意し、生産活動収支が利用者に支払う金額の総額以上となるようにする
- (ウ)年間1名以上の就職6カ月定着者を輩出する

(聖隷ステップサポート)

- (ア)リハビリ⇒就労継続支援につなげる「ステップアップコース」と区分5・6の肢体不自由者の介護を中心とした「生活充実コース」の2コース制にし、利用者個々の状態に合わせた支援を行う

(短期入所)

- (ア)今後浜松学園の利用を検討している中学・高校生に対して、短期入所を定期的に利用できるようにして、入園後の生活イメージができるような支援を行う
- (イ)浜松学園から就職した利用者がレスパイト目的で利用し、離職を防ぐ支援につなげる
- (ウ)通所の就労支援事業所に通う人に利用を勧め、親元から離れて生活する経験から自立の気持ちが芽生えるように支援する

(全事業)

- (ア)浜松学園内に相談支援事業所ナルドのサテライトを新たに設置し、利用者の状況に合わせて計画相談支援と連携を取り、スピーディーにサービスが提供できるように支援する
- (イ)オープンキャンパス（仮称）を行い、新規利用につなげるように広く浜松学園の情報を公開する取り組みを行う

5. 防災・感染対策・職員教育体制等の強化

- (ア) BCP（事業継続計画）の作成を行い、非常災害時に備える
- (イ) 新型コロナウイルス感染拡大を防止するための利用者・職員研修を定期的に行う
- (ウ) eラーニングを活用し、障がい者就労支援の知識を全職員で共有し、実際の支援に生かす
- (エ) 研究論文発表で必要な知識を習得するためのグループディスカッションを定期開催する

6. 地域における公益的な取組

- (ア) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる
- (イ) グランドや体育館など学園内施設の無料貸し出しを行う

【数値指標】

	聖隷チャレンジ工房浜松学園				
	入所支援	短期入所	就労移行	就労継続 B型	就労定着
利用者定員	60名	10名	30名	30名	1名
利用者延べ人数	11,801名	1,336名	8,057名	8,760名	107名
一日平均利用者数	33.7名	5名	31.8名	34.6名	1名
稼働率	56.2%	50.4%	106.0%	115.4%	1%
稼働日数（延べ）	350日	265日	253日	253日	1日
単価（一人一日当り）	3,661円	8,591円	8,022円	6,570円	18,802円
サービス活動収益	43,202千円	11,478千円	97,100千円	96,320千円	2,012千円
常勤換算職員数	12.7名	1.0名	9.8名	6.3名	0.1名

	聖隷ステップサポート	聖隷ワース工房浜松学園
	生活介護	就労継続A型
利用者定員	20名	15名
利用者延べ人数	3,825名	2,134名
一日平均利用者数	14.9名	8.8名
稼働率	74.4%	59.0%
稼働日数（延べ）	257日	243日
単価（一人一日当り）	12,943円	6,913円
サービス活動収益	49,520千円	105,396千円
常勤換算職員数	7.7名	4.7名

軽費老人ホーム もくせいの里

もくせいの里では近年、自立の方が30%、要支援1以上の方が70%という割合で推移している。自立した生活を送るために支援を必要とする方が増え、高齢化・重度化さらにはコロナ禍の生活で外出の機会が限られ、施設内外の交流が減ってきている。

2022年度は、サテライト型デイサービス開設に向けた準備を進めるとともに、従来の行事や外出企画の見直しを行うことで居室から外に出る機会を提供し、自立生活継続のためのステップとする。また、2021年度に導入した施設サービス計画作成ソフト「Care Growth」の活用により、自立の方、支援を必要とする方と二極化する中で、ひとりひとりのニーズに合った支援を目指す。

利用者の「もくせいの里で安心して長く暮らしたい」との思いにしっかり向き合い、軽費老人ホームの持つ社会的・経済的ニーズに応える施設として運営を行う。

【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす。

【経営方針】

1. 職員間、職場間、また法人内の他事業所との連携を強化し、入居者がもくせいの里で安心した生活が過ごせる支援を行う。
2. 入居者・利用者に満足していただける質の高い食事提供を行う。
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す。
4. 入居者と職員が協力して地域との交流を図り、地域貢献も積極的に行う。

【事業・運営計画】

1. 利用者に合わせたサービスの提供
 - (ア) サテライト型デイサービス開設に向けた準備を進めるとともに、日中活動プログラムのメニューや開催頻度を充実させ、居室から外に出る機会を提供し、自立生活が継続できるよう支援する。
 - (イ) 「Care Growth」の活用により、アセスメントに基づいた施設サービス計画書を作成し、個別支援の充実を図る。
 - (ウ) 要介護2までの方が安心して生活できるように、法人内の各事業所と連携して支えていく。
 - (エ) 低所得の方にも安心して生活できるための支援策を検討する。
 - (オ) 入居者の主体的な活動を広げられるよう、施設内や地域で貢献できる活動を検討する。
2. 安心と安全を重視したサービスの提供
 - (ア) 配食サービス利用者の安否確認時の情報を家族やケアマネジャー等と共有していく。また、配食エリアを検討し、地域住民のニーズに応じていく。

- (イ) 感染症の流行に備え、衛生用品等の備蓄を進めるとともに、感染症発生時の訓練（シミュレーション）を定期的に行う。
- (ウ) 咀嚼・嚥下能力の低下が見られる入居者に対し、能力に応じた食形態の工夫や能力維持のための支援を行う。

3. 職員の資質の向上

- (ア) 外部研修等に積極的に参加し、職員のスキルアップと入居者のサービス向上を図る。
- (イ) 他の軽費老人ホームやケアハウスの見学や情報交換を行い、視野を広げる。

4. 地域社会への貢献

- (ア) ひとり暮らし高齢者・重度身体障害者等配食サービスを継続して受託する。
- (イ) コロナ禍の状況を踏まえながら、近隣幼稚園との定期的な交流を行う。また、草むしりや清掃など、入居者とともに協力できることを検討する。
- (ウ) 関係機関に対し、待機者状況などの情報を定期的に提供し、待機者増を図る。
- (エ) 公民館サロンドーの企画・運営に継続して協力する。地域との交流を目的に 2022 年度も引き続き入居者の参加を促す。

5. その他

- (ア) 設備点検等での指摘事項について早期に対応し、少しでも長く建物設備を使用できるようにする。
- (イ) 入居者の生活に直結する設備について修繕を行い、アメニティ向上を図る。

【数値指標】

	軽費老人ホーム	配食サービス	計
利用者定員	50名	—	
利用者予算（延べ）	18,250名	17,922名	
利用者予算（日）	50名	58名	
稼働率（％）	100%	—	
稼働日数（延べ）	365日	309日	
単価（一人一日当り）	6,260円	700円	
サービス活動収益（千円）	114,237千円	12,576千円	126,813千円
職員数	11.6名	2.4名	15.0名

いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園

いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型・認知症対応型)

いなさ愛光園ヘルパーステーション(訪問介護/居宅介護)

ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)

聖隷ケアプランセンターいなさ

いなさ愛光園在宅介護支援センター

ひとり暮らし高齢者等配食サービス

新型コロナウイルス禍の厳しい状況のなか、ご家族に会いたい利用者、面会できないご家族との間で、職員一人ひとりが成長の機会をいただいた。職員は時間を工夫しながら、園内散歩や日向ぼっこ、談話等に努めた。2022年度は利用者に寄り添うことで質の高いサービスを提供していきたい。

1997年4月に開設して26年目を迎え、大規模な修繕や新しい見守りシステム(補助金事業)を導入することができた。利用者の全居室にLED照明器具等を導入して、生活環境が向上する。見守りシステム等は「介護現場の働き方を変えるサービス」になるように若手職員にも参加を促して業務改善につなげていく。

北区唯一の中山間地域を含む引佐地区の高齢化率は37.3%(高齢者人口:4,667人)で、総人口の減少が続きながらも高齢者人口は微増している。中山間地域の高齢化率は40%(高齢者人口1,115人)を超える地域も増えている。食料品店やガソリンスタンドの閉鎖等で、生活課題の相談も増えている。今後も地域包括支援センターや居宅介護事業所と連携しながらいなさ愛光園の守備範囲を広げていきたい。

今後も施設理念である「利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する」を念頭に質の高いサービスを提供する。

【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に捉え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

【年度事業目標・年度重点施策】

1. ICT機器を活用した新しい介護業務の構築をする
 - (ア)見守りシステムを活用して事故の未然防止をする
 - (イ)インカムを活用し職員の連携強化を図る
 - (ウ)ご利用者、職員のデータを可視化し、適切なケアを実行する

(エ)記録システムを初めとする各 WEB 化の職員運用を促進する

(オ)個人情報の取り扱いには十分に徹底する

2. 利用者の意向やこれまでの生活を尊重した支援をする

(ア)利用者一人ひとりの個別ケアの充実をする

(イ)口腔ケア、褥瘡予防ケア、認知症ケアの理解を深めた実践をする

(ウ)看取り介護情報検討シートを活用し、実践を通してスキルアップを図る

(エ)清潔で明るく安全な環境で過ごして頂く

(オ)新規入所者に対し関連する職員との情報共有を図る

3. 人材育成と働きやすい職場環境の整備をする

(ア)目標設定の動機付けと目標達成のための指導、支援の継続をする

(イ)新型コロナ感染症発生時の訓練実施と必要物品の管理をする

(ウ)看護・介護の e-ラーニング等を活用し、効果的に学習する

(エ)職員のメンタルヘルスや腰痛等の対象者を減少させる

(オ)医療的ケアに対応するために喀痰吸引等修了者を計画的に増やす

4. 安定した施設運営をする

(ア)各サービスの新たな利用者の発掘と利用地域の拡大を図る

(イ)栄養マネジメント強化加算等の新たな加算取得を見据えた検討をする

(ウ)自然災害発生時における業務継続や防災計画の見直しと周知をする

(エ)経営状況を踏まえて修繕計画及び設備・備品の更新をする

(オ)職員同士で声をかけやすい関係づくりをする

5. 地域における公益的な取組み

(ア)家族介護者教室の企画運営やサロン活動等を運営支援する

(イ)地区社協主催のふれあい祭りや祭典等の地域行事に参加をする

(ウ)自治会の県総合防災訓練に参加し、理解を深める

(エ)福祉避難所として必要時に開設定定できるよう準備する

(オ)社会福祉法人利用者負担軽減事業の継続をする

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護・居宅介護支援・委託事業

	特養入所		短期入所	通常規模型通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	介護	予防
利用者定員	30名	40名	20名	35名	
利用者延べ人数	10,731名	14,564名	6,188名	7,918名	968名
一日平均利用者数	29.4名	39.9名	16.9名	25.5名	3.1名
稼働率	98.0%	99.8%	84.8%	81.9%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	13,171円	14,589円	13,729円	9,783円	
サービス活動収益	141,565千円	212,510千円	84,955千円	86,930千円	
職員数(常勤換算)	49.6名		15.7名	14.7名	
	認知症対応型 共同生活介護	居宅介護支援		認知症対応型通所介護	
		介護	予防	介護	予防
利用者定員	9名			12名	
利用者延べ人数	3,249名	1,692名	540名	3,022名	0名
一日平均利用者数	8.9名			9.8名	0名
稼働率	98.9%			81.3%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	310日	
単価(一人一日当り)	13,995円	17,684円	3,867円	12,747円	
サービス活動収益	45,469千円	32,826千円		38,520千円	
職員数(常勤換算)	8.7名	4.1名		6.9名	
	訪問介護		居宅介護 (障害)	配食サービス	在宅介護支 援センター
	介護	予防			
利用者定員					
利用者延べ人数	1,962名	1,135名	754名	1,612名	
一日平均利用者数	5.4名	3.1名	2.1名	5.5名	
稼働率				—	
稼働日数(延べ)	361日	361日	361日	293日	365日
単価(一人一日当り)	4,778円		3,156円	677円	
サービス活動収益	14,951千円		2,380千円	1,092千円	
職員数(常勤換算)			4.3名		
	合計				
利用者定員					
利用者延べ人数					
一日平均利用者数					
稼働率					
稼働日数(延べ)					
単価(一人一日当り)					
サービス活動収益	661,198千円				
職員数(常勤換算)	103.9名				

聖隷ケアセンターいなさ

聖隷リハビリプラザいなさ
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
地域包括支援センター細江

2022年度北区旧引佐三町地域は、高齢者の増加する一方で、支援の担い手が減り、高齢者が住み慣れた地域で生活することがますます困難になることが予想される。社会資源が乏しい当該地域において本人の住み慣れた地域で本人が望む生活の継続実現の為、地域のニーズに合致した事業をケアセンター内の事業所が連携・協働し展開していく

【拠点理念】

隣人愛の精神のもと、地域とつながり、共に生きる

【経営方針】

旧引佐三町において、住民が住み慣れた地域で暮らし続けることができる社会の実現をめざし地域で支援を必要とする要援護者及びその家族等の人権、自立心、価値観等を尊重し柔軟で包括的な支援を実施する

【事業・運営計画】

1. 旧引佐三町へのサービス提供体制強化

(ア) 各事業所の地域への支援

① 聖隷リハビリプラザいなさ

機能訓練と健康管理による重度化予防の充実を図る

訪問看護ステーション細江、訪問看護ステーション三ヶ日との連携による在宅療養・介護体制づくりをする

② 聖隷ケアプランセンターいなさ南部

三ヶ日地域を中心とした継続的な新規利用者の受け入れと当該地域でのマネジメント体制の充実を図る

訪問看護ステーション三ヶ日との連携により、地域の在宅療養・介護体制の強化をする

③ 地域包括支援センター細江

幅広い世代への周知や他分野機関との連携による早期発見・対応機能の充実を図る

(イ) いなさ愛光園、ホームヘルパーステーション浜松北、訪問看護ステーション細江、訪問看護ステーション三ヶ日、聖隷三方原病院との連携による地域への支援を実施する

(ウ) 在宅生活延伸のための支援

各事業所が協働して住民対象の講座の開催、公的機関でのパネル展示等の企画により地域の早期発見力の強化を図る

2. 運営の安定化の推進

- (ア) 各事業所での新規利用者の積極的な受け入れと適正な加算の算定を行う
- (イ) サテライトデイの稼働曜日増

3. 拠点機能の強化

- (ア) 高齢者分野以外の要援護者、世帯への支援

① 聖隷ケアプランセンターいなさ南部

他分野相談機関との連携や権利擁護事業などの制度の活用による支援を行う

② 地域包括支援センター細江

北障がい者相談支援センター、生活自立相談支援センターつながり、行政との連携による支援困難世帯、虐待高リスク世帯への対応を強化する

4. 地域における公益的な取組

聖隷ケアセンターいなさ

- (ア) 介護者教室受講者による自主運営のノルディックウォーク愛好会の継続的な活動の支援を行う
- (イ) 地域の小学校、中学校、高等学校、大学を中心に認知症サポーター養成講座を開催。地域で安心して認知症の方やその家族の方が生活できることを目指す
- (ウ) 法人内の他事業所との連携により、住民対象の健康づくり講座、区役所・協働センターでのパネル展示等の企画の実施

【数値指標】

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
26.0名	645名	7,749名	111名	1,338名	7,049円	27,771円	94,194千円	19.7名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,800件	360件	15,800円	4,100円	24件	4,400	31,022千円	4.6名

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

市受託収入 (千円)	予防支援等	内再委託 件数	予防マネジメント 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
52,740千円	予防支援 4,200件	3,180件	4,471円	88,616千円	10.2人
	マネA 2,952件	2,124件	4,471円		
	マネB 1,200件	一件	3,246円		

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

2021年度は介護報酬・障害福祉の報酬改定が行われ必要な加算の取得を進めることができた。新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、状況に応じ、柔軟な対応をしながら、利用者の獲得を続けてきた。2022年度は住み慣れた自宅で生きがいを持って生活するための支援をするため、認知症予防と終末期ケアへの理解を深めながら個々の利用者に寄り添うケアを提供していく。

【拠点理念】

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

【事業・運営計画】

1. 浜松市北部エリアにおいて「地域に求められる」ケアセンターになる
 - (ア) 事業団内の病院・障害施設との連携を図りながら継続的に新規利用者を受け入れる。
 - (イ) 3事業合同での認知症・終末期ケアへの理解を深める勉強会の開催、共有している事例を通して他事業・他職種からの視点を交えた検討を行う。
2. 利用者の思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
 - (ア) 利用者の思いを形にするためのケアの質の向上を図る。
 - ①デイサービスセンター三方原
就労希望のある利用者を積極的に受け入れ、具体的な作業活動の体験、能力の評価を行い、就労サービスや家庭内での役割活動へつなげていく。
認知症予防に効果のある運動プログラムを取り入れる。またご家族に向けた個別相談・少人数での家族会を開催する。
 - ②ケアプランセンター三方原
初回面談の振り返りをし、利用者の思いを聞き取るアセスメントができたのか確認する。
最期の時をどう迎えたいのか利用者と家族の思いを確認していくため具体的な面談方法を習得する。
 - ③訪問看護ステーション三方原
カンファレンスの方法を見直し、利用者・家族・かかわった職員の思いを共有した上で、ケアの内容へ反映する。
スケジュール自動作成「ZEST」を導入し効率よくミスのない訪問調整をする。
3. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 三方原地区のシニアクラブへの出張講座を行う。
 - (イ) ロコモーショントレーニングサロン活動の内容を継続する。
 - (ウ) 地域活動（清掃活動・防災訓練等）へ積極的に参加する。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
192 人	908 件	10896 件	9,940 円	110,838 千円	14.9 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価（円）	サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,952 件	580 件	16,000 円	4,023 円	24 件	4,400 円	34,202 千円	5.4 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス 活動収益 （千円）	職員数 （常勤 換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
33 人	849 人	10,197 人	81 人	972 人	6,400 円	30,700 円	95,388 千円	20.4 名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平均利用者数	月利用者数	年利用者数	単価 （円）	サービス活動収益 （千円）	職員数(常勤換算)
1.5 人	38 件	463 件	8,700 円	4,084 千円	20.4 名

聖隷訪問看護ステーション三ヶ日

2022年度の聖隷訪問看護ステーション三ヶ日は、高齢化率の高い三ヶ日町において「予防できる町三ヶ日」を目指し、湖西地区においては関係機関との顔の見える関係づくりを強化し、聖隷訪問看護の浸透を目指す

【施設理念】

利用者と家族に寄り添い、住み慣れた地域で「自分らしく安心して暮らせること」を支え続ける

【経営方針】

1. 医療機関やサービス事業所と連携し、切れ目のない支援に取り組む
2. 疾病予防や介護予防の意識向上を目指す支援を行う
3. 職員が生き生きと仕事ができ、やりがいを実感できる

【事業・運営計画】

1. 医療機関やサービス事業所と連携し、切れ目のない支援に取り組む
 - (ア) 地域の開業医の看護師、薬剤師、保健師との顔の見える関係づくり
 - (イ) 障がい者相談支援事業所との連携強化
 - ① 事業所のパンフレットを作成し積極的な広報活動を行う
 - ② 事例検討会やケースカンファレンスへの参加をする
 - (ウ) 湖西市内の医療機関やサービス事業所との顔の見える関係づくり
 - ① 事業所のパンフレットを作成し積極的な広報活動を行う
2. 住民の疾病予防や介護予防への意識向上を目指す支援を行う
 - (ア) 訪問看護通信の発行（年6回）
 - (イ) 聖隷ケアセンターいなさと協力・連携し、定期的なイベントを開催する
3. 職員が生き生きと仕事ができ、やりがいを実感できる
 - (ア) 計画的に内部・外部研修参加と伝達講習にて、職場全体の知識技術の向上に努める
 - (イ) スタッフの良いところ・頑張っているところを認め合える雰囲気づくりをする
 - (ウ) ナーシングスキル（e-ラーニング）の活用を推進する
4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 地域住民がフレイルや感染予防に関心が持てるよう、サロン等で講座を開催する

【数値指標】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動 収益	職員数 (常勤換算)
104人	450件	5,402件	9,767円	52,769千円	7.2名

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園	浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東	訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北	地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北	

2021年度は、新型コロナウイルス感染症が未だ収束の見通しが立たない中、市中の感染状況を見ながら面会・外出制限の段階的な解除や、感染対策を行った上で行事を開催するなど、状況に対応しながら新たな日常を整えてきた。浜北愛光園は施設理念として「わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切にしたい施設づくりを追求します」を掲げている。コロナ禍で制限が多い中でも利用者が自分の意思を表出し、その人らしい生活が営めるよう支援する施設として取り組みを継続していかねばならない。2020年度から続けているICTを介護分野に取り入れ、業務の効率化・ケアの質の向上を図る取り組みについては、2021年度はインカム、見守り支援システムの導入を行い、既導入のタブレット型介護記録システムと合わせて介護ICT化の大部分を実装することが出来た。

2022年度は、導入したICT機器について定性・定量的なデータを分析、効果測定を行い、得られた結果をさらなる業務の省力化、改善につなげていく。また、実運用を行っていく過程の中で生ずるゆとりを、介護職員の「やりたい」介護へ投資し、職員にはケアの喜びを実感してもらうとともに、利用者に提供するケアの質を向上させたい。職員教育においては、オンライン研修の受講の機会を増やすと共に、参加後の伝達講習を施設全体に速やかに実施できる仕組みを構築し、職員の知識・技術の向上に努めていく。

地域社会との関係については、地域行事への参加や情報発信を行い、コロナ禍を通じて弱くなった結びつきを回復させていく。また、複合施設としてのメリットを活かし、多事業が共働して地域課題に対応し地域のセーフティネットとしての役割を果たしていく。

【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切にしたい施設づくりを追求します

【経営方針】

1. 地域共生の視点の下、複合施設としての利点を活かし、制度の枠を超えたワンストップ支援体制を構築し実践する
2. 利用者、家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
3. 専門職のキャリアアップを促進しながら、福祉機器やシステム等の具体的な活用を図ることで、新たな働き方を提案するとともに専門職としてのやりがいを創造する
4. 安定した運営が継続できるよう、適切な職員配置、コスト管理、設備改修等に努める
5. 防災・福祉拠点としての役割を果たし、地域貢献に取り組む

【年度事業目標・年度事業計画】

1. 制度の枠を超えた支援体制の構築

- (ア) 事業所種別を超えたカンファレンスや人事交流を活発化させ、サービスの枠を超えた協力体制の構築を図り、サービスを一貫して行うワンストップ支援体制を推進する
- (イ) 【地域課題解決会議】を通じて、地域課題を見通す能力を醸成し、資源開発を行う
- (ウ) 職員個々が複合施設の特色や強みを理解し、地域や他事業所に情報発信する

2. 「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

- (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
- (イ) リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、利用者の状態変化に早期に気づき、対応することで状態悪化を抑制していく
- (ウ) 利用者の人生に関わる情報収集を密に行い、在宅から施設に至るまでの情報が途切れることなく共有できる体制を構築する
- (エ) ICT導入や業務改善を行った結果うまれたゆとりをすべて利用者に還元し、利用者の尊厳を尊重するケアを追求する
- (オ) コミュニケーションアプリ等を活用し、家族との連携強化・情報提供を密に行う

3. 新たな働き方の変革

- (ア) 新人職員からリーダー職員、役職者までの教育体制を再構築し次世代職員の育成を行う
- (イ) オンライン等含めた研修の機会を設け、参加した職員が他部署へ伝達する仕組みを構築し、職員の知識・技術が研鑽できる機会とスキルアップを図る
- (ウ) 導入した機器を活用し、従来の枠組みに囚われず職員を横断的に配置するなど、対応力の強化及び利用者ケアの質向上を促進する
- (エ) ICT機器等導入後の効果を定性又は定量化し、効果の検証を行う
- (オ) ケアの喜びを分かち合える機会を設け、職場定着及び職員にとってのモチベーション向上に努める

4. 運営安定化の推進

- (ア) 新規利用者獲得に向けた、広報活動の充実を図る
- (イ) 新たな加算算定をすることで、質の担保・運営の安定化を図る
- (ウ) 新たに購入した物品が効果的に使用できているかを精査し、適正な在庫管理をおこなう

5. 全世代を対象とした地域における公益的な取り組み

- (ア) 【地域課題解決会議】で抽出された課題をもとに、施設機能を活かし、地域が必要とする情報を発信し、地域社会の核となるように努める
- (イ) 介護未経験者や近隣企業、学校等を対象に、時代に即した方法での情報発信や介護相談、研修会開催等を通し、介護に対する理解促進、介護離職防止等に貢献する

【数値指標】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者 相談支援 事業 (浜松東)
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50名	100名	20名	20名	40名		
利用延数	18,522名	35,980名	5,583名	5,007名	8,072名	432名	
一日平均利用者数	50.7名	98.6名	15.3名	13.7名	26.1名	1.4名	
稼働率(%)	101.5%	98.6%	76.5%	76.2%	66.0%		
稼働延日数	365日	365日	365日	365日	309日		
平均介護度	4.12	3.71	2.92	2.73	2.15		
単価(一人一日)	12,424	14,251	11,435	14,610	10,585		
サービス活動収益 (千円)	230,112	512,739	63,842	73,152	90,014		
職員数(常勤換算)	39.3名	70.7名	8.6名	10.7名	15.9名		3.0名

■訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
70	422	5,060	22,658	114,647	14.8名

■居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
2,100	360	16,526	3,800	0	4,400	37,411	5.5名

■地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

浜松市受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち 再委託件数	予防プラン 単価(円)	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
36,375	1,896	1,116	4,471	53,705	6.6名

■聖隷チャレンジ工房浜北

	定員	利用 延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
就労移行	10名	2,197名	84.8%	259日	15,570	34,207	14.7名
就労継続	20名	7,344名	118.1%	311日	8,595	63,119	
就労定着		120名			28,808	3,457	
生活介護	10名	2,890名	118.0%	246日	8,077	23,343	

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
聖隷放課後クラブはなえみ森町

2022年度森町愛光園は、ICTの活用を推進することにより、業務の改善・整理に取り組む。その取り組みのプロセスにおいて、職員一人一人が役割や目的を見出すことや、改善・整理後の目標を立て、仕事の楽しさを感じ、自己の成長や人生と両立できる職場環境を目指す。

利用者支援の視点では、施設サービスにおいては、入居者個々を知り、その人が望む生活に応えることができる介護を提供していきたい。通所サービスにおいては、スペースを活用し、利用者がコロナ禍においても日常生活を楽しめる過ごし方について、検討・企画・開催をしていく。訪問系サービスにおいては、利用者より安心して任せられる事業所として、「暮らし」と「リスク」のバランスをとりつつ、信頼のできるサービスの提供に努め、在宅生活を継続できるよう支援していく。また、障がいサービスでは、聖隷放課後クラブはなえみ森町において、保護者・学校・地域と連携し、児童の将来を見据えた支援に取り組む。また、今後も継続的な受入体制を構築するため、児童の学年や個別の状況に応じた利用基準を検討する。

最後に、新型コロナウイルス等の感染症や大規模災害発生時に備え、業務継続計画(BCP)を最新の動向に合わせ検証・見直しを行い、計画の内容に沿った訓練を実施していく。在宅サービス利用者においても、緊急時の協力体制を行政や地域の事業所と共同して整えていく。

【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのQOLの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めていくことができる組織づくりを目指します

【事業・運営計画】

1. 働きがいのある職場環境と人材育成の推進

- (ア) 目標参画システムを推進するにあたり、専門職ラダーとe-ラーニングを連動させ、個々の目標に応じた人材育成を図る。
- (イ) 介護記録システム（HIMVIT）や見守りシステム等の導入に向け、先行導入した施設に学び検討していく。
- (ウ) 一人一人の職員が取り組みたいと思う支援が実現できるよう、各職員が新たな取り組みや行事等の企画に参画し、役割を担い、働きがいや仕事の楽しみに結びつくよう取り組む。
- (エ) シニア世代においては、その経験や知識を活かしていただき、共に働く仲間として活躍できる職場環境を推進する。

2. 質の高いサービスの提供

- (ア) 介護の知識・技術を高めるとともに、介護の基本について熟考し、利用者・家族の思いに応える支援を実践する。
- (イ) 新型コロナウイルスの影響により、利用者と家族・友人との関わりが減る中、面会手法の検討や、家族への情報提供の在り方を検証し、利用者の思いを大切にされた支援を行う。
- (ウ) はなえみ森町においては、家族や特別支援学校・各小学校と情報交換を行い、児童の行動から見えてくる発達段階に適応した支援方法を実践する。
- (エ) 利用者満足度調査等を実施し、利用者や家族のご意見を頂き、接遇やサービスの質の向上に取り組む。また、職員の自己評価も行い、支援の在り方を検証するとともに、集計結果をホームページに掲載する。

3. 健全経営の推進

- (ア) 稼働率向上のため、市域を超える地域密着型特養の入所や入所時の介護度について、森町役場や各行政に働きかけを行う。
- (イ) 公立森町病院と現場担当者レベルでの更なる連携強化に取り組む。
- (ウ) 新規利用者や入所待機者確保のため、森町外に向けて在宅サービス実施地域の拡大を行う。
- (エ) 2021年度に引き続き、修繕及び設備更新を計画的に行い、職場の環境整備の改善を図る。

4. 衛生管理・防災管理体制の向上

- (ア) 新型コロナウイルス等の感染症を防ぐとともに、大規模災害にも事業を継続できるBCP（事業継続計画）を強化するとともに、訓練を通じて実行可能な計画に練り上げていく。
- (イ) 在宅利用者に対し、感染症の蔓延や大規模災害発生時においても、地域包括支援センター等と協力して安否確認や、必要なサービス提供について連携できる体制づくりを行う。
- (ウ) 緊急時に備え衛生用品・防災物品等の必要物資を過不足なく確保する。

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の小学校・中学校からの福祉体験、職業体験の受入れや、特別支援学校の実習受入れ、高校や福祉系学校の介護実習、ボランティア体験の場として施設機能を提供する。
- (イ) 一宮町内会や天宮町内会で行われる、地域包括支援センター主催の地域ケア会議や地域防災訓練等に専門職を積極的に派遣する。
- (ウ) 静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）からの要請に基づき、職員派遣を行う。

【数値指標】

	特養		天宮ヲラト	短期入所	通所介護		
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防	
利用者定員	60名	20名	29名	12名	42名		
利用者延べ数	21,223名	7,078名	10,286名	2,885名	7,648名	1,312名	
1日平均利用者数	58.2名	19.4名	28.2名	7.9名	24.0名	4.3名	
稼働率	96.9%	97.0%	97.2%	65.9%	67.4%		
稼働日数（延べ）	365日		365日	365日	308日		
単価（一人一日当り）	13,073円		13,930円	11,200円	9,688円		
サービス活動収益 （千円）	369,990千円		143,286千円	32,312千円	86,805千円		
職員数（常勤換算）	38.6名	16.7名	20.7名	5.7名	13.2名		
	在宅介護 支援センター	居宅介護支援		訪問介護			介護 合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		1,917名	347名	4,535名	997名	420名	
1日平均利用者数				12.6名	2.8名	1.2名	
稼働日数（延べ）				359日			
単価（一人一日当り）		14,072円		4,268円	4,826円		
サービス活動収益 （千円）		31,860千円		23,610千円	2,027千円		689,890 千円
職員数（常勤換算）	0.1名	5.0名		6.0名			106.0名
	放課後等 デイサービス						
利用者定員	20名						
利用者延べ数	4,361名						
1日平均利用者数	17.9名						
稼働率	89.7%						
稼働日数（延べ）	4,361日						
単価（一人一日当り）	8,352円						
サービス活動収益 （千円）	36,425千円						
職員数（常勤換算）	7.6名						

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ

聖隷放課後クラブはなえみ磐田

相談支援事業所磐田みなみ

聖隷チャレンジ工房磐田

磐田市発達支援センターはあと

磐田市子育て支援総合センターのびのび

磐田市南部地域包括支援センター

磐田市南部障害者相談支援センター

2021年度は、「つながりからの利用者支援の価値の創造」を目的とし、地域への情報発信（広報活動）と事業所間の連携を強化する取り組みを開始した。また、行政と「発達支援の在り方・子育て支援センターに求められていること等」を意見交換し、磐田市子育て支援総合センターのびのび・磐田市発達支援センターはあと・磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センターの受託事業を継続することとなった。2022年度は、新型コロナウイルス感染症等の影響にて希薄となっている“保護者同士・地域とのつながり”の再構築、各事業が地域から求められている変化（ニーズ）に柔軟に対応すること、各事業所が連携した取り組みやICT化で生まれる価値の言語化を通して、地域に根差した施設運営につなげていきたい。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します

【経営方針】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 利用者満足度の高いサービスを提供する
 - (ア) 聖隷こども発達支援センターかるみあ
 - ① 一人ひとりの子どもがチャレンジできる“療育”を通して、子どもの主体性を育む
 - ② 保護者が子どもの現状を把握できる取り組みとともに、保護者同士の“横のつながり”を作る
 - ③ 児童発達支援事業と保育所等訪問支援事業との連動を仕組化する
 - (イ) 聖隷放課後クラブはなえみ磐田
 - ① ライフスキルの獲得やコミュニケーションスキル向上に向け、ICTの活用と体験によるスキル習得場面を充実させる

- ② “自己理解”を育む支援を通して、放課後や長期休みの“自分らしい過ごし方”を見出す
- ③ 学校の教育支援計画と個別支援計画との連動や家庭との連携にて、“般化できるスキル獲得支援”と“場とライフステージをつなぐ支援”を行う
- ④ 保護者の“縦のつながり”を作り、保護者が将来の見通しを持ち、子どもの“今”に向き合う環境を整える

(ウ) 聖隷チャレンジ工房磐田

- ① 年間7名の就職者を輩出し、“6か月定着”が達成できる就労支援を行う
- ② 作業種目を拡充し、目標平均工賃25,000円/月を目指す
- ③ ご利用者の“就労意欲向上”を図る取り組みを行う
- ④ 基本的労働習慣を身に付ける支援の体制を整える
- ⑤ 社会福祉協議会と連携し、“地域の困りごと”を利用者の生産活動として実施する

(エ) 磐田市発達支援センターはあと

- ① 保護者とともに、子どもの今を受け止め、“これから”を考えていく
- ② “人との関わり方”について、家庭・集団生活（園・学校）にて実行可能な方法を助言する
- ③ 身近な場所で発達相談を受けられる取り組みについて市と協議し、体制を整える

(オ) 磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター・聖隷相談支援事業所磐田みなみ

- ① “複合課題のある世帯”をみつける仕掛け・情報連携の仕組みを作る
- ② 関係機関の強みを活かし、顔の見えるネットワークを拡大構築する
- ③ 地域住民が、認知症の理解を深め、“我がこと”として考えられるような啓発活動を行う
- ④ 福祉サービスを継続して利用できるように、事業所連携と危機介入・関わりを行う

(カ) 磐田市子育て支援総合センターのびのび

- ① “赤ちゃんデビュー”等講座やイベントを活用し、初来所から継続来所につなげる取り組みを行う
- ② 来所者が安心して人と関わり、来所者同士のつながりを持てるよう働きかける
- ③ コロナ禍で疎遠となった地域との関係を再構築し、子育て親子の孤立化を防ぐ
- ④ 地域と協働した取り組みにて、ファミリーサポート事業の援助会員増加を目指す

2. 働きやすい職場環境づくりと経営の安定化

(ア) 地域（磐田市南部地区）の防災体制と連携した対応ができるよう、BCPを強化する

(イ) e-ラーニングを活用した職員の教育体制と実践の連動を仕組化する

(ウ) 職員が健康で充実した生活を送れるよう、タスクシェアやICTの活用など業務効率化に向けた取り組みを行う

(エ) 事業所・関係機関とのつながりを強化し、事業所の情報発信・見学者や待機者対応・安定利用につながる支援を行う

3. 地域における公益的な取組

(ア) 研修講師・施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

(イ) イベントへの参加やホームページを活用し、情報を発信する

(ウ) 新型コロナ感染症対策にて新たなニーズとなった兄弟児の行事関係による“乳幼児一時預かり保育”の希望に応える体制を整える

【数値指標】

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	磐田みな み(特定)	磐田みな み(障害 児)	チャレンジ 就労移行	チャレンジ 就労継続	チャレンジ 生活訓練
利用者定員	30名	—	—	—	14名	15名	6名
利用者延人数	7,865名	550名	—	—	3,333名	3,825名	903名
一日平均 利用者数	32.2名	—	—	—	12.2名	14.0名	3.7名
稼働率	107.4%	—	—	—	86.9%	93.1%	61.9%
稼働日数 (延べ)	244日	244日	—	—	274日	274日	243日
単価 (一人一日当り)	16,105 円	18,304 円	—	—	9,978円	8,027円	8,107円
サービス活動 収益	126,669 千円	10,067 千円	4,994 千円	9,555 千円	33,257 千円	30,702 千円	7,321 千円
常勤換算職員 数	23.6名	1.3名	2.8名		6.3名	5.2名	0.7名

	チャレンジ 定着支援	はなえみ 放課後デイ	はあと	のびのび	南部包括	南部相談
利用者定員	—	20名	—	—	—	—
利用者延人数	—	5,412名	—	—	—	—
一日平均 利用者数	—	21.0名	—	—	—	—
稼働率	—	104.9%	—	—	—	—
稼働日数(延べ)	—	258日	—	—	—	—
単価 (一人一日当り)	—	11,378円	—	—	—	—
サービス活動 収益	5,635 千円	61,580 千円	37,661 千円	25,012 千円	26,750 千円	12,250 千円
常勤換算職員数	0.3名	10.5名	9.3名	6.7名	4.0名	2.0名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田
 聖隷ケアプランセンター浅田

訪問看護ステーション浅田

【事業・運営計画】

1. 認定取得者の力を最大限に活用し、エンドオブライフケア・呼吸不全や心不全ケアの質向上を目指す。
2. 聖隷ケアプランセンター浅田とのチームワークをさらに高め協働するとともに、東区南部・南区の居宅介護支援事業所との顔の見える関係構築にも力を入れる。
3. 地域への公益的な取り組みについては、多職種と連携し、様々な困りごとを抱える利用者と家族を看護の立場から支援する。
4. 業務の効率化を図り、捻出した時間をサービスの向上と職員の健康増進に反映させる。
5. 自由に言い合える職場づくり、自己効力感を高められるようなフィードバックを行う。
6. より実戦的な防災、防犯、感染症発生時の訓練を繰り返し行う。

【数値指標】

平均利用者	月平均 訪問件数	年間 訪問件数	単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
170名	940件	11,290件	医療 10,300円 介護 9,300円	115,947千円	14.6名

聖隷ケアプランセンター浅田

【事業・運営計画】

1. 障害、医療の知識を深め様々な利用者アドバンス・ケア・プランニングを意識した支援ができるようにする。
2. 地域の特性を理解し、地域性にあった支援を行う。
3. 訪問看護ステーションとの協働により質の高いケアマネジメントを提供する。
4. 効率化やワークライフバランスを意識し、超過勤務削減、有給取得率アップを図る。
5. 防災や感染症への取り組みを実践する。

【数値指標】

年間請求件数		平均単価		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,290件	492件	18,000円	4,023円	24件	4,400円	25,779千円	4名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

2020年度・2021年度の2年間は、新型コロナウイルス感染症への対応が中心となり、地域共生社会の実現を目指すための新たな活動に取り組むことができなかった。2022年度は「with コロナ」の環境の中で既存事業のサービスを安定して利用者へ提供できるよう感染対策の定着と標準化することに取り組むとともに、地域住民と共に取り組める地域貢献活動についても模索したい。

一方、働く職員の確保については今までの厳しい状況が、コロナ禍で更に加速された感がある。ここ数年継続して取り組んできた ICT 化や介護周辺業務等の導入については、働く職員への職場環境改善として2022年度も着実に拡充を進めていきたい。また、特に就職して1年から3年の若手職員が仕事を続ける上で抱える様々な不安や悩みに対して、組織として役職者と先輩職員が丁寧に若手職員をサポートすることにより、職員一人ひとりが福祉事業に携わるやりがいを持って仕事が継続できるよう、離職防止の取り組みについて仕組化していきたい。

【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する
(ア) 特別養護老人ホーム・短期入所生活介護
 - ① 認知症プロジェクトを発足して、個々の認知症状を分析し、その人の人生の歩みを理解し、「その人らしく」を支援できるよう、ケアプランを立案・実施・評価を実践する
 - ② 施設ケアマネジャー、相談員、担当看護師が中心となり、「もしもの時の話し合い」を繰り返し行い、入居者・家族の望む最期が迎えられるよう支援する

- ③ 嚥下プロジェクトを継続、口腔ケアの統一を徹底し、またハイリスクの方には、ごっくんチェッカーを使用して、より詳細な嚥下評価を行うことで個々の食事のニーズに沿った支援ができる
 - (イ) ケアハウス
 - ① 入居者の社会性維持・閉じこもりやフレイル予防のための、地域交流とプログラムを強化する
 - ② 入居申込・退去要件に応じたパスの実施
 - ③ 入居者の状態に応じた機能維持を図るとともに、生活不便を低減する
 - ④ 事故予防に関する入居者への啓蒙・啓発と予防の強化
 - (ウ) 通所介護
 - ① 各地域利用者の個々のニーズに寄り添った生活支援サービスの提供と支援を行う
 - ② 多職種が連携して、在宅生活での暮らしが不便なく続けられるよう、現状の身体・認知機能の維持につながる個別性を重視した機能訓練プログラムの提供と健康管理の強化
2. 職員が専門職としてやりがいを持ち、魅力ある職場づくりを行う
- (ア) 各専門職のラダー、コンピテンシー評価、目標参画を適正に運用し、職員個々の特性、強みに応じた役割を担える体制を整備する
 - (イ) 入居者個々のニーズに合ったケアプランを作成、実践することにより、入居者の変化に気づき、職員のやりがい創出に繋げる
 - (ウ) 無資格・未経験の職員が基礎知識・技術の習得ができるよう、人材育成プログラムを適切に実施・評価する
 - (エ) 浦安地区全体で、離職防止に向けた取り組みを実践する
 - ① 気軽に情報交換、情報発信等ができるよう、LINE グループを作成する（1～3年目）
 - ② 日々の悩みや相談ができるよう、デスクネット機能を活用する
 - ③ 地域の方との交流が図れるよう、清掃活動やイベント等の地域貢献活動に参画する
 - (オ) ICT（見守りセンサー、HitomeQ コネクト他）を導入し、職員の負担軽減を図る
 - (カ) ケアサポーターを適正に配置し、周辺業務を任せることにより、入居者と関わる時間が持てる
3. 経営の安定化
- (ア) 特別養護老人ホーム
 - ① 多職種が連携して、日々の健康管理を徹底することで、入院者数を軽減する
 - ② 待機者がショート利用することにより、空床期間の短縮を図る
 - ③ 科学的介護推進体制加算を取得する
 - (イ) 短期入所生活介護
 - ① 個々の利用ニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供することで定着化を図る
 - ② 緊急、措置利用の受け入れの際は迅速な調整、支援を行う

(ウ) ケアハウス

- ① 空床期間の短縮に向け待機者への関わり方を強化する
- ② 入居者が安心できる生活継続に向けて、一部特定施設への転換を図る

(エ) 通所介護

- ① 各地域の特性の理解と居宅支援事業所との連携を図り、安定した稼働を維持する
- ② 地域で必要とされている朝食や服薬管理サービスの継続に加えて、新たに展開する夕食販売の効果を記載した営業ツールを作成、周知を行うことで、更なる浸透を目指す

4. 防災体制の確立

- (ア) BCP を策定し、緊急時に速やかに対応できるよう周知徹底を図る
- (イ) 職員全員が自立して行動できるよう、実態に即した防災訓練を行う

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 新型コロナ禍の中でも、実習・職場体験やボランティアの受入れ方法を検討実践する
- (イ) 関係機関と密に連携を行い、障がい者雇用の法定雇用率を達成する
- (ウ) うらやす健康・元気コンソーシアムに積極的に参加し、新たな取組みを地域に発信する

【数値指標】

	特養	短期	ケア ハウス	高洲 デイ	猫実 デイ	総合計
利用者定員	100名	50名	50名	25名	25名	250名
利用者延数	34,675名	15,330名	11,594名	5,873名	6,456名	73,928名
一日平均 利用者数	95.0名	42.0名	31.8名	19.2名	21.1名	209.1名
稼働率 (%)	95%	84%	64%	77%	84%	—
稼働日数 (延べ)	365日	365日	365日	306日	306日	—
単価 (一人一日当り)	—	—	—	—	—	—
サービス活動 収益 (千円)	597,667 千円	240,479 千円	104,703 千円	52,189 千円	60,426 千円	1,055,464 千円
職員数 (常勤換算)	69.6名	35.0名	9.2名	9.2名	13.0名	136.0名

浦安市高洲地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 地域における機能と役割の強化

(ア) 浦安市新町地区の特性を活かし、地域包括支援センターの普及啓発や情報発信のためのメール配信、サロン活動や地域との会議等での WEB の併用により、自立支援に資する取り組みを実践する

(イ) 切れ目のない支援の実現のため、地域の関係機関や事業所との連携をより一層強化する

(ウ) 地域住民や関係機関・事業所との連携から地域課題を発掘し発信する

2. 職員の資質向上のための取り組み

(ア) 相談支援スキルラダーの活用と職種ごとの研修に参加により、各職員の能力の向上を目指す

(イ) 各職種が学んだ知識や技術について伝達研修を実施し、センター全体のスキルアップにつなげる

3. 職員のやりがいと働きやすい職場づくり

(ア) 単独での支援とならないよう、センター内で共有しチームで支援を行う

(イ) 業務分掌を明確化し互いにサポートできるような体制をつくり、遅延なく業務遂行を行うとともに超過勤務を削減する

【数値指標】

市受託収入	予防支援等	内再委託件数	予防マネジメント単価	総収入	職員数 (常勤換算)
40,400 千円	予防支援 1,076 件	282 件	4,800 円	46,213 千円	4.6 名
	マネ A 456 件	42 件	4,800 円		

介護老人福祉施設 浦安愛光園

介護老人福祉施設浦安愛光園 障害者支援事業所はぐくみ浦安

2022年度は浦安せいの里内に総合相談室を立ち上げ、相談員同士の連携や調整機能の強化、SNSを活用した情報発信等を行い、地域の皆様にとって利便性の高い施設となるよう高洲地区内で取り組んで行く。浦安愛光園としては「入居希望者が遠回りをせず、最短ルートで浦安愛光園にたどり着けること、複数の特養を検討している場合に浦安愛光園を選んでもらえること」を目指し、機会損失の低減と待機者確保を図る。

質の高いサービスを提供し続けるには、人材が不可欠であり今後も無資格・未経験者の採用と育成を継続する。育成方法については中堅以上の職員を増やし、OJTの実施に重点を置き定着と離職防止に努める。

2021年3月に導入した「HIMVIT」の導入効果を検証しながら、生産性の向上と業務改善を継続、さらに見守りシステムの導入を検討し、ICT推進を図る。

地域貢献活動については、高洲地区でプロジェクトを立ち上げ、定期的な地域住民との交流を実践する。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. 安全・安心で質の高いサービスを提供する
 - (ア) 感染対策を標準化し、安心して日常生活が送れるように生き甲斐を支援する
 - (イ) 「HIMVIT」を活用することで、ユニット内や多職種との連携を強化し、一人ひとりの状態変化・体調変化を見逃さず早期発見・早期対応していく
(入院日数前年比-20%)
 - (ウ) 認知症介護実践者研修の受講を継続し、職員の認知症対応力向上を図る
 - (エ) ターミナルケア委員会を中心に、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の考え方を浸透させる
2. 多様な人材の確保・育成・定着に向けた取組みの推進
 - (ア) シニア世代や障がい者雇用を継続し、一定数を維持する
 - (イ) 無資格・未経験者の採用継続と育成プログラムの見直しを図る
 - (ウ) 中堅職員の数を増やし、無資格・未経験者やEPA候補生に対してOJTの機会を増やす

- (エ) ワークライフバランスを意識し、3連休以上の取得を促進する
- (オ) 離職防止チームと入職3年以内の職員を中心にワクワクする職場づくりと離職防止に取り組む

3. 地域共生社会の実現

- (ア) はぐくみ浦安において、浦安市高洲地域包括支援センターや障がい福祉課、基幹相談センターと連携・協働しながら、8050問題や介護保険に移行する方に対する支援を行い、ご利用者が住み慣れた地域で生活できるように地域包括ケアシステムを遂行する
- (イ) はぐくみ浦安において、浦安市内の連携会議や事例検討会に参加し、学びの場を積極的に作り、相談支援スキルを向上する
- (ウ) 共生型サービスの利用希望者に対しては、空床ショートステイを検討する

4. 経営の改善と業務改善の継続

- (ア) 総合相談室を立ち上げ、高洲地区内での調整機能を強化しサービス利用開始を円滑にする（稼働率96.5%を達成する）
- (イ) ICT化を継続し、見守りシステム導入を検討する
- (ウ) 「HIMVIT」の運用状況を確認し、生産性の向上およびペーパーレス化を促進する
- (エ) ユニットリーダー会議の目的・運営方法を見直し、ユニットリーダーが主体的に発言・行動できるような場を作っていく

5. 地域における公益的な取組みと地域貢献

- (ア) 生活困窮者・生活保護受給者職場体験実習受け入れを継続する
- (イ) 高洲中学校特別支援学級との交流を継続する
- (ウ) BCPマニュアルに基づいた訓練を実施し課題抽出する
- (エ) 高洲地区の地域貢献プロジェクトを通し、施設外の地域貢献活動へ定期的に参画する

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	-	-
利用者延べ人数	26,068名	412名	-
一日平均利用者数	71.4名	-	-
稼働率	96.5%	-	-
稼働日数（延べ）	365日	246日	-
単価（一人一日当たり）	14,937円	14,405円	-
サービス活動収益（千円）	389,389千円	5,935千円	395,324千円
職員数（常勤換算）	49.6名	1.0名	50.6名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2021年度は、新型コロナの影響により利用者の流れ・ニーズが刻々と変化していく中、医療依存度が高い利用者含め、一人ひとりの希望・困りごとに寄り添い、多職種が連携して支援を行ったことにより、地域における介護老人保健施設の役割を發揮することができた。入所部門は、要望があった利用者の看取り対応を開始、また従来型居室及びユニット型居室共に、年間を通じて在宅強化型を維持算定したことで、地域包括ケアシステムを担う1拠点としての存在感を高めた。通所リハビリテーションは、ニーズの高い短時間利用者の割合を増やしたことで、利用控えによる稼働減を補い、収益確保にも繋がった。

2022年度は、在宅療養支援施設としての役割を更に担っていくために、訪問リハビリテーションを開始、アウトリーチ機能を強化する。また、通所リハビリテーションの運営面積を拡張し、安心・安全なサービスを提供するための環境整備や新たなリハビリテーション機器、ICT機器を導入することで、今後急速に高齢化率が高まっていく市内の利用ニーズに積極的に応えていく。そして、地域における施設の存在意義を自分事として捉え、利用者を支援する事に喜びを見出す仲間を増やすために、職場間、職種間を超えた新たな連携スキームやケアを補う機器を導入する等、引き続き現場の革新に注力する。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

1. エビデンスに基づく、利用者本位のケアの追及
 - (ア) 在宅復帰支援の可視化を行い、チームケアとして在宅復帰・在宅療養支援に取り組む
 - (イ) 認知症ケアの理解を深めるため、専門講師派遣やDCM研修を通じてパーソン・センタードケアの取り組みを実践する
 - (ウ) 老健として求められるターミナルケア、医療的ケアが提供できるようにする
 - (エ) 障がい者本人、家族共に安心できる個別ケアを提供するために、対応力を高める
 - (オ) 利用者本位のケアを行うために、福祉用具（移乗機器、車椅子・ベッド等）を計画的に整備する
2. 専門職としての自己実現の場と働きがい、働きやすさのある職場風土の醸成
 - (ア) ケアの質向上のため、外部研修及び事例研究を主とした各プロジェクトを立ち上げ、全体の底上げのための職員教育を実施する
 - (イ) 施設ケアマネジャーの数・質ともに強化できる体制を構築、未来を担う中核職員を育成する

- (ウ) お互いの良いところ見つけ伝え合う「いいとこプロジェクト」の活動を継続、発展させる
 - (エ) 職場間、職種間を越えた連携体制や勤務体制を検討導入し、業務負荷の軽減を図る
 - (オ) HIMVIT やWiFi 機器を導入して、記録・電送業務の置き換えによる業務効率化を実現する
3. 地域の介護ニーズ・地域共生社会の実現を通じた経営安定化
- (ア) 年間5名以上の医療型障がい短期入所対象利用者の定期的受け入れを実現する
 - (イ) 訪問リハビリテーションの展開、一時帰宅支援強化等による在宅復帰率50%を目指す
 - (ウ) 年度内に在宅復帰・在宅支援指標の70点越えを達成し、在宅超強化型を算定する
 - (エ) 総合相談室を立ち上げ、在宅事業所や病院への情報発信による安定的な利用者獲得を模索する
 - (オ) クリニック跡地利用による通所リハビリの拡張・改修を行い、利用者月平均40名超えを目指す
 - (カ) ICT機器によるリハビリ成果の可視化を行い、満足度向上による利用希望者の増加を図る
4. 防災・防犯体制の強化
- (ア) 研修や訓練等により、浦安地区BCPに沿った防災・防犯・風水害対策を実践、強化する
 - (イ) 介護保険法改正に基づく災害時等の地域連携、協力体制を構築する
 - (ウ) 感染対策委員会を主に、COVID-19、その他の感染症も含めた予防と発生時シミュレーションを綿密に行い、時勢に合わせた感染対応を実施する
5. 地域における公益的な取組と開かれた施設づくりの推進
- (ア) 地域貢献委員会を軸に配食や清掃等、地域が求めるボランティア活動へ参画する
 - (イ) 時勢に合わせ、適切な感染対応策の中で、施設内ボランティアの受け入れを実施する
 - (ウ) オンライン等を活用した介護予防、リハビリ講座等を発信する
 - (エ) SNSの積極的活用による施設運営等のプロモーションを展開する
6. 社会福祉施設の役割遂行
- (ア) 生活保護受給者の受け入れ、無料又は低額老人保健施設事業の基準(10%)を満たした運営を行う

【数値指標】

	ベテホーム入所	ベテホーム短期	通所リハビリ	総計
利 用 定 員	100名			145名
利用者延べ数	31,030名	1,644名	12,530名	45,204名
一日平均利用者数	85.0名	4.5名	40.7名	130.2名
稼 動 率	89.5%			—
稼動日数(延べ)	365日			—
単価(1人1日当り)	15,271円	18,809円	11,815円	—
サービス活動収益(千円)	505,711千円		148,052千円	655,763千円
職員数(常勤換算)	66.4名		21.8名	88.2名

聖隷ケアプランセンター浦安

【事業・運営計画】

1. 地域包括システムの実践

- (ア) 同法人複合施設の強みを活かし、ワンストップで対応を図ることで、利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるように支援する
- (イ) 病院関係者、在宅に関わる関係機関と連携を図りながら、病院から自宅に戻ってからも安心して在宅生活ができるように、更に連携を強化し支援体制を整備する

2. ケアマネジメントの質の向上

- (ア) 目標参画を基に、年間研修計画に沿って参加をして個々のスキルアップに繋げる
- (イ) 事例検討会の参加・主催を通じて、各自課題を明確にして日々のケアマネジメント力向上に活かす

3. 安定した経営と働きやすい職場づくり

- (ア) 市内の地域包括支援センターや関係機関と協力、連携をして新規利用者を獲得する
- (イ) 職員がリフレッシュをしてやりがいをもって仕事を行えるように、年間10日以上の有給休暇の取得をする

【数値指標】

一日平均利用者数	年間利用者数	稼働日数	単価（1人1日当り）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
—	1,788名	246日	15,653円	28,977千円	4.0名

聖隷訪問看護ステーション浦安

【事業・運営計画】

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域が必要としているニーズに柔軟に対応できる訪問看護ステーションの継続
 - (ア) ターミナルケア・精神障がい・認知症・アロマケアの訪問看護ケアを充実させる
 - (イ) 実施した訪問看護の評価を繰り返し、ケアの質向上につなげる
 - (ウ) 東京海上日動ベターライフサービス株式会社との更なる協働をし、法人の枠を越えて地域を支援する体制を構築する

2. 聖隷訪問看護ステーション浦安サテライト稲毛海岸の運営と経営を安定させ、独立開設できる基盤づくりをしていく
 - (ア) 安定的な訪問件数増加を考え、病院や居宅介護事業所などへの営業活動を行う
 - (イ) 聖隷訪問看護ステーション浦安の稼働バランスを取りながら、一体的な運営を行っていく
 - (ウ) 新たな職員を採用し、採用教育プログラムに沿ってOJTを行い、訪問看護の質を確保する

3. 職員がやりがいを持つことができ、働きやすい職場を作る
 - (ア) 介護支援システムの活用やスケジュール、記録などの省力化を図り、効率の良い業務改善を行い、働き続けられるワークライフバランスにつなげる
 - (イ) 目標参画システム・職種別ラダーを通して、各職員の得意分野の学びを深め、職場の勉強会で共有していく
 - (ウ) 職員間の情報共有の課題を検討し、どこにいても情報共有できる方法を確立させ働きやすい環境を整える

4. 地域における公益的取組
 - (ア) 地域住民が健康や介護へ関心が持て、住みやすい街になるよう、地域主催のイベントに健康相談等で参加をしていく
 - (イ) 1回/月のケアローン健康相談を継続し、地域住民の支援をしていく

【数値指標】

	平均 利用者数	訪問件数 (月間)	訪問件数 (年間)	単価	サービス 活動収益	職員数 (換算)
全体	114名	778件	9,338件	10,090円	94,217千円	13.0人
浦安	90名	592件	7,108件	10,139円	72,068千円	10.4人
サテライト	24名	186件	2,230件	9,933円	22,149千円	2.6人

介護老人福祉施設 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
障害者相談支援事業所 聖隷はぐくみ松戸

2021年度の松戸愛光園ではコロナ禍の中、利用者と家族の面会機会や施設と地域との繋がりなどが減少するなかで、様々な試行錯誤を続けながら事業を継続してきた。

2022年度は、各事業で利用者の個別ニーズに合わせたサービスの提供を継続し、各事業が情報発信を積極的に行って、コロナ禍で面会や見学等の機会が減少している現状でも松戸愛光園を知っていただけるよう取り組んでいく。また、2020年度から延期していた生活介護事業新規開設については、2022年度も引き続き開設を検討していく。

これからも感染対策に取り組みながら、地域ニーズに合わせた事業を実施し、地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく。

【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

【事業・運営計画】

1. 高齢者・障がい者への地域ニーズに合わせた専門的なサービスの提供
 - (ア) 入所・短期入所では、ユニット内でケアプラン共有を充実させて、チームでの個別ケアを実践する
 - (イ) 医療的ケアの充実を図り、看取り場面での利用者・家族の意思決定を支援する
 - (ウ) 利用者確保のため営業活動の手法を見直し、計画的な営業活動を実施する
 - (エ) 通所介護事業では、一人一人のニーズに合わせたサービス提供を継続し、利用者満足度を高める
 - (オ) 居宅介護支援事業では、近隣医療機関との連携を図り、終末期の利用者受入れを積極的に進める

(カ) 地域で不足している障がい者生活介護事業は、地域住民のニーズ合わせた支援を実施できるように検討をすすめていく

2. 職員が自分らしく働ける職場づくり

- (ア) 各職場で定期的な情報発信をおこない、施設内や地域の人とのつながりを持てる仕組みを作る
- (イ) 職員一人一人のやりたいことを共有し、組織で支援できる体制づくりを行う
- (ウ) 質の高い学生実習の機会を提供し職員採用に繋げる

3. デジタル化推進と設備更新による安全性向上と効率化推進

- (ア) 見守りシステムの効果的な活用をすすめ、介護業務の効率化を図る
- (イ) インカム導入によりタイムリーな情報共有と介護職員の育成につなげる
- (ウ) 経年劣化した設備等の修繕を早期に実施し安定稼働に繋げる

4. 社会貢献活動の実施

- (ア) 松戸ニッセイエデンの園と協働で、福祉学会、チャリティバザー、地域清掃活動については感染対策を図りながら実施していく
- (イ) 地域の二次福祉避難所として、実際の災害時を想定した受入れ方法を検討し、マニュアル作成や必要物品の確保をすすめる

【数値指標】

入所・短期入所・通所関係事業

	特養入居	短期入所		通所介護			生活介護 (3月より)
		介護保険	障害	介護	総合	障害	障害
利用者定員	103名	21名		34名			20名
利用者 延べ数	36,285名	6,478名	227名	5,526名	2,064名	585名	96名
一日平均 利用者数	99.4名	17.7名	0.6名	17.9名	6.7名	1.9名	4.2名
稼働率(%)	96.5%	87.5%		78.0%			20.9%
稼働日数 (延べ)	365日	365日		309日			23日
単価 (一人一日 当り)	15,006円	15,432円	7,734円	9,476円	25,966 円/月	8,032円	8,130円
サービス 活動収益 (千円)	544,490 千円	101,725 千円		68,728 千円			825 千円
職員数 (常勤換算)	72.0名	15.7名		14.4名			4.3名

居宅介護支援事業

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防				
1,578件	300件	17,095円	4,611円	36件	4,400円	28,518千円	4.0人

障がい者(児)相談支援事業

年間サービス 利用数	年間継続サービス 利用数	サービス 活動収益(千円)	職員数 (常勤換算)
16件	123件	3,219千円	1.6人

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園

聖隷訪問看護ステーション横須賀

横須賀愛光園 デイサービスセンター

聖隷ヘルパーステーション横須賀

西第二地域包括支援センター

聖隷ケアプランセンター横須賀

2022年度、横須賀愛光園は開設から30年目を迎え、老朽化した施設・設備のリニューアルを目的とした大規模修繕工事を実施する。工事は長期間を予定しており、また、新型コロナウイルス感染症への対策等を継続しながらの実施となるため、利用者や地域にもご理解を頂きながら安全にすすめていきたい。

この大規模修繕やICT機器をはじめとする設備投資、新規事業の開設準備の機会を通し、職員一人一人のやりがいや前向きな気持ちの醸成、そして利用者へさらなる安心安全が提供できる新たな形『横須賀愛光園 Next Stage』を創造する年度としたい。

【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

【経営方針】

1. 地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
2. 互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
3. 職員一人一人の資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
4. 決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】

1. 老朽化した施設、設備の大規模修繕と新たな価値の創造
 - (ア) 厨房、デイサービス、1階浴室、事務室、洗濯室、トイレ等の大規模修繕を計画的かつ安全に実施する（令和3、4年度地域医療介護総合確保基金の活用）
 - (イ) 看護小規模多機能型居宅介護の開設準備（2023年4月開設予定）と障がい者日中活動系サービスの展開検討を行い、より切れ目のないサービスが提供できる施設作りを行う
 - (ウ) 事務所の改修を実施し、在宅事業も含めた一体運営による運営管理課の再編を行い、事務業務の効率化と分担化に取り組む
 - (エ) 各事業においてICT機器等の活用を促進し、効率性の高い業務へ変革する
 - ① 特別養護老人ホームにおいて、見守りセンサー・インカムの活用を促進し、夜間などの不安の軽減と、利用者の待ち時間の減少や事故対策の強化に取り組む
 - ② 「HIMVIT」の活用促進に伴い、ペーパーレス化やケアプランの見直しに取り組む
 - ③ 訪問介護において、ケアピアノートアプリの活用を促進し、記録、情報伝達機能の効率化と勤怠管理作業の効率化にも取り組む
 - ④ 訪問看護において、WINCARE スケジュール管理機能の活用をすすめ、ペーパーレス化と専門職の間接業務時間の削減を図る
 - (オ) 大規模修繕、新規事業準備、30周年リニューアルなどの機会を職員参画プロジェクト化し、『わくわく』を創造する

2. 人材の確保と育成を推進する

(ア) 職種、階層別の教育支援体制の構築、実施

- ① 新人、未経験者への教育支援体制のスケジュールに沿った実施と評価を行う
 - ② 相談、ケアマネジメントスキル向上や興味啓発の研修を実施する
- (イ) 厨房改修後の一部洗浄業務の切り分けによる介護助手や障がい者雇用等に取り組む
- (ウ) オンライン、HP等を活用促進し、求人活動や研修の充実を図る
- (エ) 感染予防策の徹底、事業継続計画（BCP）の作成と訓練の実施
- (オ) 36協定の遵守、労働災害発生0件の達成、有給休暇取得率向上を目指す取り組みの実施

3. 利用者一人一人に合わせた質の高いサービスの提供と経営の安定化

(ア) 特別養護老人ホーム、短期入所

- ① 『横須賀わくわくプロジェクト』を継続し、システムを活用した新しい業務の実施、評価を行い、全職員を巻き込んで業務変革に挑戦する
- ② 事故予防、ケアプランの見直し、接遇の改善について重点的に取り組みを行う
- ③ 利用調整、受け入れ対応等にかかるシステムの見直しを図り、空床利用活用を含めた稼働率の向上を図る

(イ) デイサービスセンター

- ① 大規模修繕により、機能訓練、余暇活動、入浴サービスなど個人日課でのサービス提供ができる仕組みへ転換し、幅広いニーズへ対応できる体制を整える
- ② 介護支援システムを活用した省力化とケアスキル向上を目指した取り組みを行う
- ③ 共生型生活介護において、生産活動や機能訓練など特別支援学校の進路となる活動の試行を行う

(ウ) 西第二地域包括支援センター

- ① 介護予防、権利擁護啓発活動の更なる推進に向けた取り組みの継続
- ② センター業務の見直しを行い、人材の定着と育成による総合相談力の向上を図る

(エ) 聖隷訪問看護ステーション横須賀

- ① 総合病院との関係強化や、スキルアップに取り組み、質の向上と利用実績5%増を図る
- ② インターンシップ、教育体制の整備を行い、新卒採用への仕組みを作る
- ③ 看護小規模多機能型居宅介護開設に向けて準備を行う

(オ) 聖隷ヘルパーステーション横須賀

- ① 関係機関との連携の強化や介護スキルの強化に取り組み、利用者満足の向上と利用者確保につなげる
- ② 事業所内の登録ヘルパーへのケース移行を計画的に行い、緊急対応や感染対応などに柔軟に対応できる体制を作る

(カ) 聖隷ケアプランセンター横須賀

- ① 相談ラダー、各種研修の実施や事例検討会を通じ、職員のスキルの向上を図るとともに、信頼関係作りに重点を置いた取り組みを行う
- ② 利用者担当件数を維持しつつ、柔軟な受け入れができる体制作りと特定事業所加算Ⅱ取得を維持する

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 在宅事業と連携し、地域に対し適切かつ有益な情報発信を行う

(イ) 地域ボランティアセンター運営への参加を継続する

【数値指標】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括 支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	64名	40名	16名	30名	—
利用延数	22,849名	14,238名	4,972名	6,642名	—
一日平均利用者数	62.6名	39.0名	13.6名	21.6名	—
稼働率(%)	97.8%	97.5%	85.1%	71.9%	—
稼働延日数	365日	365日	365日	308日	—
平均介護度	3.98	3.98	2.95	1.87	—
単価(1人1日)	12,200円	15,100円	11,950円	9,945円	—
サービス活動収益	280,425千円	215,560千円	59,482千円	66,067千円	37,577千円
職員数(正・エ A)	31.4名	19.1名	6.0名	3.2名	3.2名
職員数(パ・ア)	6.6名	7.8名	1.8名	7.8名	2.0名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	118.5名	49.0名	80.0名	15.0名	28.0名	—
月平均訪問件数	612.5件	332.7件	1,073件	59.1件	214.1件	—
利用延時間数	—	—	10,720 時間	534 時間	3,690 時間	9 時間
稼働延日数	249日		261日			
単価	11,100円 /件	11,300円 /件	4,780円 /時間	4,100円 /時間	4,510円 /時間	—
サービス活動収益	129,164千円		70,599千円			
職員数(正・エ A)	10.0名		6.0名			
職員数(パ・ア)	4.8名		2.9名			

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正・エ A	パ・ア
1,680件	96件	16,800円	4,560円	60件	4,500円	28,722 千円	3.0名	2.0名

宝塚せいのりの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいのりの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。その人らしい生活を実現させるには、選択できる機会が重要であり、利用者が自分の意思を表現し、我が家のように安心して生活できる施設として、取り組んで行く。そのために職員は、福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。2年にわたる新型コロナウイルス感染症の対応により、入居者・家族・職員・地域の関係性が薄くなった事は否めないが、それを当たり前とせず、「結ぶ」役割は変わらず地域福祉の推進に取り組んでいく。

ICT 機器・介護機器は、2022 年度も適宜検討・導入を踏っていく。資格職が質の高い専門性を発揮する為に取り組んできた「介護補助者・障害者雇用・介護ロボットから記録システム」は、それぞれが点ではなく線として繋がり、導入する目的を職員が理解した上で、業務ルーチンや勤務シフトといった働き方を見直していく。

地域コミュニティ会議へは継続して参加しており、防災訓練や福祉教室、地域活動等への参加は、感染症の状況を踏まえて可能な限り参加していく。また、中断となっている地域コミュニティとの災害時防災協定締結についても再開し、地域安心拠点としての役割を担えるように活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 利用者の個別性を尊重したサービスの提供
 - (ア) 入居者・利用者一人ひとりの能力に合わせた、個別性のある介護の提供
 - (イ) 趣味嗜好や生きがいといった個別の楽しみに繋がるレクリエーションの充実
 - ① 園芸活動を通じた作業療法士の領域拡大
 - ② 生活の快となる個別アクティビティーの充実を図り、生活の活性化を目指す
 - (ウ) 多職種連携により総合的な視点を高めた、入居者・利用者の心身の状態に応じた適切な介護の提供

2. 職員にとって「働きがいのある職場」環境の構築

- (ア) 聖隷・施設理念に基づくケアの浸透。介護計画を通じた職員個々のアセスメント力の向上と介護力の向上
- (イ) 見守り機器による巡回システムの構築と記録システムのルール明確化、介護リフトを使った移動介助等、利用者の安心感につながる介護の実現
- (ウ) 入居者と家族、そして施設を結ぶ、新たなコミュニケーションツールの導入と活用

3. 職員教育の推進

- (ア) 利用者の生活全体を見る力を高め、ケアマネジメントの質の向上を図る
- (イ) 在宅介護・施設介護の互いの環境を学び、シームレスなサービスを提供
- (ウ) 介護保険制度に則った、適正な支援の提供
- (エ) 新たなシステム、機器、制度に対応できる教育の実施

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

- (ア) 地域サポート型施設として、地域高齢者が安心して生活を継続できるように支援
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放
- (ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアを積極導入
- (エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る
- (エ) 介護講座・介護相談の開催、実習受入れを通して福祉教育にも注力する

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	特養入所 (ユニット)	短期 入所	通所介護 (一般)	居宅介護支援		権利擁護 支援センター	合計
				介護	予防		
利用者定員	100名	20名	30名				
利用者・請求 延べ数	35,040名	7,081名	6,679名	2,490件	216件		
一日平均利用者数	96名	19.4名	23名				
稼働率	96.0%	97.0%	76%				
稼働日数(延べ)	365日	365日	305日				
単価(一人一日・ 件当たり)	15,989円	15,726円	11,000円	17,800円	4,403円		
サービス活動収益 (千円)	592,840千円	113,635千円	76,440千円	45,194千円		21,423千円	849,532千円
職員数(常勤換算)	82.9名	14.8名	16.5名	8.7名		3.5名	126.4名

宝塚せいのりの里

介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

法人の基本理念である「隣人愛」と共に、宝塚せいのりの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げている。特養に比べ自立度の高いケアハウス宝塚では、入居者の個々の希望、ニーズを受け止め、その人らしい生活を営むことができる施設づくりに取り組んでいる。その人らしい生活を実現するためには、「一人ひとりの想い」を実現させる機会、選択できる機会が重要である。入居者が満足するサービスのためにも、職員は福祉に携わる者として成長し、法人理念・施設理念に基づいたケアを実践しなければならない。

2年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症による面会制限が続き、入居により家族と会えなくなるという想いが待機登録者の減少となる中、自立度の高いケアハウス宝塚においてはより顕著な傾向となっている。2021年度に面会室の設置も完了し、感染症の流行に関わらず会える事の周知を行う等、待機登録者の確保は喫緊の課題である。

宝塚せいのりの里内で先行して勤務体制の変更を行い、見守り機器の導入と合わせて、職員の働き方を見直してきた。日中勤務帯の配置を厚くした事で、入居者と関わる時間が増えたとの声も聞かれている。2022年度もソフト・ハード両面で、職員が働きやすい環境整備に努めて行く。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ。

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします。
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します。
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します。
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします。
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します。

【事業・運営計画】

1. 入居者がより「自分らしさ」を実現できる支援に向けて
 - (ア) 入居者の状態変化に早期に気付き、施設での生活を継続できるように支援する
 - (イ) 入居者の状態に応じ、宝塚せいのりの里内での連携を高める
 - (ウ) 入居者の「自分らしさ」に対応した、余暇活動や外出企画を計画・実施する
2. 職員にとって「働きがいのある職場」環境、職員教育の推進
 - (ア) 法人・施設理念に基づくケアの浸透。介護計画を通じた職員個々のアセスメント力・介護力の向上
 - (イ) 見守り機器導入による巡回システムの構築と記録システムのルール明確化、介護リフトを使った移動介助等、利用者の安心感につながる介護の実現

- (ウ) 勤務体制の変更、介護機器の活用により生まれた時間を、いかに入居者に関わるか、ユニット形態に拘らず職員全体で共有する
- (エ) 入居者と家族、そして施設を結ぶ、新たなコミュニケーションツールの導入と活用

3. 職員教育の推進

- (ア) 利用者の生活全体を見る力を高め、ケアマネジメントの質の向上
- (イ) 在宅介護・施設介護の互いの環境を学び、シームレスなサービスを提供
- (ウ) 介護保険制度に則った、適正な支援の提供
- (エ) 新たなシステム、機器、制度に対応できる教育の実施

4. 地域に信頼される施設運営と公益的取組

- (ア) 地域包括ケアに対する役割として、地域高齢者が安心して生活を継続できるように支援
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放
- (ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入
- (エ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理について情報交換・協働を図る
- (エ) 介護講座・介護相談の開催、実習受入れを通して福祉教育にも注力する

5. 環境活動への取り組み

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付きケアハウス
利用者定員	70名
利用者延べ数	24,528名
一日平均利用者数	68名
稼働率	97.0%
稼働日数（延べ）	365日
単価（一人一日当たり）	14,385円
サービス活動収益（千円）	352,824千円
職員数（常勤換算）	44名

宝塚せいの里

介護付き有料老人ホーム 結いホーム宝塚

2021年度、結いホーム宝塚では、8月に入居者2名が新型コロナウイルス感染症陽性と診断された。入院まで施設にて療養する期間がある中、職員一人ひとりが感染対応策を徹底し、感染を拡大させなかったことや、適宜状況を踏まえ判断し行動ができたことは、2週間に渡る厳しい状況の中で感じ取れた結いホーム宝塚の力であった。

新型コロナウイルス感染症は2020年度に引き続き入居者募集にも影響した。面会や外出が制限される環境下での施設入居控えは近隣競合施設においても同様の状況であり、新型コロナウイルス感染症の動向からも、暫く続きそうな様相である。限られた施設入居検討者に対して、いかに情報を届け、選んでもらえるかが喫緊の課題である。

また、入居者の生活においては、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、面会や外出の制限緩和を図ってきたが、2022年度についても状況に応じた対応は継続していく。入居者一人ひとりの想い、そのご家族の想いに寄り添い、もう一度結び直す一年としていく。

2021年度は、介護ロボットやICT機器の導入を進め、業務の効率化、夜勤体制の見直しに取り組んだ。2022年度は、この取り組みを評価・定着させ、目的の一つである入居者の日中活動の充実に力を入れていく。

地域との関わりとしては、地域コミュニティ会議、防災訓練、サロン活動等に対して、地域の動きを見ながら関わり方を工夫したい。また、地域自治会との災害時防災協定については、積み残しとなったため、締結に向けて協議を再開し、地域の安心拠点としての役割を担えるように活動していく。

【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

【事業・運営計画】

1. 入居者・家族の期待に応えるサービスの提供
 - (ア) 利用者の期待に応えられるアクティビティの充実
 - (イ) ツールを活用した家族とのコミュニケーションの充実
 - (ウ) 感染症の状況に応じた柔軟な面会・外出対応
 - (エ) 入居者の望む生活を支えられるケアマネジメント力と多職種連携の強化
 - (オ) 2021年度末に導入した介護ロボットやICT機器・夜勤体制変更の評価・改善・定着

2. 職員一人ひとりを大切にできる職場環境・職員教育の推進

(ア) ノーリフティングケアの実現

①入居者の身体状況に合わせて使用できる入浴設備の整備

②負担の大きい移乗介助場面の切り出しと介護ロボット活用を含めた対応の検討

(イ) 係長・リーダーの役割分担の見直しとマネジメント力の強化

(ウ) ケアパートナー・サポーターが強みを活かせるよう、業務内容・役割分担の見直し

(エ) プリセプターも成長できる新人教育体制の構築

3. 安定した施設運営

(ア) 入居検討者が知りたい情報の発信

(イ) 有償利用を活用した新入居調整と稼働率の維持

(ウ) 安全な施設運営のため経年劣化を見越した計画的な修繕の実施

4. 地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

(ア) 催事の相互交流やボランティアとの交流等、入居者と地域の交流を保つ

(イ) 防災や防犯などのリスクについて、地域住民・団体と情報交換し協働する

(ウ) 地域が抱える課題の共有、課題に対する講座の開催や協働を図る

(エ) 福祉教育について、宝塚市の動向も見ながら参画する

5. 環境活動への取り組み

(ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める

(イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

【数値指標】

	介護付き有料老人ホーム
利用者定員	100名
利用者延べ人数	34,858名
一日平均利用者数	95.5名
稼働率	95.5%
稼働日数(延べ)	365日
単価(一人一日当り)	17,036円
サービス活動収益(千円)	596,955千円
職員数(常勤換算)	67.1名

介護老人福祉施設 宝塚栄光園

特別養護老人ホーム宝塚栄光園

短期入所生活介護

2022年度は宝塚市内で最も歴史のある特別養護老人ホームとして開設43年目を迎える。特別養護老人ホームは、地域の方にとって『最後のとき』を安心してむかえたい」という希望を叶えるための「介護における『最後の砦』」である。宝塚栄光園はそのために存在し、職員は利用者サービスを提供している。2022年度も新しい生活様式の継続が想定されるなか、利用者へサービスの質を確保していくうえでも、ICTや介護ロボットを更に活用し、業務の効率化・新たなニーズへの対応を行える人材育成を行っていくことから実践していく。また、これからも地域で必要とされる福祉施設であるため、新型コロナウイルス感染症拡大の環境下で、関わり方を工夫しながら、大規模災害等の訓練を地域と協力開催し、非常時に継続できる事業体制の構築を目指す。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者のために

- (ア) 新たな記録システムや見守り機器を活用し業務を効率化することで、ケアの充実を図る
- (イ) 新型コロナウイルス感染症流行下においても利用者と家族の繋がりを大切にし、生活の中での楽しみを提供する
- (ウ) 宝塚エデンの園附属診療所のセラピストと連携した個別機能訓練を継続し、生活の質の向上を図る
- (エ) 地域のニーズに応えるために、積極的かつ柔軟な短期入所の受け入れ体制を整える

2. 職員のために

- (ア) 職員が安心して業務を行えるように、ICT機器を活用した客観的データに基づいて業務判断の標準化を図る
- (イ) 経験や役割に応じた職員間で想いを共有する場を設け、働きやすい環境を整える

3. 施設を守る

- (ア) 入居・短期入所のベッドコントロールを図り、稼働率を維持することで経営を安定させる
- (イ) 新型コロナウイルス感染症罹患者施設内療養の経験に基づき、継続できる事業体制構築の一環として大規模災害や感染症に対する計画を作成し、シミュレーション訓練の定期的な実施を定着させる

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 園内に留まらず、地域とともに防犯訓練を開催する
- (イ) 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、地域に向けた介護技術や認知症予防等の勉強会及び資料の配布を実施する
- (ウ) 自治会活動に積極的に出向き、地域との関わりを深める

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。(個室 21 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室)

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	17 人	87 人
利用者延べ人数	24,637 人	5,840 人	30,477 人
一日平均利用者数	67.5 人	16 人	83.5 人
稼働率	96.4%	94.1%	96%
稼働日数(延べ)	365 日	365 日	365 日
単価(一人一日当り)	12,803 円	12,838 円	12,809 円
サービス活動収益(千円)	318,320 円	74,978 円	393,298 円
職員数(常勤換算)	45.8 人	8.2 人	54 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター

【事業・運営計画】

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供
 - (ア) 身体介護に特化した職員の育成に重点を置くために、喀痰吸引資格の取得者や認知症介護実践リーダー研修修了者を増やし、重度ケア・ターミナルケア・認知症ケアを断らない、受け入れていく体制を作る
 - (イ) サービス提供責任者の専門研修などを活用しながら職場内研修を定期的実施し、サービス提供責任者のスキルアップを図る
 - (ウ) 要支援者への新たなサービスを見出していく
 - (エ) 再体験（外出、調理、買い物等）や、利用者同士の繋がりに目を向けたプログラムの実施に取り組む
 - (オ) 宝塚第二地区のデイサービス相談員の連携を強化し、他事業所とも連携を図りながら地区全体で利用者を支えていく

2. 業務の ICT 化を進めていく
 - (ア) けあピアノートを活用して業務の効率化を図る
 - (イ) WINCARE とけあピアノートの連携を活用し、労務業務の効率化を図る

3. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する
 - (イ) 役職を担える職員を地区で共有し、育成を目的とした人事交流を行う

4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 宝塚第二地区内の拠点 4 か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する
特に 2022 年度は、聖隷ケアセンター宝塚の機能を活かした取り組みを考え、形にしてい
 - (イ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	予防(月)		
104 人	1,253 件	13,968 件	575 人	6,905 人	5,100 円	18,600 円	100,219 千円	15.6 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(回)	総合(月)		
27 人	700 人	8,396 人	97 人	1,158 人	10,300 円	39,000 円	94,172 千円	17.6 名

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚 聖隷ケアプランセンター宝塚 逆瀬川地域包括支援センター

【事業・運営計画】

1. 在宅で最期まで過ごせる支援の提供
 - (ア) 施設を含め、地区内の看護職・医療技術職・介護職・相談職が連携し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を支援できる体制を強化する。聖隷訪問看護ステーション宝塚においては、スタッフの特定医療行為研修への受講を進めていく
 - (イ) 聖隷訪問看護ステーション宝塚においては「機能強化型訪問看護管理療養費1」を、聖隷ケアプランセンター宝塚においては「特定事業所医療介護連携加算」を、それぞれ継続的に算定できる受け入れ体制を作る
 - (ウ) 関係機関や地域住民に対して、ACP（アドバンスケアプランニング）に関する啓発を行う
2. 職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成
 - (ア) 法人内事業所の連携強化を行い、職員同士がフィードバックし合える関係性を構築する
 - (イ) 役職を担える職員を地区で共有し、育成を目的とした人事交流を行う
3. 資源の効率的活用と生産性の向上
 - (ア) 事務職員の業務内容・配置を見直し、効率的な事務体制を構築する
 - (イ) WINCARE の活用強化、訪問看護においてはスケジュール作成ソフトの活用
4. 地域における公益的な取組
 - (ア) 宝塚第二地区内の拠点4か所において、地域住民が集える活動・参加・協働の場を創造する
特に2022年度は、聖隷ケアセンター宝塚の機能を活かした取り組みを考え、形にしていく
 - (イ) ソーシャルワークの専門性を高め、制度と繋がっていない地域住民へのアウトリーチ機能を強化する
 - (ウ) 専門職と地域住民のネットワークづくりを行い、地域での包括的な支援体制の構築を目指す

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
医療	69人	675件	8,098件	10,300円	167,346千円	23.2名
介護	130人	658件	7,894件	9,300円		
予防	21人	71件	853件	7,700円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	サービス 活動 収益(千円)	職員数 (常勤 換算)
介護	予防	介護	予防				
3,720件	318件	19,000円	4,200円	2,182件	4,950円	82,703千円	14.8名

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

年間請求件数		平均単価(円)		サービス活動 収益(千円)	職員数 (常勤換算)
予防	予防(委託)	予防	委託(委託)		
2,500件	1,600件	4,839円	619円	77,900千円	15.1名

聖隷逆瀬台デイサービスセンター

聖隷デイサービスセンターあゆむ

【事業・運営計画】

1. 質の高い介護サービスを提供し、利用者が在宅生活を継続できるように支援する
 - (ア) 利用者・家族が安心できる、安心安全な介護サービスを提供する
 - ①要介護3以上の中重度介護が必要な利用者を中心に受け入れる
 - ②職員への介護技術のOJT・OFF-JT機会を創出し、人材育成に努める
 - ③介助中のアクシデント減少のため、リスク対策強化に努める
 - ④ケアの安全性を高める介護機器を検討し、導入する
 - (イ) 関係機関とのシームレスな情報共有で医療ニーズへ対応する
 - ①ICTを活用し、在宅医を含む関係機関と連携から、タイムリーな情報共有を図る
 - ②看護職人員体制を見直し、看取り期の利用者受け入れを増やす
2. 認知症利用者が介護者と共に、自宅で穏やかに生活が続けられるように支援する
 - (ア) 利用者それぞれが穏やかな時間を過ごせる個別ケアを提供する
 - ①利用者個々の周辺症状に対応するために、生活歴を紐解いた個別の関わりを深める
 - ②作業療法士と協働し、行動変化や日常生活における認知症の影響を評価する
 - ③認知症に対する専門性向上にむけ、他機関との医療介護連携を推進する
 - (イ) 介護者が自宅介護のモチベーションを保てるように関わる
 - ①介護負担尺度評価により、介護者自身の身体的・精神的健康を可視化する
 - ②事業所と利用者家族が関係構築できる場「運営推進会議」を定期的に設ける
3. 地域における公益な取り組み
 - (ア) 逆瀬台地域の高齢単身者・高齢世帯への見守り活動に協力する

【数値目標】通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
24人	625人	7,505人	12人	248人	13,800円	37,000円	115,887千円	23.7名

【数値目標】地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護(月)	予防(月)		
8人	194人	2,322人	—	—	16,000円	—	37,154千円	7.2名

聖隷デイサービスセンター結い

【事業・運営計画】

1. 自立支援につながる質の高い機能訓練の提供

(ア) 利用者が、自分らしく自宅での生活を続けられるように支援する

(イ) 「活動」「参加」の促進ができる機能訓練の提供

①国際生活機能分類に基づくアセスメントで、生活課題の目標を設定する

②セラピストを中心に、他職種が連携して機能訓練を実施する

③法人内のセラピスト連携体制を活用し、スキルアップを図る

(ウ) 他機関と連携・協働し、医療から継続性のある機能訓練の提供

①他機関のセラピストとの連携体制を構築する

②生活機能向上連携加算の算定を継続する

③福祉用具事業所と連携し、福祉用具を展示、状態に合う用具を提案する

2. 地域における公益的取り組み

(ア) 施設設備を開放し、地域住民が機能訓練を体験できる場をつくる

(イ) 地域活動に参加し場所・人員の提供等に協力する

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス 活動収益	職員数 (常勤 換算)
平均利 用者数	月間利 用件数	年間利 用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 (日)	予防 (月)		
13.9人	358件	4,292件	89人	1,067人	7,000円	32,000円	62,743千円	11.8名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

福祉用具貸与単価上限設定見直しが行われる度の貸与単価引き下げによる収益減、介護保険の自己負担割合が2割、3割となる利用者による利用控えが発生する状況下で、既存取り先からの依頼を確実に実績へ繋げる事が必須となっている。そのために法人内の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所からの紹介率を上げる事で経営の安定を図る。また浜松地区での障がい者就労支援事業を参考に、宝塚地区の施設への車椅子貸与事業を始める。

【事業・運営計画】

1. 法人内からの福祉用具貸与依頼件数を増やす
 - (ア) 経年的に依頼件数の減少が見られる地域包括支援センターと居宅介護支援センターについては、重点的に対応し依頼件数増を目指す
 - (イ) 貸与紹介件数アップには入口である「電話対応」が重要である。電話対応力を向上させ業務の連携を円滑にすることで「依頼し易い事業所」になる
 - (ウ) 施設、在宅を問わず福祉用具自費貸与の要望に応えられるように取引先と協力し、対応できる品目を増やし、制度では福祉用具貸与を利用できない方へのサービス充実を図る
2. 障がい者就労支援事業へ向けた取り組み
 - (ア) 現在浜松のコミュニティケアセンターで行っている特別養護老人ホームへの車椅子貸与を始める。それに伴い障がい者就労支援事業を宝塚地区施設と協働して進める
3. 地域における公益的取り組み
 - (ア) 宝塚地区の聖隷デイサービスセンターの空スペースを利用し、デイサービス職員や地域包括支援センターの協力を得ながら利用者や地域へ向けた福祉用具の相談、PRを行う

【数値指標】

年間 貸与件数	年間 貸与収益	年間 販売収益	年間 住宅改修収益	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
9,455 件	101,562 千円	59,000 千円	19,500 千円	180,062 千円	10.6 人

花屋敷せいのりの里

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
聖隷訪問看護ステーション山本
花屋敷地域包括支援センター
聖隷ケアプランセンター花屋敷
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷

2021年度は、新しい生活様式へ順応しながらも未だ感染対策による制限が必要な日々が続いており、利用者、職員ともに心身への影響は大きく辛い年であった。しかし、コロナ禍において安定した事業運営を継続できたことは、利用者や関わりのある方々の協力だけでなく、職員一人一人の努力の結果であると考えている。

2021年度に取り組み予定であった、リハビリや医療ニーズの高い利用者の受入れについて未実施だったことから、2022年度は引き続き取り組みに努め、訪問看護とデイサービスが協働し、居室改修を行ったショートステイでの受け入れを図っていく。また、スタッフ参画型の新しい働き方や施設環境を踏まえた見守りシステム等の導入や入浴機器の入替計画プロジェクトを開始し、利用者にとって安心と安全が図れ、職員にとってもやりがいと魅力ある職場につながる年度としたい。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

1. サービス機能を活かした繋がりある支援体制の構築と充実
2. 「安心して暮らせる」質の高いサービスを提供する
3. 専門職としての成長と活躍できる環境づくり
4. 運営安定化の推進
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 「安心して暮らせる」サービス機能を活かした繋がりある支援と定着
 - (ア) 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・相談支援事業所が協働し、未だ表出されていない地域ニーズの把握に努め、必要なサービスを創造する
 - (イ) 通所介護では、リハビリやアクティビティを中心とした短時間利用や中重度利用者の受入体制を構築する
 - (ウ) 短期入所生活介護では、改修工事を行った居室を活用し、訪問看護と協働した医療ニーズの高い利用者の受入れを行う

(エ) 在宅サービスと施設サービスが種別を問わず協働した支援体制を促進させるとともに地域への周知に努める

2. 利用者満足度の高いサービスの提供

(ア) アドバンス・ケア・プランニングの考え方を共有し、看取りケアの有り方を考えるとともにそのプロセスをケアプランや日々のケアにも反映させる

(イ) セラピストによる機能評価や歯科医師等と連携したケア共有による誤嚥性肺炎等の予防や体調変化の早期発見と迅速な対応により状態悪化の抑制に努める

(ウ) 利用者の活動支援や季節を感じられるイベント、ICTを活用したレクリエーションを実施

(エ) パブリックスペース等の運用を見直すとともに環境整備を行う

3. 職員が専門職としての成長を感じられ、自己実現の追求支援が行える職場づくり

(ア) 各階層に応じた OFF-JT 研修を行い、ビジョン共有やチーム力等の向上を図る

(イ) 専門研修の受講や資格取得を促進し、効果的な職場配置を行う

(ウ) 目標参画や各種ラダーに基づいたキャリア支援を行い、モチベーションの向上を図る

(エ) 施設環境を踏まえ、新たな働き方を意識した福祉機器等の購入や整備を行う

4. 運営安定化の推進

(ア) 長期的施設運営のための設備修繕と更新を計画的に実施する

(イ) 4S 活動の推進と感染対策及び災害対策を見直し、BCP(事業継続計画)の作成を行う

(ウ) 未取得となっている加算の算定が行えるよう体制及び業務改善を図る

5. 地域における公益的な取組み

(ア) 近隣の小・中学校等を対象に講演や福祉体験等を通し、福祉に対する理解促進に努める

(イ) 継続した地域コミュニティへの参画と地域とともに防犯・防災活動に取り組む

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型		短期入所 ユニット型空床型		通所介護					
					通常規模型	予防型				
利用者定員	108名		12名		35名	12名				
利用延数	38,237名		4,015名		7,401名	933名				
一日平均利用者数	104.8名		11名		23.8名	3名				
稼働率(%)	97%		91.6%		50.6%					
稼働延日数	365日		365日		311日					
平均介護度	4.1		2.8		2.0	0.4				
単価(一人一日)	14,041円		15,151円		9,752円					
サービス活動収益(千円)	586,891千円		60,832千円		81,278千円					
職員数(常勤換算)	77名		8名		19.2名					
	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)		障害児相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)		宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)			
宝塚市受託収入(千円)	37,786千円		—		—		13,559千円			
年間請求件数	予防プラン 請求件数	3,480件	435件		144件		—			
	予防プラン 委託件数	840件								
平均単価	予防プラン 単価(円)	4,840円	15,092円		17,187円		—			
サービス活動収益(千円)	58,702千円		6,565千円		2,475千円		13,559千円			
職員数(常勤換算)	10.8名						4.6名			
	聖隷訪問看護ステーション						聖隷ケアプランセンター			
	平均利用者数	月訪問 件数	年訪問 件数	単価 (円)	サービス活 動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)	年訪問 件数	単価(円)	サービス活 動収益 (千円)	職員数 (常勤換算)
医療	38人	300件	3,608件	10,250円	111,225 千円	15.4名	—	—	—	—
介護	102人	571件	6,856件	8,900円			3,712件	19,000円	71,356 千円	10.8名
予防	37人	130件	1,564件	8,000円			216件	4,200円		

ケアハウス花屋敷

2020年に発生した新型コロナウイルス感染は2021年度も我々に大きな影響を与えた。外出や面会を禁止する事が難しい当施設では、とにかく、施設内に持ち込まないこと、体に入れないことに注力し、何とか乗り越えてはきたが入居者にとっても職員にとっても苦しい1年であった。特に職員は、自らの感染を避けるために行動を自粛し、精神的にもきつい状況の中、感染予防の意識を高く持ち、対策を継続してくれた。

一方、健康維持や生活を楽しむことを重視する当施設であるが、新型コロナ対策との両立はなかなか難しく、行事等、かなり制限する結果となった。そのことは入居者の方々の特に精神面への影響が大きいと感じており、感染状況を鑑み、適切な対策を講じながら今後の運営をしていきたいと思う。

【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します。

【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります。
2. よりよいサービスを提供します。
3. 地域社会と共に歩みます。

【事業・運営計画】

1. 生活の中で楽しむこと、心地よく過ごせる環境を提供する。
 - (ア) 施設内の設えに心配りする。
 - ①日本古来からある行事や季節の移ろいを感じてもらえる、設えの工夫。
職員のアイディア、入居者のアイディアを取り入れ、より楽しめる空間をつくる。
 - ②入居者の皆さんの作品の展示を含め、ロビーなどを楽しめる空間にする。
 - (イ) 新型コロナ感染状況に応じた行事の開催。
 - ①感染状況により、オンラインでの演奏会、落語会、講演会を企画する。
 - (ウ) 喫茶コーナーを職員で運営し、入居者同士の交流の場を再開する。
 - (エ) 恒例となった、さつまいもの栽培～芋ほり～焼き芋の会を皆で楽しむ。
2. アドバンス・ケア・プランニング（以下、ACP）について入居者に理解してもらい、職員の理解も深め、支援に活かす。
 - (ア) 入居者・家族対象に ACP の研修を行い、必要性を理解してもらおうと共に一緒に考える機会とする。
 - (イ) 定期的な入居者情報収集時に ACP に関する入居者の希望を確認・更新する。
 - (ウ) 入居者にかかわる支援者が ACP について理解し、情報を共有する。

3. 健康維持・増進の取組

(ア) 健康体操

①訪問看護ステーション山本のセラピストの協力を得て、内容の組み立て、評価、入居者が自身で出来る体操についてアドバイスできる。

②訪問看護ステーション山本のセラピストにケアハウス職員作成プログラムの監修を受け、より効果的で楽しめるプログラムを立案する。

③専門職が行うオンラインプログラムを活用する。

(イ) ラジオ体操以外の健康づくりの取り組みを増やす。

4. 職員の対応力強化

(ア) 急変時の対応についてシミュレーションを行い、対応力を強化する。

(イ) 医療の知識向上、変化に気づく力の向上に学研 e-ラーニングを活用する。

(ウ) 認知症実践者研修に1名参加。

5. 運営の安定化の推進

(ア) ケアハウス花屋敷の存在を周辺地域住民に知ってもらうための営業活動を行う。

(イ) 入居を検討する方が介護が必要になったとき不安にならないよう、花屋敷せいのりの里の一体的な取組について伝える事ができる。

(ウ) LIFULL介護（高齢者施設紹介サイト）は継続して活用し、待機者数を確保する。

5. 安全で栄養バランスの取れたおいしい食事を提供する。

(ア) 委託業者の見直しを行い、可能な限り、ケアハウスらしい食事の提供を行う。

(イ) 敬老会、クリスマス、元旦祝いには特別感を感じられるワクワクする食事を提供する。

6. 地域における公益的な取組

(ア) 地域のニーズを知り、サロンへの出張相談や介護予防・介護技術の伝達講習などを花屋敷せいのりの里全体で取り組む。

(イ) ACPについて市民が理解できるよう、花屋敷せいのりの里として啓蒙活動を実施する。

【数値指標】

利用者定員	100人
利用者延べ数	36,500人
稼働率（%）	100%
単価（一人一日）	4,277円
サービス活動収益	157,156千円
職員数常勤換算	13.2人

北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

【事業・運営計画】

1. 専門性を強化し利用者のニーズに沿った良質な利用者サービスを提供する。
 - (ア) 対応できる人材を育成し、持続可能な療養生活を支援する。
 - ① ナーシングスキル研修、専門分野看護研修に参加し対応力向上につなげる。
 - ② 小児看護の対応力向上に向けて小児病棟研修、小児訪問看護研修に参加する。
 - ③ 血液疾患終末期対応や心不全療養者の再発、重症化予防へ取り組む。
 - (イ) 意思決定支援を実現し暮らしたい場所で生き抜くことを支援する。
 - ① 人生会議ノートを作成しエンドオブライフケアの実現に向けて実践する。
 - ② 希望に添える看取りができるようにケアサービスの提供、家族支援をする。
 - (ウ) 生活の質向上の視点を重視して多職種と連携、情報共有していく。
 - ① 退院時や発症直後の早期介入、密な多職種連携で要介護状態の改善や悪化の予防に取り組む。
 - ② 聖隷ケアプランセンター北神戸、聖隷訪問看護ステーション北神戸との定期合同研修、合同カンファレンスを実施し質の強化と支援体制の強化を図る。
2. 各機関との連携を強化し、地域のニーズ解決に取り組む。
 - (ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チームのメンバーとして初期対応し、その後の支援についても自施設を含めた支援機関へつなげる。
 - (イ) 神戸市北区ケアマネジャー連絡会の企画運営へ参画し地域社会の問題解決につなげていく。
3. 地域における公益的な取組
 - (ア) 神戸市北区認知症初期集中支援チームへ職員1名の派遣。
 - (イ) 神戸市介護保険認定調査会審査員として職員2名の派遣。
 - (ウ) 神戸市委託事業介護予防講座に2名の派遣。
 - (エ) 神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授、講師を務める。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

年間件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
医療	介護・予防	医療	介護・予防		
6,305件	5,405件	9,865円	8,109円	109,694千円	15.2人

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数 (常勤換算)
介護	予防	介護	予防		
1,400件	700件	17,000円	3,700円	26,039千円	5.8人

介護老人福祉施設 聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム

聖隷カーネーションホームデイサービスセンター

聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっここ

聖隷ケアプランセンター淡路、聖隷在宅介護支援センター淡路

2022年度の聖隷カーネーションホームは、感染症による影響の抑止を図りつつも、引き続き淡路市北部における総合福祉拠点としての役割発揮に尽力する。新型コロナウイルスの世界的流行に伴う働き方や生活様式の変化、また社会全体における労働力の不足を念頭に置き、「仕事の自動化の促進」「付加価値のある機器・設備更新」「理念に基づくケアの提供」を重視した事業年度としたい。そして、これらの取り組みを通じて、利用者に「安心と楽しみのある暮らし」を、職員に「働きやすい職場環境とやりがいのある仕事」を提供し、利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある総合福祉拠点を目指していく。

【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、より安心・安全で質の高いサービスを追求する
2. 職員の働き甲斐や資質の向上のために、多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりを促進する
3. 安定経営を継続していくために、サービス品質の改善と生産性向上の両立を推進する
4. 安心して暮らせる地域づくりに貢献するために、公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓に取り組む

【事業・運営計画】

1. より安心・安全で質の高いサービスの追求
 - (ア) 利用者個々のスタイルに合った楽しみのある生活を提供するために、情報共有のシステム化を進め、タイムリーな情報を基にケアを提供する体制を構築する。
 - (イ) 重度の認知症や障害者など支援困難な方や、制度の狭間で困窮している方等の受け入れを積極的に行い、より幅広い利用者層に活用していただける施設づくりを促進する。
 - (ウ) HIMVITの運用慣熟を継続するとともに、見守りセンサーの導入や入浴機器の更新を検討し、安全・安心・安楽な生活環境を構築する。
2. 多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進
 - (ア) 理念や事業計画に連動した目標管理を促進し、各職場や職員個々の目標達成を支援するとともに、次世代リーダー候補者の発掘・抜擢・育成を行う。

- (イ) 職員の身体的負荷の軽減と安全性の向上のために、ノーリフトケアの推進や介助機器の計画的な導入・更新に取り組み、働きやすい介護環境を整備する。
- (ウ) EPA 介護福祉士候補生や無資格者への資格取得支援を行い、専門性の高い人材の確保につなげる。
3. サービス品質向上と生産性向上の両立による経営改善
- (ア) DX、業務の仕分けと分業の促進による現場改革を推進し、業務量の削減と合理化・自動化、職員のモチベーションUPを図る。
- (イ) 適切な加算管理・稼働率管理と合理的な人員配置を随時行い、より多くの方々に対してより質の高いサービスを提供し、安定した経営を維持する。
- (ウ) 災害・感染症・事故の影響を最小限に抑え安心して生活できるよう、事業継続計画の見直し及び机上訓練の計画・実施と、リスク管理体制の強化を継続する。
4. 公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓
- (ア) 在宅介護支援センター淡路を中心に「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、地域における潜在的な福祉ニーズを発掘する。
- (イ) 地域全体の福祉の向上のため、淡路エリア聖隷施設間での相互支援や、行政機関・他法人施設との連絡・連携を強化する。
- (ウ) 東浦地区における福祉避難所としての役割を意識し、防災や防犯などの地域活動を通して近隣との繋がりを強めていく。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54名	18名	25名		12名
利用者延べ人数	19,257名	6,315名	5,947名	811名	2,855名
一日平均利用者数	52.8名	17.3名	19.2名	2.6名	9.1名
稼働率(%)	97.7%	96.1%	87.3%		76.0%
稼働日数(延べ)	365日	365日	310日		313日
平均介護度	3.80	3.16	2.45	—	3.16
単価(1人1日当り)	11,697円	11,200円	10,215円	5,150円	12,285円
サービス活動収益(千円)	225,243千円	70,730千円	64,927千円		35,075千円
職員数(常勤換算)	33.9名	8.2名	9.3名		6.0名
	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷在宅介護 支援センター淡路		
年間請求件数	介護	予防			
	2,100件	300件			
訪問調査年間件数	36件				
サービス活動収益(千円)	35,076千円		7,440千円		
職員数(常勤換算)	5.2名		1.7名		

淡路栄光園

2022年度の淡路栄光園は、数年前から整備をかけてきた最新のケア機器やITシステムの導入により生まれる「時間」、そして現在もムダ・ムリを整理することから生まれる「時間」を改めて整理し、その時間を有効活用して利用者と職員の喜びにつなげる様々な取組みを行いたい。

取組みのテーマは、「利用者への基本的なケアの強化」、「利用者に喜んでもらえる行事やレクリエーションの充実」、「家族や地域とのつながりの深化」とし、それぞれのテーマに職員全員が様々なアイデアを出し、誰もがリーダーになりメンバーとなり得る意識で、成功失敗に関わらず1つのことをチームでやり遂げてみる。

その結果が利用者や家族の喜びとなり、そのプロセスが職員の成長や喜びにつながり、さらには栄光園や岩屋地域を盛り立てることにつながると考える。

新型コロナウイルス感染症や頻発する災害など、未だ先の見えない社会情勢ではあるが、1人1人が知恵と工夫を集め、挑戦と行動を持って本計画の達成に向け邁進していきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1. 淡路栄光園の利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
3. 淡路栄光園が今後も安定、継続して利用者サービスができる施設になる。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。

【事業・運営計画】

1. 淡路栄光園の利用者が安心して、より快適に暮らせる施設になる。
 - (ア) 3大介護強化計画の推進。2022年度は入浴をテーマに「全利用者への希望調査と実行」「マイクロバブル等の入浴機器導入」の取組みにより、利用者満足度を向上させる。
 - (イ) 移乗機器、システムの導入により創出された時間を検証し、利用者への活用方法を検討実施する「時間創出・活用委員会」を創設する。
 - (ウ) 施設内の環境整備と再活用により、利用者の日常生活向上につなげることを目的に「なごさ・あおいフロア共有スペースの利用者活用」「利用者区画のLED化」を実施する。
2. 淡路栄光園の職員全員が、働きやすく、生き生きと仕事ができる施設になる。
 - (ア) 職員の巡視、見守り業務の負担軽減、入浴ケアの身体的負担軽減を目的に「見守りセンサー、インカム機器の試験導入」「入浴ケアの職員負荷の調査と改善」を実施する。
 - (イ) ペーパー処理による手間、負担の軽減を目的に「家族向け発送書類や広報紙のペーパーレス化」「面会予約・荷物チェックのシステムの効果的活用」を検討、実施する。
 - (ウ) 認知症、看取り、障害各分野の対応力向上を目的に「認知症実践者・リーダー研修」「看取りマニュアル、パンフレットの作成と研修実施」「障害分野の研修」を実施する。

3. 淡路栄光園が今後も選ばれ続け、安定、継続して利用者サービスできる施設になる。
- (ア) 利用者に選ばれ、より利用してもらうため「ホームページ、スマートモバイルを活用した広報・営業」「障害分野・神戸市希望者の受入実績増」「レク活動強化と営業」に取り組む。
- (イ) 利用者のサービス向上のために「短期入所個別リハ加算、栄養マネジメント強化加算、生活機能向上連携加算」の算定を開始する。
- (ウ) 非常時でも安定して事業を続けられるよう「淡路栄光園 BCP の完成」「職員更衣室整備と倉庫、備蓄スペースの確保」「非常用発電機の更新」を実行する。
4. 地域包括ケアシステムの推進とともに、地域の方々に貢献できる施設になる。
- (ア) 淡路栄光園の「つながり」の再生・強化を目的に、リモートの活用も含め「家族・地域行事への参加企画」「地域のこども園、商店、学校との交流」「地域移動販売車の受入」「ボランティアの受入」「栄光園サロン」等を実施する。(岩屋地域つながりプロジェクト)
- (イ) 兵庫県認定地域サポート型施設の活動として、「近隣地域と協働の清掃活動」「岩屋地域の高齢者見守り活動」「福祉教育活動」を実施する。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	地域密着型通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60名	19名	18名	
利用者延べ数	21,243人	6,830人	3,918人	493人
一日平均利用者数	582人	18.7人	12.6人	1.6人
稼働率	97%	98.5%	78.8%	
稼働日数(延べ)	365日	365日	311日	
単価(一人一日当り)	11,883円	11,366円	9,175円	4,010円
サービス活動収益	252,436千円	77,633千円	37,966千円	
職員数(常勤換算)	42.5人	5.6人	6.8人	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路第二
聖隷ヘルパーステーション淡路
聖隷ライフサポート津名

当センターはサービスを必要とされる方々の増加に伴い新規依頼を積極的にお受けし、事業を拡大してきたが、2021年度は職員の減少に伴い利用者の受け入れが一時的に困難な状態となった。しかし、地域において当センターが担うべき役割は重度者支援・看取り支援・効果的なりハビリテーション支援である為、今後も人材確保に努めながら限られた職員を活用し、センター内の事業所間が効果的に連動した適切なサービス提供で地域支援を継続していく。

【事業・運営計画】

1. 利用者に応じた支援が適切に提供できる。
 - (ア) センター内の事業所間の連携を強化する為、多職種で行う事例検討会を増加させる。
 - (イ) 利用者の状態を定期的に評価し、センター内他サービスとの連動を積極的に行う。
 - (ウ) 聖隷淡路病院等との更なる連携で、看取りケアの充実を図る。
 - (エ) 意思決定支援に基づく統一されたケアの実践で、利用者満足度を向上させる。
 - (オ) リスク、感染、苦情、ハラスメント等の具体的な課題解決を図り業務に反映する。

2. 必要な情報のデジタル化と業務のスリム化を図る。
 - (ア) WINCARE 掲示板等の活用で、事業所間の情報共有を充実させる。
 - (イ) ZEST・けあピアノート・HIMVIT等の活用で業務の省力化を図る。
 - (ウ) 不要なデータや文書は廃棄し、ペーパーレス化を推進する。
 - (エ) 記録時間削減に向けた取り組みで、超過勤務を減少させる。
 - (オ) Web 会議や研修受講が不安なく行える通信環境とする。

3. 人材の確保と育成の強化
 - (ア) 職員と共に働きやすい職場運営を検討し、職場風土を改善する。
 - (イ) 丁寧な利用者対応が実践できるよう、職場内教育や同行訪問を充実させる。
 - (ウ) やりがいの持てるサービス実践で、職員個々のモチベーションを向上させる。
 - (エ) 職員の私的時間充実が図れる取り組みを推進する。(長期休暇取得や研修参加等)
 - (オ) エリア内研修や会議等の充実で、人事交流の機会を増加させる。

4. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 多職種や地域住民を対象としたリハビリ機器イベントや健康づくりイベントの実施。
 - (イ) 在宅介護支援センター等が行う地域活動へ積極的に参加する。

【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション淡路）

医療事業		介護給付		予防給付	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
309 件	10,500 円	827 件	8,900 円	69 件	7,500 円
サービス活動収益		137,219 千円	職員数（常勤換算）		21.2 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター淡路第二）

月間請求件数		平均単価		訪問調査 月件数	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
111 件	19 件	16,200 円	4,750 円	2 件	22,659 千円	3.6 名

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション淡路）

介護給付		予防給付		障害（自立支援）		障害（移動支援）	
月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価	月訪問数	単価
969 件	4,990 円	139 件	2,950 円	371 件	4,567 円	5 件	1,750 円
サービス活動収益		71,793 千円		職員数（常勤換算）		8.0 名	

通所介護事業（聖隷ライフサポート津名）

利用定員	介護給付		予防給付	
	延べ利用者数	4,608 名	延べ利用者数	2,775 名
25 名	1 日平均数	17.9 名	1 日平均数	10.8 名
営業日数	単価（1 人 1 日）	7,486 円	単価（1 人 1 日）	5,365 円
257 日	サービス活動収益	49,286 千円	職員数（常勤換算）	9.1 名

聖隷こども園夢舞台

淡路島内における出生率低下に伴い、子どもの数が減少することが予想される。

「選ばれる園になるためには」という視点で、園の特色や保育形態について職員と共に考えてみたい。

また、2021年度に発足した「民間社会福祉法人連携会議」では、民間の保育園・こども園における事業運営が健全かつ継続的に進められるような制度と運用の見直し等について、淡路市と協議を継続していく。

保育場面においては、子どもへの対応の仕方や、支援の手立て、計画性のある見通しを持った保育をより意識し実践していけるように、具体的な投げかけを行い、主体性をもった職員集団を目指したい。

【施設理念】

「隣人を自分のように愛しなさい」（マタイによる福音書 22:39）

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活をする。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する。
 - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育計画を立案し、実行する。
また、個々の子どもの興味や関心に寄り添いながら、遊びを通して主体性をひきだし、そこから行事へと繋げていけるように、計画性のある見通しを持った保育実践を行う。
 - (イ) 年間研修計画に従い、施設内外の研修に参加し、知識や技術の向上を図る。また、各自の学びを職員会議の中で伝え合い、職場全体のスキルアップへと繋げる。
 - (ウ) 園児の成長発達にあった玩具や環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める。
 - (エ) 保育職ラダーを活用し、個々の役割や目標を明確にして個々の資質向上を目指す。
また、園内での役割が意識していけるような動機づけを丁寧に行っていく。
 - (オ) 聖隷訪問看護ステーション淡路と連携した病後児保育を行う。
2. 信頼され、選ばれ続けるこども園となるため、園の保育方針や子どもの姿、発達過程などを保護者へ発信することを大切にしていく。

- (ア) 危機管理委員会と主任が中心となり、ヒヤリハットの分析や事故報告の書式の改善を行い、リスクや事故に対する意識向上を目指す。
- (イ) 聖隷淡路病院と連携を図り、子育て支援プログラムの実施や内科検診時の検尿など、同法人内で行えることを実践していく。
- (ウ) 小学校や各種団体等と情報共有を図り、地域の安心できる居場所となれるように相談等にも応えていく。
- (エ) 病後児保育事業を進めるに当たり、地域の子育て家庭の支援に努める。

3. 地域における公益的な取組を継続実施する。

- (ア) 中学生・高校生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する。
- (イ) 小学校との連携を図り、個々の子どもの引継ぎを詳細に行い、就学へと繋げていく。
- (ウ) 相談・見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職として積極的に関わることで支援に努める。
- (エ) 実習生の受け入れを積極的に行い、雇用へ結び付けられるようにしていく。

4. 安定した運営に努める。

- (ア) 適切かつ効率的な職員配置が行えるように、職員雇用やクラス編成を検討する。
- (イ) 消耗備品の購入状況、及び外部委託業者の契約状況を評価し、適正化を図る。
- (ウ) 行政機関との円滑な調整、情報開示の徹底、計画的な人員の確保等を図る。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	5名	5名	15名	21名	22名	22名	90名
利用定員(1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	5名	5名	15名	26名	27名	27名	105名
一日平均入所者数	3.6名	10.6名	23.3名	20.2名	35名	34.6名	127.3名
年間入所延人数	43名	127名	280名	242名	420名	416名	1,528名
入所率	72.0%	212.0%	155.3%	77.6%	129.6%	128.3%	121.2%
開所日数(延べ)	290日(教育週数 49週)						
サービス活動収益	152,779千円						
職員数(常勤換算)	26.1名						

【実施事業】

延長保育、障がい児保育、一時預かり保育、病後児保育

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービス・聖隷チャレンジ工房カナン

2021年度は感染症や自然災害が発生した状況下における事業継続に向けた計画作成や訓練を実施し、感染症や津波警報が発生した中、介護・障がい福祉サービスの提供ができた。

このような状況において、地域の高齢者や障害者へのサービス提供、地域共生社会の実現に向け事業を継続できたことは、職員一人ひとりの努力の賜物である。

また、床走行式移動リフトにおける安全な移動介助の徹底、排泄ケアの統一に向けた定期的な勉強会の開催、就労支援事業所の訓練を積んだ障害者を雇用することにより、人材確保が厳しい状況の中、介護周辺業務従事による介護職員の負担軽減等サービスの質の向上に努めた。

2022年度は介護機器等の導入を積極的に検討し、更なるサービスの向上に努め、既存する福祉事業の強化を図り、地域にとって欠かすことのできない福祉拠点としての更なる価値を高めていく。

【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～私たちを必要として下さる方々を支え、このことを通じて

私たち自身も共に幸せになれる奄美佳南園になる～

【経営方針】

1. 利用者満足向上のために、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能を高める
2. 職員満足向上のために、福祉人材の育成と働き甲斐のある施設づくりを迫及する
3. 健全経営推進のために、既存事業の質・生産性の向上、需要の発掘・事業化に取り組む
4. 地域社会貢献のために、公益的な事業活動に積極的に尽力する

【事業・運営計画】

1. 利用者満足向上のための取組
 - (ア) 利用者の尊厳を大切にサービス提供、職員の知識・技術向上のために研修等を活用し、サービスの質の向上へと取り組む
 - (イ) 利用者の安全な生活環境を高めるために、介護機器を活用し事故予防や入院予防、身体機能・口腔機能の維持、看取りケアの促進、嚥下調整食の提供に取り組む
 - (ウ) 利用者の個性・ニーズに合わせた個別支援計画を作成し、質の高いサービスを提供する
2. 職員満足向上のための取組
 - (ア) シャワー浴槽・インカムシステム等介護機器の導入・活用により、業務効率化や生産性の向上に取り組む
 - (イ) 職員の資質と意欲の向上を図るために、専門職ラダーの運用及びOJTを推進する

- (ウ) 職員の健康維持及びサービスの質の向上のために、シャワー浴槽・インカムシステム等の介護機器を導入・活用する
- (エ) 就労支援の保護者等見学会を実施し、サービスの質の向上に取り組む
- (オ) 利用者個別のアセスメント情報を使い、利用者が希望する支援を通し、利用者も職員も充実感や幸福感を持てるサービス提供を目指す。その情報を共有し職員同志が互いに更なる質の向上に向けた取り組み実践できる環境づくりを行う

3. 事業の成長と安定した経営基盤の構築

- (ア) LIFE 情報に即した個別支援の実施や、その支援結果を活用し、更なる関連加算取得を目的とした研修企画の運営実施をする
- (イ) 入所待機者の早期入所及び入院者へのフォローによる長期入院の削減へ取り組む
- (ウ) 奄美佳南園の組織編成を行い、職員が利用者の生活圏から入所までを意識した個々へ丁寧かつ手厚いサービスの支援を実施する
- (エ) 利用者が在宅生活を維持することができるよう、身体介護を中心とした訪問介護サービスや訪問入浴サービスを提供する

4. 地域における公益的な取組

- (ア) 福祉拠点施設の経験や機能を活かし、福祉の出前講座や介護者教室を開催する
- (イ) 地域の社会福祉法人と連携し、地域における災害時支援・感染症対策支援・生活困窮に関する課題の解決に向け実践する
- (ウ) 生活困窮・社会と交流ができない青年期・高齢等自信を無くした方々へのアプローチや職場体験を実施し、就労意欲の向上・自信回復等に向けた機会を提供する

【数値指標】

	特養入所		短期入所		訪問給食	生活困窮
	従来型	ユニット型	従来型	障害		一時生活支援
利用者定員	50名	30名	10名			
利用者延べ人数	17,703名	10,622名	3,132名	80名	16,425名	37名
一日平均利用者数	48.50名	29.1名	8.58名	0.22名	45名	0.10名
稼働率	97.0%	97.0%	85.8%	2.2%		
稼働日数(延べ)	365日	365日	365日	365日	365日	365日
単価 (一人一日当り)	12,620円	15,149円	11,606円	12,334円	800円	3,761円
サービス活動収益	223,405千円	160,902千円	36,346千円	990千円	13,140千円	137千円
職員数(常勤換算)	31.3名	21.8名	5.9名		2.8名	

	奄美佳南園デイサービス			春日デイサービス		
	地域密着	介護予防	生活介護	地域密着	介護予防	
利用者定員	18名			18名		
利用者延べ人数	3,702名	304名	271名	2,818名	1,840名	
一日平均利用者数	11.98名	0.98名	0.88名	9.12名	5.96名	
稼働率	66.57%	5.46%	4.87%	50.67%	33.08%	
稼働日数(延べ)	309日	309日	309日	309日	309日	
単価 (一人一日当り)	10,117円	5,440円	6,865円	10,048円	5,492円	
サービス活動収益	37,459 千円	1,684 千円	1,859 千円	28,801 千円	10,106 千円	
職員数(常勤換算)	8.6名			7.1名		
	訪問入浴介護		ホームヘルプ		就労支援	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続B
利用者定員	/		/		6名	14名
利用者延べ人数	663名	154名	5,082名	739名	1,473名	3,706名
一日平均利用者数	2.15名	0.50名	13.92名	2.02名	5.69名	13.31名
稼働率	/		/		94.76%	102.20%
稼働日数(延べ)	309日	309日	365日	365日	259日	259日
単価 (一人一日当り)	16,446円	14,963円	4,400円	4,219円	9,702円	9,493円
サービス活動収益	10,904 千円	2,297 千円	22,359 千円	3,690 千円	14,287 千円	35,179 千円
職員数(常勤換算)	2.5名		6.0名		9.2名	
		年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
在宅介護支援センター		1,200名	259日	/	6,000千円	1.5名
居宅介護支援	介護	840名	259日	15,321円	12,870千円	3.0名
	予防	240名	259日	5,375円	1,290千円	

春日保育園

2021年度は新型コロナウイルス感染症が蔓延し、春日保育園も休園となる事態となった。感染症の発生により、行事の取り組み方を考え、引き続き感染防止対策を強化する。

2022年度は、子どもの自尊と自律を育み、一人ひとりを大切にする丁寧な保育、子ども主体の保育を実践する。保育者が子どもの興味関心や発達を促す関わりをすることで、自発性を促すと共に自己肯定感を培うための保育環境を整える。

今後、少子化が進む中、当園の強みである統合保育と保護者支援を地域に広報することで選ばれる保育園を目指す。

また、職員にとって働きやすい職場作り、健康維持、業務の効率化を図り離職防止に努める。奄美エリアの子ども施設との連携や内部、外部研修の参加で自己研鑽し、今後も地域から信頼される施設として取り組む。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

～子どもたちの心身の成長を私たちが幸せと受けとめ共に育つ春日保育園でありたい～

【経営方針】

1. 保育の質と専門性の向上
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
3. 地域交流と地域貢献を積極的に行う

【事業・運営計画】

1. 保育の質と専門性の向上
 - (ア) 保育理念、保育所保育指針を念頭にいれ、子ども一人ひとりの目標を掲げ、発達に則した実践を行う
 - (イ) 子どもが主体的・対話的・深い学びができる保育者の関わり方について学びを深め、継続的に遊びが展開できる環境作りを進める
 - (ウ) のぞみ園、聖隷かがやきと共に専門的な保育・療育に関する職員研修を行う
 - (エ) 保育職ラダーや目標参画を通じ、自己の課題を見出し次の目標へとつなげる
 - (オ) キャリアアップ研修や専門分野研修に参加し、保育の実践を行う
 - (カ) 保護者支援として、個人面談や育児相談、子育てサロンなどを実施する
 - (キ) ペアレント・プログラムの実施を通じ、保護者の子育て支援に取り組み保護者同士の仲間作り、心地良い居場所作りを行う

2. 統合保育の実施と専門機関との連携

- (ア) 児童発達支援センター、他事業所と並行通園児の情報共有を密に行い連携を図る
- (イ) 奄美市の保健師や各関係機関との連携を図る
- (ウ) 春日保育園独自の親子教室の開催を継続的に行う

3. 地域との連携を根ざした公益的な取組

- (ア) 地域の子育て支援拠点として広報誌を発行する
- (イ) 中高生の職場体験や施設見学、養成校実習生の受け入れを積極的に行う
- (ウ) 地域の高齢者や奄美佳南園利用者との交流の場（リモート）を設ける
- (エ) 卒園児との交流の場を企画、実施する

【数値指標】

利用者数	定員	120名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
	児童 入所 率 98.5%	入所数 4/1 現在	8名	14名	24名	21名	29名	23名	119名
		うち障がい児	0名	0名	0名	0名	1名	2名	3名
		年間入所延人数	124名	200名	288名	252名	348名	276名	1,488名
特別 保育	年間利用延人数	一時保育事業							10名
		延長保育促進事業							720名
		障がい児保育・療育支援							720名
職員数 (常勤換算)			施設長	保育士	栄養士	調理	保育 補助	事務 他	計
	正規職員		1.0名	12.2名	1.0名	0名	0名	0名	14.2名
	パート		0名	9.3名	0名	2.3名	2.0名	1.5名	15.1名
	計		1.0名	21.5名	1.0名	2.3名	2.0名	1.5名	29.3名

のぞみ園

2021年度は感染症対策を行いつつ、新しい生活様式がもたらす可能性について考え、リモート環境を活用した人材育成や地域交流、感染症や災害時に備えた体制作り、働く環境の整備など新たなことに挑戦した1年でもあった。

2022年度は、これから明確化される児童発達支援センターの機能と役割を念頭に、のぞみ園が大事にしている支援の柱「子どもの発達支援」「保護者支援」「地域支援」を更に強化しつつ、2020年度から中長期的目標として掲げている、ライフステージに応じた「継続性のある支援」と「成長した先の自立支援」の実現に向け、奄美エリア各施設を含めた関係機関との連携強化と、支援者育成にも力を入れていく。これらを通して、地域の子育て支援とインクルージョンの推進に欠かすことができない福祉施設としての事業価値を高めていく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～子どもたち一人ひとりの育ちと保護者の願いに寄り添う支援～

【経営方針】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化
2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み
3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. ライフステージに応じた継続性のある支援体制の構築と経営の安定化

(ア) 子どもの発達支援

- ① 愛着関係を基本とした子どもの発達支援と保護者と子どもの愛着形成支援を柱とした療育を行う
- ② 子ども達一人ひとりの自己肯定感を高め、多様性が尊重される環境の中でその子らしさが発揮されるような支援を行う
- ③ 保育所等訪問支援事業と丁寧な相談支援の実施により、関係機関との連携や地域移行支援を充実することで地域のインクルージョンを推進する

(イ) 保護者支援

- ① 親子通園や保護者会活動・保護者交流会等を通して、保護者が子どもの成長・発達過程で直面する様々な親の心情をサポートできる体制を整える
- ② ペアレントプログラムの実施を通して、保護者の子育て支援に取り組むだけでなく、保護者同士の仲間作り、居場所作りを行う

(ウ) 地域支援

- ① 地域で生活している親子向け親子教室の開催を通して、身近な地域でつながりを感じながら子育てできる環境作りに取り組む（子育ての孤立化予防）

- ② 施設見学、職場体験、福祉・保育実習の受入れを通して、次世代の福祉・保育人材の育成に寄与する

2. 働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

- (ア) 専門職としてのキャリアアップ支援へ取り組む
 (資格取得と関連研修受講の促進・各専門職ラダーと目標参画との連動と達成支援)
- (イ) 働きやすさの向上とSDGsの取り組みを推進する
 (超過勤務削減・推進委員会の立上げ)
- (ウ) 職員間のコミュニケーション向上と定着を支援する
 (日々の振り返り・職員交流の促進・キャリア別座談会の開催)

3. 地域共生社会の実現に向けた取り組みと公益的な取り組み

- (ア) 奄美市親子教室への参画（早期発見・早期支援・子育て相談）と自立支援協議会、各事業所と連携した支援者育成研修の企画、運営を行う
- (イ) 災害や感染症対応における協力体制の構築（奄美エリア各施設・家族会・自治会）と災害用備品の整備、災害や感染症発生時においても事業を継続できるBCP対応を強化する
- (ウ) 地域向け親子教室、ペアレントプログラムを開催し、子育て支援、保護者の交流促進、療育施設を知ってもらう取り組みを行う（公益的な取り組み）

【数値目標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援	障害児 相談支援
利用者定員	25名		20名		
利用者延べ人数	6725名	34名	4565名	17名	533名
一日平均利用者	28.37名	0.14名	19.26名	0.07名	2.26名
稼働率	113.4%		96.3%		
稼働日数（延べ）	237日		237日		
単価 （一人1日当り）	13,060円	15,765円	6,461円	19,353円	21,096円
サービス活動収益	87,830千円	536千円	29,496千円	329千円	11,392千円
職員数	19.3名	0.7名	7.3名		3.2名

聖隷かがやき

2021年度は、地域とのつながりに向けて施設独自の「親子教室」開催や、ボランティアとの体験活動、防災訓練での地域住民の参加など新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施し、地域との関係性を構築し施設理解に努めた。

2022年度は「気になる子ども」が増加している一方、地域理解の乏しさが表面化している問題が多い中、困り感を抱えている家庭、保育所、学校が増えている。児童発達支援センターとして、これらの地域課題に対応すべく地域のネットワーク作りや訪問支援の充実に力を注ぎ、子ども達の将来を見据え、地域で安心して暮らしていける環境づくりを取り組んでいく。そして、その実現に向けての支援の基盤作りとして、安定した支援体制の確立、質の高い支援のための人材育成を行い、施設としての価値を高めていく。

【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や成長の発達につまずきのある子どもの支援～

【経営方針】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化
2. 職員の働きやすい職場環境作りとリーダー人材育成への取り組み
3. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 療育施設としての機能の強化と経営の安定化

(ア) 子ども支援

- ① 子ども一人ひとりの特性や家庭背景への理解を深めたチームでの支援体制作りを行う
- ② 「遊び・生活」を中心に子どもの気持ちに寄り添い「楽しかった、もう一回」の気持ちがある療育環境の設定を行う
- ③ 放課後等デイサービスでの低学年、中学年以上の利用曜日を振り分け、個別、集団支援による、児童一人ひとりへの支援の充実に図る

(イ) 家族支援

- ① 一人親家庭、多様な家庭へのニーズを掘り出し、必要な支援の提供を行う
- ② ペアレントプログラムへの参加により、コロナ禍での保護者の孤立を防ぎ、保護者交流も目的に子育てへの不安軽減を図る取り組みを行う
- ③ 子育ての悩みから将来への見通しが持てるように、保護者同士の情報、交流の場の提供を行う

(ウ) 地域支援

- ①外部支援への充実を図り、地域への理解を深められることで、困り感を抱えている子ども、家族が安心して子育てが出来る環境づくりを行う
- ②支援ネットワークの構築のために行政、学校、保育所との顔の見える関係性を作り関係機関との連携強化に取り組む

(エ) 経営の安定化

- ①利用者の安定利用につながるための丁寧な支援体制を整える
- ②公開療育、見学会を行い早期療育への理解促進に努める

2. 働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

- (ア) 仕事と生活のバランスをとることで自己の目標をより具体化できる環境作りを行い、リーダー人材の育成に努める
- (イ) 資格取得の講習受講、勉強会、研修参加での支援の質の向上を図る

3. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 自施設での子育ての相談や親子あそびの場の提供を行う
- (イ) 地域と災害時、非常時における相互支援体制への構築を行う
- (ウ) 地域の高齢者の方との交流を行う

【数値目標】

	児童発達 支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	障害児 相談支援	特定 相談支援
利用者定員	20名		10名		
利用者延べ人数	3,775名	61名	2,793名	146名	106名
一日平均利用者数	15.70名	0.25名	11.6名		
稼働率	78.5%		116%		
稼働日数(延べ)	241日	241日	241日		
単価(一人一日当たり)	13,767円	13,393円	8,106円	17,013円	14,613円
サービス活動収益 (千円)	51,972 千円	817 千円	22,642 千円	2,484 千円	1,549 千円
職員数(常勤換算)	8.5名	0.8名	4.9名	0.9名	0.3名

聖隷こども園わかば

2022年度もさらに地域に信頼され、選ばれる園となる為に今まで以上に保育の質の向上に力を入れていく。今後確実に進む少子化に対し、自園の強みを分かりやすく地域に発信していくと共に、乳幼児の質の高い教育・保育の提供が子どもの生きる力の基礎となる重要な時期であることを理解し、その大事な時期に関わることを引き続き考えていく。

また、職員にとって働きやすい職場作りのため、業務改善を推進する。2023年1月を目途に新しい保育システムを導入するが、職員が主体性を持って取り組めるよう、事前準備委員会を立ち上げ動機付けをしていく。人材確保を計画的に行いながら、職員一人ひとりが社会状況の動きに関心を持ち、研修や学習会を通して保育の専門性を高め、OJTを意識し社会人としての力の底上げをしていく。

現在、園舎が18年目を迎え経年劣化による設備面の修繕が増えている。子どもたちが安全に過ごせるよう、また職員が安心して保育を進められるように計画的に必要な修繕を進める。2022年度は2階テラス張替えの大規模修繕を予定しているが、利用者の理解を得られるよう呼びかけをし、安心して過ごしてもらえよう配慮する。

また引き続き地域の子育ての拠点施設として園を開放し、こども園併設型の支援ひろばのメリットを活かしていく。

【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の教育・保育を目指す

『子ども自身に生きさせよ～自分で考え、判断し、行動する子ども～』

キリスト教の精神を基本理念におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

【経営方針】

1. 入所希望のニーズに応えることで安定した運営をはかる
2. 職員一人ひとりが施設理念・園目標をもとに、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を提供する
3. 子育て世代に求められる幅広い子育て支援を知り、積極的に取り組むことにより、地域での存在の意義を深める
4. 計画的に施設設備の修繕を行い、安心と安全を保つ

【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を実践する
(ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づき、園児の発達の連続性を考慮して全体的な計画を作成し、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく

(イ) ピアジェの構成論に基づいた保育実践の学びを深めながら、子どもたち一人ひとりをよく理解し、保育者同士が語り合いながら保育の楽しさや、面白さが実感できる機会を増やし、保育の質の向上を図る

2. 保育職としての専門性を高める

(ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う

(イ) 保育職ラダー・目標参画・自己評価を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる

(ウ) 職員一人ひとりが専門性の向上のため研修等に積極的に参加できるよう支援する

3. 様々な視点から保育環境の充実を図る

(ア) 食育の推進

管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験や、日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる

(イ) 子育て、親育て支援

園だより・クラスだより・連絡ノート・ドキュメンテーション・フォトラーニング・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育の内容や、子どもの姿を保護者に分かりやすく発信し、子どもの成長を共有する

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 園庭開放、育児相談、子育て支援ひろばの充実をはかり、子育てに悩みを抱える方の相談に応じ、安心して過ごせる場の提供を行う。子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。また、地域に出向く出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する

(イ) 中高生の職場体験の受け入れや近隣施設の高齢者との世代間交流を積極的に図り次世代を担う若者の支援や高齢者の生きがい作りに貢献する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	24名	30名	36名	36名	37名	37名	200名
利用定員(1号)	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	24名	30名	36名	38名	39名	39名	206名
一日平均入所者数	18.4名	30.0名	32.0名	34.0名	34.0名	34.0名	182.4名
年間入所延人数	221名	360名	384名	408名	408名	408名	2189名
入所率	76.7%	100%	88.8%	89.4%	87.2%	87.2%	88.5%
開所日数(延べ)	保育日数 293日 / 教育週数 41週						
サービス活動収益	240,760千円						
職員数(常勤換算)	47.5名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型・幼稚園型)

地域子育て支援拠点事業

病児保育事業(病後児型)

聖隷こども園桜ヶ丘

乳幼児時期は、生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期である。2021年度は子ども主体の教育・保育の充実を図るために、園内研修の中で「保育について語り合う風土」を構築し、職員間のコミュニケーションを充実させ保育の質の向上に努めた。

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、少子高齢化と人口減少をはじめとしたさまざまな社会状況の変化により、地域のこども園に対するニーズも変わってきている。現行の教育・保育の在り方を今一度見直し、地域のニーズに合わせて変わる必要がある。その一環として、磐田地区のこども園で実施している「ゆるやかな育児担当制保育」を学び、2022年1月より乳児クラスにて実践を試みている。職員同士で評価をし、園全体で共有をおこなうことで、子どもが安心して主体的に生活ができる保育環境の構築を目指す。

【施設理念】

「わたしはまことのぶどうの木、あなたがたはその枝である」ヨハネによる福音書 15：1-5

1. 子どもたち一人ひとりが愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人ひとりの個性を伸ばしていく

【経営方針】

1. 職員一人ひとりがこども園への理解を深め、入園希望者のニーズを理解し、応えることで安定した運営をはかる
2. 職員一人ひとりが、園目標を基に質の高い教育・保育を実践する
3. 地域に信頼され、選ばれる園となるよう園内外の保護者支援に努める
4. 地域との交流を深めて地域貢献を図る

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 子どもの最善の利益を考え、施設理念や保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする教育・保育」を実践する
 - (イ) 全体的な計画、教育課程、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「キリスト教保育指針」に基づき、「子ども主体の保育」を実践する
 - (ウ) 統合保育の実践
 - ①浜松市の「子どもの発達支援巡回事業」を積極的に利用して、専門知識や個別配慮の必要な子の関わり方を共有し保護者へのアプローチの仕方を学ぶ。
 - ②障がいがある園児の並行通園施設や医療機関と連携を図り、きめ細やかな保育を行う。
 - (エ) 乳児クラスで、「ゆるやかな育児担当制保育」を取り入れ、一人ひとりの生活の流れが安定し見通しが持てるように援助し、子どもが主体的に生活を送れるようにしていく。
 - (オ) 園舎玄関等が、わくわくする空間となるように案を出し合いリノベーションを行う。

2. 保育職としての専門性の向上

- (ア) 保育職ラダーを活用し、職員個々の課題を明確化し、キャリアアップを目指しながら職員全体の資質向上を図る。
- (イ) 園内勉強会を年間計画（事例検討・講師を招いた講話や実践等）にそって月に1回行い、保育について語り合い専門性を高める。
- (ウ) 保育浜松エリアの職員間でピアジェの構成論に基づいた研修を行い、遊びや生活における乳幼児の知的発達を理解し、保育に活かしていく。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 主任と副主任が中心となり、働きやすい環境整備、並びに計画的な業務推進により、職員の心身の健康維持に努める。
- (イ) 現行の保育システムを見直し、新システム・コドモンの2023年1月導入を目指す。
- (ウ) 「保育について語り合う風土」を生かし、お互い意見が言い合える環境を整える。

4. 子育て支援と地域における公益的な取り組み

- (ア) 中高生の職場体験を受け入れ、次世代育成に貢献する。
- (イ) 親子ひろばや園見学等で来園する保護者に対して、職員が専門職として丁寧に関わることを意識し、保護者支援に努める。
- (ウ) 地域の自治会や近隣施設（都田南小学校・都田図書館・浜松学園等）と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する。

5. 新型コロナウイルス感染症予防の取り組み

- (ア) 室内消毒清掃・換気・手洗い(手指消毒)・毎日の検温(健康観察)等の感染対策を徹底しながら、日々の保育や行事の在り方を検討する

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	21名	30名	30名	36名	36名	37名	190名
一日平均入所者数	12名	27名	30名	32名	30名	31名	163名
年間入所延人数	144名	333名	360名	384名	360名	372名	1,960名
入所率	57%	90%	100%	88%	86%	83%	86%
開所日数(延べ)	293日						
サービス活動収益	195,020千円						
職員数(常勤換算)	34.2名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型)

親子ひろば

聖隷こども園ひかりの子

2021年度は2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に対応する「新しい生活様式」を踏まえた教育・保育を再考する時となった。コロナ禍での地域における人との関わり方の変化や、戸外遊びの減少による乳幼児の育ちへの影響は、身近に感じられる課題である。

2022年度は、そうした社会の中で育つ子どもの健やかな成長のため、子どもの成長や園生活を可視化することで、保育者だけでなく保護者や地域社会を巻き込むことを意識し、子どもにとって豊かな環境を構築していく。また、職員一人ひとりの保育の専門性を高めるため、園内外での研修会や勉強会への参加を促すとともに、職員同士が互いに認め合い、自己発揮できる環境を整える。

【施設理念】

『ひかりの子らしく歩みなさい』～エフェソ信徒への手紙5:8～
キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質の向上
 - (ア) 教育・保育理念に基づき、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を指標として事例検討会等で具体的な学びを深め、保育実践に繋げる。
 - (イ) 子どもの非認知能力を培うため、異年齢保育や少人数保育等必要に応じて保育の形態を工夫し、日々の生活や遊びの中で他者との交流が図れる環境（空間・時間・物等）を整える。
 - (ウ) 子どもが自分でやりたいことを見つけ、方法を考えて達成していく「子ども主体の保育」を実現し、一人ひとりの成長発達に合わせた保育実践に結び付けていく。
 - (エ) 感染症予防を大前提とし、日常の保育活動を中心に考えた上で、行事の意味や内容を見直す。一人ひとりの子どもが大切にされ、子どもにとって意味ある活動が保障されるよう、職員間で確認し合う。
 - (オ) 子どもの発達や学び、園での教育・保育の実践の意図やねらいを保護者に丁寧に伝え、教育・保育を可視化することで相互理解を図る。
2. 教育・保育の専門性の向上及び働きやすい職場環境の整備
 - (ア) 保育職ラダーや自己評価を通じて、それぞれの段階で求められる資質を明らかにし、キャリアステージに応じた内外の研修に参加する。

- (イ) 職階・職務内容・役割に応じて業務の棲み分けを明確にし、組織的に役割を担えるようにする。具体的な業務の改善や見直しを図ることで、問題解決に取り組む。
- (ウ) 現行の保育システムを見直し、新たなシステムの導入を図ることで、業務負担の軽減を目指す。

3. 地域・他機関との連携

- (ア) 小学校への接続をふまえ、与進小学校との交流を深める。(授業体験・プール交流等)
- (イ) 松溪会の市野与進こども園との連携・交流を深める。
- (ウ) 行政・民生児童委員・発達医療センター等の職員との情報交換・共有を図る。
- (エ) 地域の美化活動・子育て会議・老人会との交流に参加し、地域の実態を把握すると共に、園の教育・保育内容の発信を行う。

4. 安全・危機管理に対する取り組み

- (ア) ケガの報告やヒヤリハットの検証を行い、リスク発生時の対応と予防の周知を図る。
- (イ) 感染症に関する正しい知識や情報を共育すると共に、有事には関係機関とスムーズに連携できるよう体制の整備、研修の充実を図る。
- (ウ) 防災委員会を中心に災害・不審者対策の見直しを行い防災力の強化を図る。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭に、集い・交流の場所を提供する。(親子ひろば・園庭解放)
- (イ) 中高生の職場体験学習やボランティアを受け入れ、次世代育成に貢献する。

【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3)	27名	36名	36名	43名	44名	44名	230名
利用定員(1号)	—	—	—	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	27名	36名	36名	45名	46名	46名	236名
一日平均入所者数	15.8名	32名	36名	42名	37.8名	38名	201.6名
年間入所延人数	190名	384名	432名	504名	454名	456名	2,420名
入所率	58.6%	88.9%	100%	93.3%	82.2%	82.6%	85.4%
開所日数(延べ)	293日(教育週数 41週)						
サービス活動収益	240,986千円						
職員数(常勤換算)	40.3名						

【提供保育事業】

延長保育事業	障がい児保育事業
一時預かり事業(一般・幼稚園型)	外国人児童保育事業
親子ひろば	類似型学童保育事業

聖隷こども園めぐみ

事業所内保育所めぐみ保育園との統合により定員を 216 名に増員し新しい体制でスタートして 1 年が経過した。地域のニーズが特に高い乳児の受け入れを積極的に行い、地域への貢献を果たすとともに、経営の安定にも繋がった。2022 年度は 1 号認定児や外国籍児、障害児、医療ケア児等の保育ニーズに応えるとともに、保育教諭の人材確保・人材育成に重点的に取り組み、安定的な経営を目指す。更に「保育の質の向上」を意識し、園内外の研修への参加や保育学会への取り組みを通して職員一人ひとりの専門性の向上につなげる。

また職員がモチベーションを高く持って働くことが出来るようサポート体制を整える。法人が目指すディーセントワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を意識し、業務の省力化を推進し、有給休暇取得率の向上等仕事と家庭の両立支援につなげる。その一つとしてすでに取り入れている ICT 化を見直し、省力化だけでなく職員個人の保育のスキルアップや利用者とのコミュニケーションツールとしての活用を目指す。

確実に進む少子高齢化、大きく変動する社会情勢、特にコロナ禍が続く中、こども園として、園児の安心安全を確保するとともに、地域社会を支える役割を果たすべく子育て支援、働く保護者をサポートする病後児保育事業、統合保育の推進への取り組みなどを強化する。

【施設理念】

キリスト教の精神に基づく「隣人愛」

「隣人を自分のように愛しなさい」 マタイによる福音書 22 章 39 節

「わたしがあなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」

ヨハネによる福音書 13 節 34 節

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア)「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」を基に園として目指す保育観を職員間で共有化する。年間計画や月間指導計画を日誌等の日々の記録と関連付けて作成、記録し会議の中でお互いに実践報告しながら意見を出し合い保育の質の向上に努める。

(イ) 聖隷の保育の基本となるキリスト教保育を主に、「ピアジェの構成論」をベースとした勉強会や園内伝達研修を通して、より具体的に学ぶ。

(ウ) 聖隷保育学会はリモート型で行うなど学びへの姿勢を継続していく。職員が主体的に疑問や課題を見付けて、解決するために互いに取り組み、乳幼児の教育・保育の醍醐味や達成感を味わうことにつなげる。

(エ) 保育職ラダーや自己評価を通して、自身を客観的に評価できるようにする。苦手とする項目を意識し、改善し、レベルアップを目指す。

2. 和合せいれいの里の施設との連携をすすめる

(ア) コロナ禍の中で出来る利用者との交流の仕方を考え実践したり、かるみあ和合と並行通園する園児を両施設で支えたりできるよう職員間の連携を密に行なう。

(イ) こども園に隣接した児童発達支援センターの建築がはじまる。開設に向け連携体制を整えていく。

3. 地域における公益的な取り組み

(ア) 在園家庭、及び地域の子育て家庭への育児に関する発信を強化する。

(イ) 中高生の職場体験やボランティアの受け入れを継続し、次世代育成に貢献する。

4. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 新しい保育システムへの移行に向け主任・副主任を中心に準備を進め、業務省力につなげる。

(イ) 浜松エリア主任・副主任会を継続し職場内の問題解決に向けて具体的に取り組みをすすめる。現場の声が活かされる風土づくり、働きやすい職場の環境づくりを目指す。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	36名	36名	40名	40名	40名	210名
利用定員(1号)	-	-	-	2名	2名	2名	6名
利用定員合計	18名	36名	36名	42名	42名	42名	216名
一日平均入所者数	13名	35.6名	36名	38名	38名	35名	195.6名
年間入所延人数	156名	428名	432名	456名	456名	420名	2,348名
入所率	72.2%	99.0%	100%	90.4%	90.4%	83.3%	89.2%
開所日数(延べ)	保育日数 293日・教育週数 41週						
サービス活動収益	237,396千円						
職員数(常勤換算)	38.7名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型・幼稚園型)

外国人児童保育事業

親子ひろば

病児保育事業(病後児型)

聖隷浜松病院ひばり保育園

定員増から2年が経過し、従業員枠においては乳児の入園が増加傾向にあるが、待機児童の減少に伴い地域枠の入園対策の必要性を感じている。医師、看護師以外の従業員の入園需要にも応えられるよう聖隷浜松病院と連携を密に取りながら、入園希望園児の確実な情報収集、調整等を行い、運営の安定化を図っていく。

コロナ禍の保育が続く中で、職員のモチベーション向上、働きやすい環境作り、業務省力にも重点を置き、業務改善を進めていく。その一つとして保育システムの見直しを行い、浜松地区、磐田地区の園と連携を図りながら、2023年1月頃を目処に新システム導入準備を進めていく。保育システムを活用し、業務省力、効率向上を図ると共に日常的な業務を通して保育の言語化、可視化にも取り組んでいく。園内勉強会を継続し、全体的な計画に基づく保育、子どもの育ちを支える保育者の在り方を学び、保育者の育成にも取り組んでいく。そして、キリスト教保育を基盤とし、ピアジェの構成論の考えを取り入れながら子どもの興味関心を捉え、子どもの主体的な生活と遊びを支える連続的な保育実践をすすめる。また、聖隷浜松病院の事業所内保育所としての役割、保育の重要性を職員一人ひとりが理解し、感染予防対策の意識を高め、衛生的で安心、安全な保育にも努めていく。

【施設理念】

キリスト教精神を基本理念として関係法令を遵守し、新保育所保育指針やキリスト教保育指針にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指す。

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

【事業・運営計画】

1. 質の高い保育の実践

- (ア) 0、1歳児クラスでは、ゆるやかな育児担当制保育を継続し、個々の子どもの情緒の安定を図り、子ども自身が生活に見通しを持ち主体的に生活を進められる保育を展開していく。2歳以上児クラスではコーナー遊び中心の保育、幼児クラスでは子ども会議を実践し、ひとり一人が主体的に遊び、考え、行動していく力を育む保育を進めていく。
- (イ) 子どもの興味関心を捉え、全体的な計画をもとに発達の連続性をもった保育を展開していく。
- (ウ) 保育システムを活用し、ドキュメンテーションによる子どもの育ち、保育の可視化を継続し、保護者の保育理解へとつなげる。

(エ) 聖隷の他のこども園・保育園と連携を図り、他園への保育見学、保育学会での学び合いを深め、自園の保育に生かす。

2. 専門性の向上を図る

- (ア) 研修計画に沿ってWEB研修を含めた園外研修への参加を支援し、学びの機会を増やす。
- (イ) 保育職ラダーや目標参画システムを活用し、個々の課題を明確にして目標達成に向けて取り組むことを通しスキルアップを図る。
- (ウ) 継続的な園内研修を実施し、構成論の保育根拠に基づく保育や子どもの育ちを支える保育者の在り方を学ぶと共に、職員同士が互いの保育を共有し語り合える関係性を育む。

3. 職員の働きやすい環境づくり

- (ア) 浜松エリア共同で保育システムの見直しを図り、保育システムの有効的な使用方法を検討し、保育記録業務の省力化を図る。
- (イ) 浜松エリアの主任・副主任会を実施し、職場の課題改善に向けて取り組みを進める。園全体で業務改善の意識を持ち、記録時間の確保と会議体の見直しを図る。
- (ウ) 短期間で保育士の配置交換を実施し、互いの保育を共有し活発な意見交換ができるような環境を作る。職員との定期的な面談を実施し、職員との対話、現場の意見を聞き取る場を作る。

4. 地域における公益的な取り組み

- (ア) ボランティアや学生の実習の受け入れを実施し、次世代の育成に貢献する。近隣の特別支援学校の職場実習の要望に対しても受け入れを実施する。
住吉地区の文化展に参加、交友会の高齢者との交流を開拓し、地域との連携を深めて相互理解、自助共助につなげる。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（従業員枠）	30名	30名	30名	30名	30名	30名	180名
利用定員（地域枠）	6名	7名	7名	-	-	-	20名
利用定員合計	36名	37名	37名	30名	30名	30名	200名
一日平均入所者数	16.5名	29.5名	41.7名	17.5名	24.0名	9.0名	133.1名
年間入所延人数	198名	355名	501名	210名	288名	108名	1,660名
入所率	45.8%	79.9%	112.8%	58.3%	80.0%	30.0%	69.2%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	223,536千円						
職員数（常勤換算）	37.3名						

【提供事業】

- 延長保育事業
- 乳児保育事業
- 学童保育事業

聖隷のあ保育園

市街地の中心部に位置し、待機児童対策、近隣企業に就労の家庭、近隣の子育て家庭の支援を継続して行い、開設から3年が経過した。2021年度4月当初は予定外の転園があり、スタートの人数予測の難しさを感じた。また、年間通して育児休業を1年以上取得する家庭が増加傾向にあり0歳児の途中入園が進まなかった。年度途中の入退園に臨機応変に対応していくとともに、年間の見通しを持ち新規入園の働きかけをおこなう。2022年度は2021年度に引き続きコロナ禍における保育内容の見直しや行事の在り方について法人内のこども園・保育園と情報共有し、安心、安全な保育の提供を継続していく。また、乳児期の子どものみを受け入れる保育園であるため、保護者との丁寧な関わりを心がける。連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」とは土曜保育や特別保育期間の共同保育等において、連携の継続を図る。保育と並行して保育研究を深め、子どもの成長発達に合わせた援助の在り方を探り、職員のスキルアップにつなげていく。

【施設理念】

1. 子どもたち一人ひとりが愛されて愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
2. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てができるよう支援する。

【経営方針】

1. キリスト教保育を基盤に、子ども一人ひとりが心身共に豊かな成長発達ができるよう丁寧な保育を行う。
2. 定員19名という少人数の園の特性を活かし、乳児期の心身の発達に必要な十分に養護の行き届いた環境を整え保育を行う。
3. 在園、地域の子育て家庭が豊かな環境で子育てできるように、保護者の就労、子育て状況を把握し、子どもの成長発達と併せて保護者支援を行っていく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質を向上し、質の高い保育と保護者支援を行う。
 - (ア) キリスト教保育を基盤に、聖隷の保育を形づけていく。
 - (イ) 園内勉強会で自園の研究を深め、乳児期の成長発達に応じた保育の展開、職員のスキルアップを目指す。
 - (ウ) 養護と教育が一体になった保育を行うために、子どもの成長発達に関連付けて子どもを観る視点、子ども理解に努める。
 - (エ) 少人数の乳児保育の利点を活かした保育を行う。個々に合わせた丁寧な関りを意識する。
 - (オ) 保育環境を子どもの発達と併せて考え、保育環境と保育内容を常に見直し改善していく。
2. 保育システムによる業務省力と働きやすい職場環境づくりを目指す。
 - (ア) 新しいシステム導入に向けて、システムの理解を深め、スムーズな導入を目指す。
 - (イ) レイバー表を用いて職員の動きを可視化し意識することで、業務省力につなげる。
 - (ウ) 職員間で、互いにコミュニケーションをはかり、報告、連絡、相談を徹底する。

- (エ) 職員が働きやすい環境を整え、心身の健康維持に努める。
- (オ) 連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」との共同保育にあたり協力体制を整える。

3. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域の子育て家庭の相談に応じ、保護者理解、育児支援に努める。
- (イ) 自治会に向けて園の情報を発信し、交流を通して関係を深めていく。隔月の老人会（常和会）との交流を大切にする。
- (ウ) 洪水等の防災区域であることを発信し、地域との連携を深め、万一の時に備える。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	合計
利用定員（3号）	6名	6名	7名	19名
一日平均入所者数	5.2名	7.0名	6.0名	18.2名
年間入所延人数	62名	84名	72名	218名
入所率	86.6%	116.7%	85.7%	95.6%
開所日数（延べ）	293日			
サービス活動収益	47,084千円			
職員数（常勤換算）	8.0名			

【提供事業】

延長保育事業

外国人児童保育事業

こうのとりの保育園

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中で、感染予防対策、環境の整備（園庭全面人工芝工事）、保育 ICT システム「コドモン」の導入を行い、保育ドキュメンテーション等を通して保育を共有（子どもの遊びからの学びを可視化する）したことで、園と家庭のコミュニケーションを深め、保護者理解につなげることができた。2022年度も引き続き子ども一人ひとりに対し丁寧な援助をおこなうため、一人ひとり異なる日課を大事にし、子どもが主体的に遊びを選び、自らがやりたいと意欲的に取り組むことができるような環境を目指していく。2021年11月に創立50周年を迎えたが、これまでの園の歩みを知り、蓄積してきた保育園の歴史を園内外に伝え、子どもは社会全体で育てることが大事であることを再認識した。引き続き子ども達の生活を保障し、地域の中で愛され、地域福祉に貢献できるよう取り組んでいく。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13:34

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 保育の質向上への取組み

(ア) 教育、保育理念を理解し実践する

- ①一人ひとりの子どもの状況や家庭及び地域社会での生活の実態を把握するとともに、子どもが安心感と信頼感をもって生活・遊びができるよう、子どもの主体としての思いや願いを受けとめる。
- ②子どもの生活のリズムを大切にし、健康で情緒の安定した生活ができる環境や、自己を十分に発揮できる環境を整える。
- ③職員が自分の役割を理解し、仲間に貢献し、個の力を発揮することでチーム力の向上に繋げる。
- ④職員が学びの場を通して、互いに支え高め合っていく協働的な関係、同僚性を構築する。
- ⑤職員ひとりひとりが生きがいややりがいを持ち、職員ひとりひとりが専門職として誇りと自覚をもって業務にあたることができるようにする。

(イ) 家庭と連携をして子育てを共有する

①保育理念や保育目標、子ども達の様子や育ちについて、園だより、クラスだより、ドキュメンテーション等を活用し、保護者に解りやすく伝え、相互理解を図る。

②保護者の保育参加を実施し、園での子ども様子や友達との関わりを直接見る機会を設け、面談を通して子どもの育ちを共有する。

2. 保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

(ア) 保育磐田エリアで保育システムの有効な使い方を共有し、業務省力につなげていく。

(イ) 保護者アプリの技術活用等を通して、保護者とのコミュニケーションを円滑に行い、園への安心感、満足度の向上と改善を促進する。

(ウ) 業務内容や会議体、新人指導の見直しを図り、時間の使い方を精査する。

(エ) 職員同士の円滑なコミュニケーションを図り、働きやすく、働き続けられる職場風土を作る。

3. 統合保育の実践

(ア) 障がい児を対象とした一時保育「こひつじ保育」では、日々の生活の中で在園児との交流を行い、保護者や子どものニーズを踏まえ計画的に保育を行う。

(イ) 「磐田市発達支援センターはあと」の巡回相談を利用し、積極的に働きかけ、子どもへの関わり方や保護者へのアプローチ方法を学び、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる。

4. 地域における公益的な取り組み

(ア) 行政や他機関と連携し、支援センター「エンジェル」にて子育て家庭の交流の場を提供し、子育て家庭の抱えている課題の相談をきめ細やかに行う。

(イ) 地域住民や小中高校生との世代間交流を推進し、子育て支援活動、体験学習を積極的に受け入れ、子育てに関わる機会をつくる。

【数値目標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	20名	20名	20名	20名	20名	20名	120名
一日平均入所者数	13.5名	20.0名	26.0名	26.0名	27.0名	25.0名	144.1名
年間入所延人数	162名	240名	312名	312名	324名	300名	1,729名
入所率	67.5%	100.0%	130.0%	130.0%	135.0%	125.0%	120.1%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	201,746千円						
職員数（常勤換算）	39.2名						

【提供事業】

延長保育事業 一時預かり事業（一般型）

地域子育て支援拠点事業 病児保育事業（病後児型）

休日保育事業 学童保育事業

聖隷こども園こうのとり東

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で園庭開放、病後児保育、一時保育等の事業の受け入れの見合わせが生じ、保護者支援や教育・保育の方法を模索するなど課題が多かった。2022年度も続くことが予想される為、適時、早めの対策が取れるよう態勢を整えていく。そのような中において園長、主任、副主任がリーダーシップを発揮し、他の職員と共に出来ることを模索しながら質の高い保育が展開できるよう研鑽していきたい。2021年度から保育システム(コドモン)の利用を開始した事で業務の軽減に繋がっている。一方で、運用面での課題等も出ていることから2022年度はシステム会議、磐田地区エリア会を通して見直しを行っていきたい。

放課後児童クラブオリーブについては利用者人数が安定している。車送迎の学年の幅が大きくなってきている為、将来的に受け入れを2校から1校に減らし、受け入れ校の学区児童の受け入れ増とすることも検討していきたい。

【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る。
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる。
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく。

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上

(ア) 保育者が保育理念と保育目標を理解し「一人ひとりを大切にする保育」を実践する

- ① “子どもの主体性を考える”の研究テーマを意識した保育実践をし、事例検討を通し保育力に繋げる。
- ② 職員が発達の繋がりを理解し、子どもの“やってみたい”を引き出しながら、様々な経験を提供できる為のスキルを身につける。
- ③ 保育士リーダーや自己評価の分析から自分自身を客観視する事で保育力をつけ、教育保育を充実させる。

(イ) 保護者支援を実践する

- ① 保護者に対して保育理念や保育目標に基づいた実践事例を提示することで、子どもの様子や成長を伝える。また、園便り、クラス便り、保育ドキュメンテーションを活用し、関わり方を具体的に知らせる。
- ② 懇談会や個人面談、保育参加、園庭開放等を利用し、保護者の悩みを探り、共有することで保護者自身が穏やかに育児をできるよう支援していく。
- ③ 子どもの安全を守ることを第一に考え、保護者と共に様々な非常事態に対応していく。また、他機関との連携を密にしていき正確な情報を提供していくように努める。

2. 統合保育・他機関との連携

- ① 保育者自身が統合保育の在り方を学び、理解し、子どもが共に育ち合う環境をつくる。
- ② 虐待が疑われる家庭や障害のある保護者（精神疾患・知的障害）、配慮が必要と思われる子ども（家庭）の問題は、必要に応じて園と専門機関が連携し、子どもの安全と情緒の安定を図る。

3. 食育の推進と環境

- ① 栄養士、調理師、保育教諭が連携を取り、米、野菜づくりやクッキング活動を充実させながら、子どもの食への関心を高める。

4. 地域における公益的な取組

- ① 畑や田んぼでの活動を通して高齢者とながりをもち、行事参加等で交流を図る。
- ② 看護師による地域の方への健康管理（血圧測定・健康体操指導）を年2回実施する。
- ③ 年16回の園庭開放を実施し、「こども園での生活」、「遊びの経験」、「身体測定」「歯科講習」等を通して育児相談の場を提供する。

5. 放課後児童クラブ“オリーブ”

できるだけ児童が主体的に学習、あそびの時間を決め、行動することができるよう声かけし環境を整える。その際は社会性も意識し助言していく。

定員：40名

対象児童：市内1年生～6年生 児童予定数：通常38名（長期休み：45名）

対象小学校：原則…東部小、田原小、福田小 *田原・福田については送迎車利用

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	28名	28名	36名	36名	36名	36名	200名
利用定員（1号）	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	28名	28名	36名	41名	41名	41名	215名
一日平均入所者数	15.0名	30.0名	36.0名	37.0名	41.0名	40.0名	199.0名
年間入所延人数	171名	384名	384名	504名	420名	480名	2,343名
入所率	50.8%	114.2%	0.88%	116.6%	102.8%	111.1%	90.8%
開所日数（延べ）	293日（教育週数45週）						
サービス活動収益	248,362千円						
職員数（常勤換算）	43.1名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業（一般型）

外国人児童保育事業

病児保育事業（病後児型）

学童保育事業

聖隷こども園こうのとり豊田

2022年度は、新型コロナウイルス感染防止のため過去2年間従来通りの子育て支援が行えていない現状を踏まえ、感染防止対策を徹底しながら在園・地域の子育て家庭の支援に重点を置き、計画や実践を行う。その際、磐田市や他機関とも連携を図り、家庭の状況に応じた適切な支援を進めていく。保育 ICT システムを導入して2年目の年を迎える。磐田・浜松地区・在宅・福祉サービス事業部と連携を図りながら継続した業務改善や保育の可視化、保護者との連絡ツール等として活用の推進を行う。保育 ICT システムで効率化された記録業務の時間を有効活用し、教育・保育の共通理解のための会議や園内研修の充実を図る。特に園児一人ひとりの興味・関心、成長発達に応じた遊びの環境を整えて行く為のこども理解に繋がる学びを個人や職場全体で進めていく。また主幹保育教諭を中心とし副主任や専門リーダーが役割を担いつつ園全体の課題について組織的に取り組む体制の構築の推進を図る。

【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13 : 34

【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

【事業・運営計画】

1. 教育・保育の質向上への取り組み

(ア) 教育・保育理念を理解し実践する

- ① 乳児保育で、「ゆるやかな育児担当制保育」を継続し、園児（特に乳児）が自分の生理的リズム、発達や行為のテンポに応じて見通しを持ち、主体的に生活できるよう援助する。
- ② 乳幼児の主体性を大切に教育・保育を目指し、園児の成長や発達、興味や関心を子どもの姿より捉え、定期的に見直ししながら保育環境や日課等を整えていく。

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ① 保育 ICT システムを通して、日々の保育の様子や教育及び保育の意図を丁寧に伝えることで保護者との相互理解を深める。
- ② 新型コロナウイルス感染症対策を図りながら保育参加や行事を計画し、園での子どもの様子や友達との関わり、教育・保育の可視化を行う。必要に応じて個別面談を行い子どもの育ちを共有する。

2. 保育の専門性を向上と働きやすい職場環境の構築

(ア) 新型コロナウイルス感染対策に考慮しつつ、教育・保育に必要な知識と技術を習得する為、外部研修に積極的に参加する。園内で情報共有を行うことで、保育の幅を拡げ具体的な実践につなげる。(キャリアアップ研修・実技研修・給食研修・衛生管理研修等)

- (イ) 雇用形態の違う職員同士の園内研修の方法を検討し計画・実践を行う。職員同士が教育・保育について語り合う環境を作り施設目標に向けて協同性を持って進める。
- (ウ) 保育 ICT システムの課題について話し合いを重ね、適切な運用により業務改善へと繋げていく。

3. 統合保育・専門機関との連携

- (ア) 発達の気になる子や「こひつじ保育」(発達に偏りのある子どもを対象とした一時預かり)の広報を積極的に行い、利用者の増加に繋げる。子どもの育ちの背景や保護者の意向を踏まえて、個別の支援を実施する。
- (イ) 必要に応じて磐田市の保健師、「磐田市発達支援センターはあと」や「聖隷こども発達支援センターかるみあ」と連携を図り、子どもへの関わり方や環境設定の配慮等を学ぶ。
- (ウ) 小学生と園児の交流や小学校教諭との情報交換会を行い、互いに教育の理解を深める。また、小学校教育との更なる円滑化を図る為に、参観等を計画し実践する。

4. 地域に根ざした取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭への助言や相談を行う機会を設ける。
- (イ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける。
- (ウ) 新型コロナウイルス感染対策を行いながら地域ふれあいクラブとの交流方法を検討し行っていく。

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 地域の子育て家庭を対象に、保育教諭や管理栄養士等の専門的育児講座を企画する。
(離乳食講座・BPプログラム(親子の絆づくりプログラム)等)
- (イ) 小学校、中学校、高等学校が実施する乳幼児との触れ合いや交流に、こども園が積極的に協力し、次世代育成支援の一端を担う。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員(2・3号)	18名	23名	24名	25名	25名	25名	140名
利用定員(1号)	-	-	-	5名	5名	5名	15名
利用定員合計	18名	23名	24名	30名	30名	30名	155名
一日平均入所者数	10名	24名	28名	33名	33名	35名	163名
年間入所延人数	122名	288名	336名	396名	396名	420名	1958名
入所率	56%	104%	117%	110%	110%	117%	117%
開所日数(延べ)	293日(教育週数45週)						
サービス活動収益	207,784千円						
職員数(常勤換算)	44(38)名						

【提供事業】

延長保育事業

一時預かり事業(一般型・幼稚園型)

親子ひろば

学童保育事業

聖隷こうのとり富丘

聖隷こども園こうのとり富丘
聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘
聖隷訪問看護ステーション富丘

新型コロナウイルスの対応は長期化する中であっても、社会を支えるために、保育の継続は重要な役割を持つ。オミクロン株の感染力は強く、子どもたちへの感染そして家族への感染が続く中で、職員の感染も免れない状況となってきた。そのような中であっても、人と人との愛情深い関わりは乳幼児期の人間形成にとって極めて重要であり、私たちが理念とする「人を愛することへの喜びを子どもたちにはできるだけ多く経験させたいと考える。お互いの専門性を活かして3事業がつながり合い、乳幼児期の教育・保育・療育そして、家族の保健医療等のケアに関わることで、利用者がその家族がより豊かに生活できるように貢献していきたい。

【施設理念】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

【事業・運営計画】

1. 施設運営

- (ア) 職員の意見を反映させる場を設定し、安全・安心な環境をつくる
- (イ) 職員の“知りたい”という思いを3事業でつなぎ、学び合うことで、教育・保育・療育の実践へとつなげ、利用者へ届ける
- (ウ) 法人内外の研修参加、職種別ラダーを活用し、職員のスキルアップを行い、専門職としてのやりがいをつくる
- (エ) 安定した運営ができるよう、適切な職員配置、コスト管理を行う

2. 聖隷こども園こうのとり富丘

- (ア) 施設理念に基づいた保育研究や保育実践を行い、保育の質を高める
- (イ) 懇談会等を利用し、保護者向けに“子どもが育つとき”をテーマに具体的に写真等を用い、分かりやすく、こうのとり富丘の保育の考え方を伝える機会とする
- (ウ) できる限り少人数で保育を行い、ひとり一人の育ちを丁寧に観ることで、“子どもが何を経験しているか”を考え、何が育っているかを保護者と一緒に考え合う機会を持つ
- (エ) 地域福祉の視点から、3事業の専門性を活かし、定期的に地域に発信(広報)することで、こうのとり富丘を知っていただく機会とする

3. 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘

- (ア) 子どもが多様な繋がりや豊富な経験の中で好きなこと、もの、場所、人を増やしていく

- (イ) 保護者が、子どもや自身のありのままを受け止め、「自分らしさ」を大切にする
- (ウ) 障害の有無や程度に関わらず、地域の中でともに過ごす機会を提供する
- (エ) 施設管理を適切に行い、安全で安心な施設づくりを続ける

4. 聖隷訪問看護ステーション富丘

- (ア) 磐周地区の法人内事業所との連携
- (イ) 利用者のニーズに沿ったケアの提供ができる
- (ウ) 聖隷ここのとり富丘内、訪問看護ステーション内での役割を明確にして、実行する

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 園庭開放を行い、子育て中の親が孤立しないように保護者同士の交流の場とする
- (イ) 地域住民や小・中学生との交流など、多世代の方たちが子育てに関わる機会を作る
- (ウ) 施設見学や実習・ボランティアを積極的に受け入れる

【数値指標】

■聖隷こども園ここのとり富丘

【提供事業】・延長保育事業 ・一時預かり事業（一般型・幼稚園型） ・病児保育事業（病後児型）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	18名	20名	20名	20名	21名	21名	120名
利用定員（1号）	-	-	-	3名	3名	3名	9名
利用定員合計	18名	20名	20名	23名	24名	24名	129名
一日平均入所者数	15名	22名	20名	24名	24名	25名	130名
年間入所延人数	184名	264名	240名	288名	288名	300名	1,564名
入所率	80%	110%	100%	104%	100%	104%	100%
開所日数（延べ）	293日（教育週数45週）						
サービス活動収益	302,602千円						
職員数（常勤換算）	37.2名						

■聖隷こども発達支援事業所かのみあ富丘

利用者定員	10名
利用者延べ人数	2,642名
一日平均利用者数	10.8名
稼働率	108.72%
稼働日数（延べ）	243日
単価（一人一日当り）	22,364円
サービス活動収益	59,088千円
常勤換算職員数	8.1名

■聖隷訪問看護ステーション富丘

平均利用者数	88名
月間訪問件数	459件
年訪問件数	5,510件
単価	9,628円
サービス活動収益	53,053千円
常勤換算職員数	7.4名

野上あゆみ保育園

保護者が子どもたちの育ちや園への取り組みに関心が持てるような投げかけを、職員と共に考えていきたい。また、行事の見直しを進め、保育システム（コドモン）を活用しながら、おたよりを中心に保護者と共に育ちを喜び合える保育園にしていきたいと思う。

保育の質向上への働きかけとして、園内研修等から出た疑問に対し、係等担当者に意識付けをしながら他職員へ投げかけや意見の吸い上げ、まとめができるよう中堅職員を巻き込んでいく。また、保育システム（コドモン）導入後の業務改善を意識し、働きやすい環境を整え、職員それぞれが互いを尊重しながら、子どもの様子に合わせて保育展開ができる職員集団を目指していきたい。

【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 —エフェソ 5-2—

【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりをもち、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上の為の取り組み
 - (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を大切に、ひとりひとりの声や思いを保育実践に繋げていく。また、子どもや保護者の些細な違和感から、早期アプローチを心がける
 - (イ) 異年齢児や小学生などとの交流を通して、子どもの視野や社会性を広げる。また、子どもが自ら活動を選択できる場の中で、SDGs を意識して取り入れられるよう保育の見直しを行う
 - (ウ) 子どもたちの園での姿や育ちについて、保護者に伝える場として行事や懇談会の実施方法を検討し、有意義な時間を共有できるよう工夫する。また、全体の中の個への対応を大切にしながら、専門家の意見を参考に必要な家庭へ個別に伝えていく
 - (エ) 園の理念や思いを、保護者に伝えていくことを意識していく
 - (オ) 日々の食に興味を持ち、野菜の栽培や収穫だけでなく、食品ロスや野菜くずの再利用などについて職員が考えたり課題を見出したりする
 - (カ) 放課後児童クラブ（のがみっこくらぶ・にじっこくらぶ）は、小学校区が一つになるため、2つのクラブの情報交換や共有を深めていく。また、子ども達の安心できる生活の場となるよう意識を持ちつつ、保護者と共に考える姿勢を持ち、子どもの育ちを支えていく
 - (キ) 保育園と児童館、放課後児童クラブが連携をとり、協力してできることを検討する
 - (ク) 職員会議・パート会議の在り方を検討し、聞く姿勢ではなく、個々の思いや考えを積極的に伝え合えるような内容を取り入れていく

2. 施設の防災力の強化

- (ア) 自園の防災力強化を図るため、園内研修から見えてきたものをもとに、防災に対して職員全体が意識を高めて取り組むことができるよう投げかけていく
- (イ) 引き取り訓練を実施することで保護者と防災への取り組みを共有する
- (ウ) 危機管理委員会での、ケガ報告やヒヤリハットの検証をもとに職員間で周知する

3. 地区聖隷施設との連携

- (ア) 無理のない形での高齢者との交流を模索する（聖隷逆瀬川デイサービスセンター・結いデイサービスセンター・宝塚エデンの園・宝塚栄光園）

4. 「人づくり」への取り組み

(ア) 研修への参加など

- ① 職員が専門性を高めるための研修とともに、教育アドバイザーや積み木講習、足育講座など実践を伴った研修への積極的な参加
- ② 聖隷保育学会・階層別研修・あゆみ合同研修・キャリアアップ研修に参加
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の4歳児受け入れに向けての交流・引継ぎを実施
- ④ 園内研修で興味のある事に取り組み、自主性や積極性を養い保育の質の向上を目指す
- ⑤ 保育職ラダーの活用により、目的意識の明確化を図る。日々の保育をお互いに確認し合うなど保育の振り返りを実施

(イ) 次世代育成

- ① トライアルウィークの中学生や高校生、大学生ボランティアの受け入れを実施する。実習生や学生アルバイトを積極的に受け入れ採用へつなげる

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) 安全な環境のもと、かけっこ教室や積み木遊び、足育講座を計画する
- (イ) 地域のニーズを探り、子育て支援プログラムの充実化を図る
- (ウ) 子育て支援担当者による相談事業の充実

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	10名	12名	14名	22名	23名	90名
一日平均入所者数	9名	14名	15名	14名	27名	28名	107名
年間入所延人数	105名	168名	180名	168名	324名	336名	1281名
入所率	97.2%	140%	125%	100%	122.7%	121.7%	118.6%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	155,256千円						
職員数（常勤換算）	30名						

【提供事業】

一時保育事業、延長保育事業、障がい児保育、子育て支援事業、学童保育事業

野上児童館

近年問題とされているヤングケアラーについて、学びを深めたり、地域の現状を把握したりしながら、児童館としてできるサポートの在り方を職員会議や運営委員会等で考えていきたいと思う。コロナ禍で過ごす子どもたちの些細な言動から抱えている不安や社会とのつながり方について、社会の一員としての存在価値や道徳心、適応力が身につくサポートを心掛けていきたい。

専門機関からの問い合わせや館からの報告相談等、スムーズな連携を心掛け、共有や対応に努めていきたい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す。

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のもつニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや、子育て不安を抱える保護者の心やすらぐ児童館、地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上

- (ア) コロナ禍に対応した乳幼児・小学生向けのプログラム等、様々な活動を企画する
- (イ) 年間テーマを設け、食育の取り組み方を模索し、年齢に応じた内容を提供していく
- (ウ) 「ホールで遊ぼう」のプログラム内容を検討し、実施の方法を考える
- (エ) 玩具やゲーム等、安心安全で遊べる環境作りを目指す
- (オ) 放課後子ども教室等の活動に協力できるよう体制を整えていく
- (カ) 児童館と保育園や学童保育が協力して行うことができることを検討する
- (キ) 中高生の居場所作りとして行っている開館延長の周知方法を考え、参加を促していく

2. 地域との連帯の強化

- (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などとの関わりを深め、情報の共有を行い子育て力の向上を目指す
- (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し、地域の協力を得ながら、ニーズに見合った実施を進め定着させる
- (ウ) コロナ禍で行う地域の行事等に児童館ができることを検討し、地域とのつながりを深めていく
- (エ) 来館者の悩みや思いに寄り添いつつ、利用者の必要な支援方法を模索する

3. 職員の資質向上

- (ア) 宝塚市児童館交流研修等へ積極的に参加をする
- (イ) 子育て支援研修などより専門性を高めるための研修へ参加する

【数値指標】 ひろば型 3 名 出前児童館 3 名

逆瀬川あゆみ保育園

2021年度もコロナ禍の中、様々な行事や保育の見直しをすることを余儀なくされたが、その中の気づきも沢山あった。特に3歳児クラスまでの自園は行事等で乳児に負担をかけることが多かった。その事を見直し、外に向ける「見せる」行事から保育の中で日々の生活に溶け込んだ「無理せず楽しむ」行事へとなるよう、実践していきたいと考える。また、子どもひとり一人の違いを受け止める保育を大切に実践しているが、職員や保護者ひとり一人の違いにも目を向け、受け止めていけるようにしていく。そのために、ひとり一人とコミュニケーションをとり、その人の強みに目を向け、最大限に活かされるよう環境を整えたい。

【施設理念】 キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上
 - (ア) 保育の基本方針について職員理解の統一を図る
 - ① 保育理念、施設目標を確認し、「主体性を育む保育」の浸透をめざす。
 - ② 適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、穏やかな関わりなどを保育者が実践し、主体的に行動する。
 - ③ 子どもの興味・関心があることに目を向け、大切にし、時期を逃さず環境を整える。
 - (イ) 保育者として基本に立ち返る
 - ① 子どもひとり一人の違いを知ろうとし、受け止め、適切な関わりと援助を行う。
 - ② 専門性を意識し、保育を理論化して捉え、保育計画を立案していく。
 - ③ 保育の基本スキルに加え、保育者としての経験から培われた柔軟性をプラスして保育に取り組む。
 - ④ リズム活動やわらべうたを保育に取り入れ子どもの体幹を育てる。
 - (ウ) 保育者研修の充実・人材育成
 - ① 園内研修や「あゆみ合同研修」を実施し、保育の専門生を高める。
 - ② 保育士の興味にあった外部研修（リモート研修）を積極的に受講する時間を設ける。
 - ③ 保育の中での疑問や気づきを掘り下げて研究し、学会などで発表する。
 - ④ キリスト教保育冊子や書籍を利用し定期的に読みあわせやグループディスカッションを行い、コミュニケーションをとりながら学びを深める

2. 保護者との交流

- (ア) 実施可能な限り、保育参観や保育参加・懇談会・個別相談・おたより・連絡ノート・ドキュメンテーションボードを通して活動の様子を知らせる。(画像の活用)
- (イ) 保育システム(コドモン)による保護者とのコミュニケーションを考え実践する。

3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携

- (ア) 合同研修や学会を通して情報交換をし、連携を図ることで共に学び歩いていく。野上あゆみ保育園は3歳児以降の受け入れ先となる為、同じクラスになる3歳児との交流にICT等を活用して取り組み、3歳児の不安を軽減できるようにする。また、保育士間の交流・連携も大切にする。

4. 地域とのつながり

- (ア) 人数を制限しながら、コロナによる育児孤立を防ぐため、地域参加プログラム「すくすく」や、園庭開放、室内開放(栄養士・看護師・足育など専門職の相談を含める)を通して保護者同士の繋がりを育て、育児支援をしていく。
- (イ) 一時保育は、人数を縮小しながらも、子育てに難しさを抱える保護者の支援も行っていく。受入れ状況は、ホームページを利用して随時知らせる。

5. 食育

- (ア) 栄養士を中心に、保護者に向けて行事やお便りを通して食に関する情報の発信を行う。
- (イ) 給食を通じて旬の食材の名前や役割や味、食べることの楽しさを子ども達に伝える。

6. 防災・防犯訓練

- (ア) 毎月の防災訓練に加え、災害時を想定し、野上あゆみ保育園に避難する訓練を実施する。不審者に対する対応を考え訓練をする。

7. 働きやすい環境づくりに取り組む

- (ア) 保育システム(コドモン)を利用し事務作業の軽減化を図る。会議の持ち方や書類の見直し等を行う。

8. 地域における公益的な取り組み

- (ア) コロナ禍の中、地域の高齢者との交流の機会を持つことが出来るように手立てを考える。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計
利用定員(2・3号)	10名	10名	12名	13名	45名
一日平均入所者数	10.8名	13.9名	13名	14名	51.7名
年間入所延人数	130名	167名	156名	168名	621名
入所率	108.3%	139.2%	108.3%	107.6%	115.0%
開所日数(延べ)	293日				
サービス活動収益	143,196千円				
職員数(常勤換算)	23.6名				

【提供事業】一時保育、延長保育推進事業、子育て支援事業、障がい児保育

御殿山あゆみ保育園

子どもの主体性を育む保育を実践するために、保育者自身が主体的に学び、考えて行動できるようになることをめざす。ICT システムを活用し、保護者に自分たちの保育を伝え、子どもの育ちを共有し、共に喜び合う関係性を構築していく。近隣地域のニーズに対応するため、待機児童の減った0歳児から需要の多い1歳児の定員を増員するように変更する。2022年度も行事や保育内容の変更が想定されるが、「子どもにとって大切なことは何か」という視点を忘れずに、検討を重ね進めていく。その中で、乳幼児の保育は今の日本を支え、未来を作る仕事であるという価値を職員間で見出していく。

【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5:2

【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人ひとりが大切な存在であることを知る。
2. 一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす。
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる。

【事業・運営計画】

1. 聖隷の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
 - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、「一人ひとりを大切にする保育」を具体的に実践する。
 - (イ) 研修や話し合いを通してお互いの保育観を発信、共有して保育方針に沿って実践できる手立てや保育環境を共に考える。
2. 子どもたちが安心して園生活を送れるよう、特にかける言葉に意識しながら、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける。
 - (ア) 乳児期の特定の大人との愛着関係を基盤に、ありのままを受け止め認められる事を繰り返しながら、自己肯定感、自尊心、他者に対する基本的な信頼感を育てる。幼児期においてはそこを土台に、非認知力を育て社会性、学びに向かう力、人間性等を培う。
 - (イ) 感染予防対策を取りながら異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えての関わりを大切にする。
 - (ウ) 発達に障害等を抱え、困り感を抱えた子どもたちの理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う。また、研修会にも参加しスキルを高める。
3. 食育の推進
 - (ア) 保育士、栄養士、調理師との連携による年間食育計画を作成し実施する。
 - (イ) 保護者、子どもに向けての栄養士からの食に関する様々な情報の発信や相互の関わりを持つ。
 - (ウ) 苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む。

4. 子育て支援を通して地域のニーズを知り、保育園の役割を遂行する。
 - (ア) 保育士が専門性を活かし保育室解放・園庭開放などを実施する。子育て中の保護者の様々な思いにも寄り添いながら地域における子育て支援のニーズを知り、応えていく。
 - (イ) 子育て講演会、給食（離乳食・乳児食・幼児食）の試食会、保育室開放、子育て相談を実施する中で地域の社会資源となり、保護者の不安や悩みを知り受け止める。
 - (ウ) 保育士が自分の強みを活かした独自の子育て支援プログラムを計画し実施する。
5. 職員研修の充実と人材育成
 - (ア) 専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修に、主体的に参加する。
 - (イ) 行事・保育などで「子どもにとって大切なことは何か」を立ち止まって考える。
 - (ウ) 子どもの興味関心に目を向け、園内で講師を招いての助言や研修会により、職員間の話し合いにより、保育を展開し実践していく。
 - (エ) 保育の中での学びや実践を発表し、学びの場として宝塚・浜松地区保育学会に参加する。
 - (オ) 保育職ラダーの活用、自己評価の実施により、各自の役割を考えて理解し、責任をもって仕事に従事することのできる人材を育成していく。
 - (カ) ICT システムを活用し、保育内容を保護者に向けて積極的に発信していく。
6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との3園の連携。
 - (ア) 3ヶ園で相互の交流をはかり、共に保育の質の向上に取り組む。合同研修会の実施。
7. 防災対策の強化・充実（地域と共に）
 - (ア) 防災委員会で様々な観点から課題を出し、職員と共に考えながら防災対策に取り組む。
 - (イ) 地域との連携を視野に入れ、小学校等で実施する地域防災訓練にも参加する。
8. 地域における公益的な取り組み
 - (ア) 近隣の幼稚園や保育所、卒園児との交流。
 - (イ) 学生ボランティアや実習生の受け入れ。
9. 新型コロナウイルス等感染症対策
 - (ア) 園内の消毒と換気を定期的に行い、感染予防に努める。保護者と連絡を密に取り、万一感染者が出た場合は迅速かつ適切な対応ができるよう準備しておく。

【数値指標】

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
利用定員（2・3号）	9名	21名	22名	22名	23名	23名	120名
一日平均入所者数	7.8名	24.8名	25名	24.8名	25名	24.5名	131.9名
年間入所延人数	93名	298名	300名	298名	300名	294名	1,583名
入所率	86.6%	118.2%	113.6%	112.7%	108.6%	106.5%	109.9%
開所日数（延べ）	293日						
サービス活動収益	189,525千円						
職員数（常勤換算）	36.7名						

【実施事業】

一時保育事業、産休明け保育、延長保育促進事業、地域活動事業、特別支援事業、その他

御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であるために2022年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を、併設の保育園と連携をとりながら図っていく。また、虐待などの情報の収集、社会資源へ繋げるなど積極的に行いたい。

【施設理念】地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す。

【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からの声を大切にニーズに応えられるような環境づくりや、活動に遊び心を持って取り組む。
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する。
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う。

【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
 - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を整え、提供する。
 - (イ) 利用児童の背景を把握することで必要な支援を的確に行う。
2. 乳幼児親子支援
 - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する。
 - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する。
3. 小学生集団あそび及び支援
 - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する。
4. 中高生居場所づくり
 - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する。
5. 出前児童館
 - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作り、プログラムなどを提供し支援する。
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携・社会資源の活用
 - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、的確な社会資源の活用、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る。
7. 児童館運営委員会の実施
 - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求め運営に活かす。
8. 職員の資質向上
 - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う。
 - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職場内研修を行う。
 - (ウ) 子育て支援に必要な内部研修を行う。(発達、保育、障がい等)

9. 感染症対策

(ア) 対策として、利用者の検温、消毒、体調等を確認し、利用者名簿を作成、館内の環境整備や消毒を行う。及び、自由利用やイベント・講座等の形態を十分に踏まえ、児童館内及びその周辺地域において、利用者へ感染症の拡大を防止するため、最大限の対策を講ずる。

【数値指標】 延利用者予定数 19,000 人 出前児童館の予定回数 144 回
正職員 1 名 パート職 9 名 合計 10 名

高齢者公益事業部

新型コロナウイルス感染症対策では、施設の安心安全を守るため、感染拡大防止を最優先に取り組んでいる。2021年度は経営上の課題に対しても「守る」ことに重きを置き、事業の持続性を確保するために最も重要な「挑戦」に対して消極的になったと反省している。2022年度は、入居者、職員、関係者との対話を重視しながら、経営上の課題に「挑戦」を続けたい。

宝塚エデンの園の建替え工事は、2021年10月に全入居者にお知らせし、建物別の説明会を開催した。C棟を除く建物を建て替える大規模な工事は、着工が2025年度、完成が2030年度となる予定である。建替えに先立ち2022年度以降、宝塚では空室確保のため入居者募集活動を制限することになる。

各施設の持続性は、経営力の強化、言い換えれば直営施設の収支の健全化なくして確保できない。各直営施設の収支は長期間赤字となっている。このままでは数年後に事業部として赤字に陥る可能性が高い。2021年度は松山エデンの園の管理費改定を行った。2022年度以降は、順次その他の直営施設の管理費等の改定を実行したい。

人材の採用・育成・定着に関しては、看護職、介護職が「働きたい」と思える特徴がある施設となっているか、ICTを活用して各施設の強みを「見える化」したい。また職場長には対話を通じたコミュニケーションにより、入居者、職員の声を聴く力をさらに高めることを期待したい。

サービス提供で安全確保が最も重要であることは不変である。当たり前のことを基本に忠実に徹底して行い、失敗から学び、想像力を働かせて次に活かし、入居者、家族が施設に期待するサービスの質を向上させたい。新しい生活様式を踏まえつつ、人と人がふれあうサービスを取り戻し、健康寿命延伸・自立支援促進の取り組みを継続する。

聖隷DXを加速するため、見守りシステムの拡充を継続するほか、事業部の事務センター機能を強化してローカルルールの撤廃を通じた業務の標準化を推進し、ICTにより入居者にとってのサービス向上、職員にとっての働く環境の向上を図りたい。

2021年度の入居者募集はYouTube、WEBセミナー、全国紙や有名雑誌での広告展開により広範囲なブランディングと集客を行い、個別見学会を中心に展開した。しかし、コロナ禍による見学受入れの制限や検討者の来園自粛による影響が大きく、苦戦を強いられた。感染対策と見学受入れの調和を保ちながら、今後はより積極的に個別見学会を行うとともに、共同事業、受託事業との連携・協働をさらに強化し、募集活動に努めたい。2022年度末、宝塚エデンの園を除く直営施設の入居率93%以上を必達目標として、入居者募集活動を強化する。直営7施設の目標数値として、入居契約件数147件、入園金合計49億円、事業部全体の当期活動増減差額3.9億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と持続性の確保

3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 標準サービスの具現化
 - (ウ) 公益活動の実践

2. 経営の安定と持続性の確保
 - (ア) 直営施設の一般居室・介護居室の入居率向上
 - (イ) 直営施設の施設会計収支改善
 - (ウ) 防災対策の強化
 - (エ) 事務処理の効率化の推進

3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 地元人材の採用
 - (イ) 職場環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ

4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上
 - (エ) 介護・看護の質を向上させる新たな取組みの実践
 - (オ) 入居者満足度調査の継続及び改善案の実施

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2022 年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 一番館	藤沢 二番館	合計
件 数	33 件	12 件	17 件	35 件	18 件	17 件	11 件	4 件	147 件
入居率	93.0%	85.5%	85.6%	96.2%	95.1%	100%	99.0%	92.0%	92.6%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

新型コロナウイルスの影響を受け、2021年度は当初より園内の活動が大きく制限されていた。そのような状況下、6月から7月にかけて園内で入居者・職員共にコロナワクチン接種を実施し、少しではあるが感染リスク軽減の安堵感が園内に広がった。下半期に入って、全国的に新型コロナウイルス新規感染者数が減少したことで入居者のクラブ活動等が再開でき、僅かながら入居者の生活に「かつての日常」を取り戻しつつあることを感じた。2022年度も、新型コロナウイルスの動向が園運営に大きな影響を与えることになると思われるが、「ウイルスを園内に侵入させないこと」を最優先に考え、安全・安心な環境が整えられるよう努める。

サービス・支援体制においては、トレーニングルーム機器等をいっそう充実させ、自立入居者対象の「健康増進や健康維持」に重点を置く。また、介護予防のための適切な運動プログラムを提供し、コロナ禍での入居者の筋力低下予防に取り組む。そして、2021年度から強化を進めてきた「パーソン・センタード・ケア（PCC：その人らしさを尊重した介護・サービス）」の考え方のもと、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）」の更なる推進を図り、より質の高い「入居から終末期まで切れ目のないサービス」の提供を目指す。そのためには全課の連携を益々強化することが必要であり、情報共有を徹底し、組織のコミュニケーションを活性化できるよう励んでいく。

業務改善として、ETS2020（業務基幹システム）やインカム（無線）及び体温測定自動入力システム等が全職場で効果的な活用ができているのか評価をおこなう。ICTやAIを含め自動化をより推進することで、できる限り職員の業務負荷の軽減に努める。

公益事業としては、入居者と共に実施する地域の清掃活動の継続と、災害時の地域支援マニュアルの策定を進める。引き続き社会情勢に大きく左右されることになるが、地域の方々の行事参加や自治会会議等の共用部利用の再開についても検討していきたい。

浜名湖エデンの園は、2023年5月1日に開園50周年を迎える。入居者と職員が共に祝い、記録と記憶に残るまたとない年となるよう、2022年度から記念行事プロジェクトチームを立ち上げ、綿密に準備をおこなっていく。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の持続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) パーソン・センタード・ケア (PCC) に基づく、アドバンス・ケア・プランニング (ACP) の継続的な推進と評価
 - (イ) 入居から終末期までの情報を一元化し「その人らしい生活を支える」仕組みづくり
 - (ウ) 標準サービスの質の検証とサービスの「見える化」
 - (エ) 地域とつながる取組みの推進
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承
 - (イ) 自ら考え、行動できる人材の育成
 - (ウ) AI・ICTの活用による「働き方改革」のさらなる推進
 - (エ) 障がい者雇用の促進と定着への取組み
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) 入居率93%以上を維持するための入居者募集活動の推進
 - (イ) 課・係・個人のそれぞれのレベルでの役割分担と業務整理
 - (ウ) 「事業・運営計画」の全職員の理解と達成への参画
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) 新型コロナウイルス感染防止対策の継続的な取組み
 - (イ) コンプライアンス体制の強化
 - (ウ) 実践に即した緊急時対応訓練の実施 (防災・防犯・感染予防・行方不明者対策など)
 - (エ) 安全・防災・防犯体制の強化に向けた設備・機器の導入の検討
5. 入居者と共に取り組む「新しい浜名湖エデンの園」づくり
 - (ア) 開園50周年に向けた新プロジェクトの始動
 - (イ) 自立した入居者向けの健康維持の為のサービスの提案
 - (ウ) 入居者と共に考える「ウイズコロナ」
 - (エ) 入居者の協力を得て、地域に貢献できる活動の検討

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	351 戸/372 戸		48 戸/57 戸		399 戸/429 戸			
入居者数/定員	424 名/455 名		50 名/64 名		474 名/519 名			
入居率	94.4%		84.2%		93.0%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	28 名	16 名	44 名	20 名	11 名	11 名	7 名	137 名
職員数 (常勤換算)	134.5 名							
サービス活動収益	873,000 千円							

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2021年度は、コロナ禍の中でも徹底した感染対策を実行して、状況に応じた入居者サービスの維持に努めることができた。また、ICT（情報通信技術）である e-ラーニング（主にインターネットを利用した学習形態）や見守りシステム（使用するベッドや居室空間などにセンサーを設置し、スタッフに高齢者の情報を知らせるシステム）導入により、職員の専門性強化と業務負担の軽減につなげることができた。新たに取り入れた「宝塚エデン放送」（園内自主放送）は、タイムリーな各種情報の提供やコンサート、建替え計画説明会等の園内行事を居室でも一緒にご参加いただける環境を構築できた。

2022年度は、建替え計画を控えた入居者の不安や思い、願いを受け止め、積極的な情報提供及び、将来を見据えた計画の推進に取り組んでいく。また、入居者の今までの経験を共有する中で、入居者と職員が協同して生きがいの創造ができる場の提供を支援する。

建替え計画に伴う新規入居契約の制限下での募集継続や附属診療所の経営改善は最重要課題であるため、改善策の実践に取り組み、健全経営の推進に努める。

近年の人材不足は深刻であり、業務支援機器の導入による業務負担の軽減と安全な作業環境下での安定したサービス提供に努める。働き方改革と個々の専門性を強化することでディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する。

地域における公益的活動は、防災避難計画に基づいた共同訓練の実施により、近隣自治体との連携を強化し、健康講座の地域開放により生涯学習の機会を提供する。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたいより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
 - (ア) ニーズの把握と気づきに基づいたサービスの提供
 - (イ) 食事満足度調査の評価向上に向けた取り組み
 - (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるトータルケアの実践
 - (エ) 入居者との協同した生きがいの創造
 - (オ) 建替え計画に伴う入居者ニーズの把握

2. 職員満足度の向上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化と各課業務の再構築の取組み
- (ウ) 段階的な人材育成と個別の専門性の強化
- (エ) 働き方改革に伴う業務の効率化
- (オ) 最新機器の導入による業務負荷の軽減と安全な業務の実践

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 建替え計画をふまえた募集活動の継続
- (イ) 附属診療所部門の経営改善
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 入居者との経営状況の共有と食堂・診療所の利用率向上

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 行方不明・離園防止・不審者対応の訓練の徹底
- (イ) 災害や緊急時における事業継続計画の策定
- (ウ) 災害や感染拡大に対する対策強化と入居者の自主防衛の支援
- (エ) リスク、苦情への迅速な対応

5. SDGs としての活動を念頭においた、地域における公益的な取組み

- (ア) 防災・避難計画に基づいた地域住民との共同避難訓練の開催
- (イ) 各種健康診断の機会の提供
- (ウ) 障害者・高齢者の就労機会の創出
- (エ) WAC 事業における高齢者理解や認知症講演会の開催

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	309 戸／358 戸		40 戸／50 戸		349 戸／408 戸			
入居者数／定員	360 名／501 名		40 名／50 名		400 名／551 名			
入居率	86.3%		80.0%		85.5%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	22 名	9 名	35 名	17 名	21 名	8 名	5 名	
職員数(常勤換算)	131.1 名							
サービス活動収益	862,700 千円							

有料老人ホーム 松山エデンの園

2021年度は、感染防止対策を継続しながら縮小したものではあったが、園行事やクラブ活動を行うことができた。募集活動においては、終活セミナーや作家田丸雅智氏によるエデンオリジナルストーリー「思い出香」により、コロナ禍の中でもセミナーや見学対応などを積極的に行うことができた。

2022年度も新型コロナウイルス感染症に対する対応が続く運営となる事が予測される。そのような中でも標準サービスの具現化や楽しんでいただける行事を行い、入居者につながりある園生活を感じていただき、安心安全にご生活いただける入居者の幸福（しあわせ）づくりを支援できるよう取り組む。

入居募集は、感染予防対策を継続しながら小規模セミナーを計画的に行い、特に介護居室の直接入居については、園内での介護体制や看取り等の充実した生活を提供できる体制を知っていただけの積極的な募集活動に取り組む。

ケア部門においては、見守りシステムやETS2020（業務基幹システム）の活用から、業務の効率化や質の高い個別ケアを実践していく。食事部門においては、満足度調査から改善点を見出し、入居者により良い食事提供を行い、喫食率向上を目指す。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院とは、協力医療機関として医療体制や看取り等の連携を強化していく。

地域住民の方々には、地域合同防災訓練等を実施し、松山エデンの園と地域が協力・信頼できる関係づくりと地域貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】 『明るく楽しく共に輝いて生きる』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福（しあわせ）づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取り組み

【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
 - (ア) 新規契約戸数 17戸 18名
 - (イ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)
 - (ウ) 全職員の入居募集活動への協力と連携

- (エ) 介護サービスの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (オ) 省エネ活動の継続的な取組みと適切な設備更新

2. 人材の確保と育成

- (ア) 事業部管理者研修計画の実践
- (イ) 目標参画・各種ラダーを活かした職員評価と教育の実践
- (ウ) ETS2020（業務基幹システム）を活用したケア業務の効率化
- (エ) e-ラーニングの実践による専門性や接遇のレベルアップ
- (オ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上

3. よりよいサービスの提供

- (ア) ご入居者の幸せづくりを支援できるトータルサービスの提供
- (イ) 見守りシステムを活用した質の高い個別ケアの実践
- (ウ) 満足度調査の課題解決への取組み
- (エ) 食事満足度と喫食率の向上
- (オ) 医療法人聖愛会松山ベテル病院との医療体制の連携強化

4. 安心安全な施設環境づくり

- (ア) 防災対策の強化
- (イ) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応
- (ウ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (エ) 園内設備の計画的な改修

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域での災害を想定した防災体制の強化、環境保全活動への取組み
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	96 戸		29 戸		125 戸			
入居者数	110 名		29 名		139 名			
入居率	86.5 %		82.9 %		85.6 %			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17名	5名	13名	5名	9名	3名	8名	60名
職員数(常勤換算)	53.0名							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2021年度は長期化するコロナ禍で感染対策を徹底する日々が続いた。協力いただいた入居者と職員の奮闘に感謝申し上げます。行事では、ささやかではあるが開園35周年記念行事などを実施し、少しずつコロナ禍での行事ができるようになった。上半期の募集活動は大幅に制限されたが下半期で挽回し予算件数を達成することができた。また、予定していた大規模修繕は計画通り実施できた。

2022年度は、基本的な感染対策を最優先とするが、サービス水準を維持した施設会計改善を図るため、業務効率をさらに向上させた事業運営を目指す。経営方針では、「安心・安全を基盤としたサービス提供と質向上」「自ら考え課題解決できる職員の育成」「安定した施設運営・経営」に特に注力する。「サービス提供と質向上」については、ICT（情報通信技術）などの次世代技術や定着してきたETS2020（業務基幹システム）を効果的に活用し、業務効率を上げ職員各自の生産性を高める。食事部門においては、喫食率向上のため新メニューなどメニューアピールをさらに強化していく。「職員の育成」については、利用者目線のサービス提供ができる職員を育成し、やりたいことを積極的に発信できる職場風土を醸成する。また、継続してEPA（経済連携協定）による海外の介護研修生を育成していく。「安定した施設運営・経営」については、施設会計改善のため、入居率をさらに向上させ、医師体制・夜勤体制など附属診療所の効率的な体制整備をする。施設整備では、入居者の利便性向上や入居募集に訴求効果のある大規模な計画修繕を進めていく。コロナ禍による入居者・職員の間関係やコミュニケーションの希薄さを回復させ、入居者・職員の安心、安全を重視した上で一步踏み込んだ園運営をしていく。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と こちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. SDGs（持続可能な開発目標）を意識した環境・省エネへの取組み強化と地域連携
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 入居から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) 基本感染対策徹底による拡大防止
 - (ウ) ETS2020（業務基幹システム）活用による業務効率の向上
 - (エ) コロナ禍でできる行事の実践
 - (オ) 食事メニューアピールの強化と「楽しくて美味しい食事」の提供

- (カ) 接遇向上のための知識と技術の習得
- (キ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成

- (ア) やりがいとやりたいことのある職場風土の醸成
- (イ) 部署間連携と職員間コミュニケーションの強化
- (ウ) 地元人材の活用と適正配置による業務効率の向上
- (エ) 職員個々の質向上のためのスキルアップ

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 施設会計改善と、入居率 95%（期末）以上確保
- (イ) 園内設備の計画的改修と実施
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 健康寿命延伸・自立支援促進のための新たな仕組みづくり
- (オ) 入院ベッドの適正利用と診療所体制の整備

4. SDGs を意識した環境・省エネへの取組み強化と地域連携

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
- (エ) 多様な人材（高齢者・障がい者等）の就労機会を増やすための取組み

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 自然災害の BCP 整備と防犯訓練の質向上
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の維持

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	367 戸／379 戸	41 戸／45 戸	408 戸／424 戸
入居者数／定員	454 名／500 名	41 名／50 名	495 名／550 名
入居率	96.8%	91.1%	96.2%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17 名	24 名	33 名	21 名	18 名	17 名	15 名	145 名

職員数(常勤換算)	139.5 名
サービス活動収益	1,013,410 千円

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2021年度は、感染症予防対策を講じ「新しい生活様式」を取り入れた活動を実施してきた。しかし、近隣での感染拡大や変異種の流行等により、制限のある生活の継続をお願いせざるを得ない状況が続いた。

2022年度は原点に戻り、施設理念である「ご入居者を真ん中に置いた生活の創造」のもと、入居者が安心して生活できる施設づくりに努めていく。満足度調査結果を踏まえた改善の取組みを各課で実施し、満足度を高めるサービスの提供を目指す。各課の相談窓口としての機能向上の取組みについても、職員一人ひとりが入居者に寄り添った対応を実践し安心感が高められるよう取組みを継続する。ICT化・介護ロボット導入の促進や業務改革にも注力し、サービスの質の向上を図る。また、感染症予防対策により活動の減少が続いていたことを踏まえ、介護予防活動の再開や楽しめるイベントの企画などを積極的に行っていく。災害等のリスク対策については、備蓄や設備の見直しや更新、訓練の継続によりいざという時に迅速に対応できる防犯防災体制の強化を図る。感染症対策についても継続し取り組んでいく。人材育成については、職員教育や接遇力向上を図り、働きがいのある職場風土を醸成し、特に採用困難な看護介護職員の離職防止につなげていく。

経営面では、安定した収益確保のため、経費節減に努めるとともに、感染予防対策として縮小していた募集活動を徐々に拡大し、入居率95%達成を目指す。また、地域に根差した施設となることを目標に、近隣施設や学校等との交流を深める取組みを強化していく。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) 安心した生活を支えるサービスの質向上への取組み
 - (イ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取組み
 - (ウ) 変化に対応した入居者参画型イベントの実施
 - (エ) 入居者の満足度を高める食事サービスの提供
 - (オ) 寄り添える相談窓口を目指した取組み
 - (カ) 入居者の意思決定を中心にした看取り介護の実践

(キ) ICT化・介護ロボット導入の促進

2. 働きがいのある職場風土の醸成

- (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
- (イ) 各課の役割を明確にし、協力し合う職場作り
- (ウ) 人材育成の取組みにより組織の質の向上を図る
- (エ) 職員面談の継続による離職防止の取組み

3. 安心・安全な施設づくり

- (ア) 感染症対策と事業継続計画の整備
- (イ) 災害対策の推進
- (ウ) リスク対策の強化と発生時の迅速な対応
- (エ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施

4. 安定した施設経営の実現

- (ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の達成
- (イ) 安定した収益の確保
- (ウ) 経費節減の取組み

5. 地域における公益的取組み

- (ア) 地域開放型イベントの継続
- (イ) 地域との交流を深める取組みの実施
- (ウ) SDGs（持続可能な開発目標）を意識した取組みの実施

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	188 戸	25 戸	213 戸
入居者数	224 名	25 名	249 名
入居率	96.4%	86.2%	95.1%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	14 名	13 名	14 名	7 名	9 名	9 名	3 名	69 名

職員数(常勤換算)	67.6 名
-----------	--------

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2021年度は安心・安全・良質なサービス提供を目指し、見守りシステムによる科学的、客観的な視点で介護実践を展開することができた。2022年度はエンド・オブ・ライフケアや認知症ケアの充実を図るために、全居室に見守りシステムを導入するなど環境面の整備と、これを活かせる人材の育成を推進する。

横浜エデンの園は、聖隷横浜病院が隣接する介護付き有料老人ホームとして、入居者や入居検討者より医療面に対するニーズは高い。聖隷横浜病院と連携を図り、入居者が最期までその人らしく、穏やかに暮らせるよう医療と質の高い介護の両輪で支えていきたい。

募集活動においては、WEBによる施設見学会やインターネット媒体を活用した横浜エデンの園のケア実践を広く周知するとともに、空室を活用した新たな事業を導入し、入居率の向上につなげる。

地域における公益的な取組として、介護・看護・リハビリテーションに関する専門職の知識や技術を地域に提供できるよう地域住民向けの講座を開催し、地域住民との関係構築を図り選ばれる施設を目指す。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出会えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成、定着の強化
3. 経営基盤の安定と持続性の確保
4. 地域における公益的な取組み
5. 環境・省エネ活動への取組みの強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供
 - (ア) 見守りシステムを活用した科学的介護の実践
 - (イ) 認知症チームケアの定着と、認知症専門研修受講者の増員による、認知症ケア体制の強化
 - (ウ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持
 - (エ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催とPDCA：感染・苦情相談を含む）
 - (オ) 入居者満足度調査、「第三者評価」の受審結果に基づきサービス提供の改善を図る
 - (カ) 入居者が生き生きと暮らせる活躍の場や機会を創設する

2. 人財の育成、定着の強化

- (ア) 教育体系の構築と目標参画システム・各職種ラダーを活用した人材育成
- (イ) 役職者のマネジメント能力の向上
- (ウ) 他施設との交換研修を実施し、専門職としての知識・技術向上につなげる
- (エ) 「働き方改革」の維持推進
- (オ) 職員のキャリアアップ支援と研修受講環境の整備

3. 経営基盤の安定と持続性の確保

- (ア) 平均入居率 95%の維持（平均要介護度 2.5 以上）
- (イ) 入居者募集活動の強化(定期的な近隣医療機関、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所のケアマネジャーとのネットワーク作り、職員による実践報告)
- (ウ) 空室を活用した新たな事業の導入
- (エ) 各職場の役職者が目標稼働率や経営状況を把握し、コスト意識の向上を図る
- (オ) 感染症・自然災害に関する BCP を整備する

4. 地域における公益的な取組み

- (ア) 地域防災連携の構築（近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置）
- (イ) 地域貢献への活動の継続（市や区主催のイベントへの協賛、ふれあい食堂の開設）
- (ウ) 社会福祉協議会と協同し地域住民向けの講座を実施（健康講座、介護講座、小中学生向けの福祉体験）

5. 環境・省エネ活動への取組みの強化

- (ア) 入居者と協働したエコ活動
- (イ) 省エネ・エコ活動の継続（計画的な LED 化）

【数値指標】

2022 年度期末

	2021 年 3 月末	2022 年 4 月 ～2023 年 3 月	計（退去 10 戸除く）
契約戸数	45 戸	17 戸	50 戸
入居率	90%	98%	100%

※退去戸数を 10 戸で計上

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	0 名	4 名	10 名	13 名	11 名	6 名	6 名	

職員数(常勤換算)	50.0 名
サービス活動収益	269,380 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2021年度聖隷藤沢ウェルフェアタウンは10周年を迎えることができた。2022年度は、これまで行ってきたサービスの振り返りと共に、開設10年が経過したことによる環境の変化や感染症対策などの新たな課題に対して、次の10年を見据えて事業を継続するための取組みを積極的に行っていく。

これまで行ってきたサービスについて、サービスの質の維持・向上を図ると共に、提供されるサービスが利用者の意向や期待に添っているものか、サービスが利用者にとって満足の行くものであるのかということを検証し、必要に応じてサービスの追加・更新を行っていく。

開設10年が経過したことにより、聖隷藤沢ウェルフェアタウンでは利用者の健康状態や周辺施設環境の変化が進んでいる。藤沢エデンの園一番館では、生活支援サービスや二番館の一時介護室利用をする入居者が増加しており、今後は、在宅事業所や二番館とより緊密な連携を取り、そうした環境の変化に対応できる体制づくりを目指す。藤沢愛光園では、近隣施設の短期入所の定員減少など施設環境の変化が続いているが、地域から何を求められているのかということを見定めた上で受け入れ体制を作っていく。通所・在宅事業所では、地域感染状況の影響を最小限に抑える工夫をしながら、利用者一人ひとりの状態に合わせたサービスの提供を行っていく。

職員教育においては、コロナ禍で集合研修が難しい状況ではあるが、オンライン研修やeラーニングを活用すると共に、事業団人材育成の基本となるOJTを活用し日々の業務の中でお互いにコミュニケーションを取りながら人材育成を図っていく。

また、ICT事業についても、介護システムや介護支援機器、介護ロボットの導入や実用試験への参加を積極的に行い、利用者サービスの向上と職員の働き方改革を推進する。

その他、近隣医療機関はもとより、藤沢市、藤沢市社会福祉協議会、地域包括支援センター、近隣NPO法人との連携を推進し、ウェルフェアタウンからの情報発信や協働する機会を増やすと共に、フードバンクなど公益的な取組みを行っていく。

2022年度も、利用者が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じられるよう、運営を行っていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安心・安全の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組みへの注力（地域・社会とのつながりの推進）

【年度事業目標・年度重点施策】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 利用者満足度をあげるサービスの提供
2. 状況の変化に応じた事業所運営
3. 接遇をはじめとする人材育成の実践
4. ウェルフェアタウン内外における連携強化
5. 地域社会における公益的な取り組み

【藤沢エデンの園 一番館】

感染対策など環境の変化に対する課題に取り組むと共に、頻発している地震などの災害に対してマニュアル整備を行い、入居者により安心いただける施設運営を目指す。

1. 利用者満足度をあげるサービスの提供
2. 状況の変化に応じた施設運営
3. 災害対策の強化
4. 接遇をはじめとする人材育成の実践

【数値目標】

2022 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	207 戸／209 戸	—	207 戸／209 戸
入居者数	259 名	—	259 名
入居率	99.0%	—	99.0%

職員数(常勤換算)	52.2 名
サービス活動収益	400,230 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

「安心で安全なサービス」を提供するためサービスの質の向上を目指していく。一番館ご入居者に二番館への理解を深めてもらい、住替をスムーズに行い入居率を維持し経営を安定させる。

1. 安心で安全なサービスの提供
2. 職員の育成強化と職場環境の改善

【数値目標】

2022 年度期末

	2022 年 3 月末	2022 年 4 月 ～2023 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	39 戸／50 戸	43.6 戸／50 戸	46 戸／50 戸
入居率	78.0%	87.2%	92.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	0 名	1 名	2 名	8 名	16 名	10 名	9 名	46 名

職員数(常勤換算)	38.4 名
サービス活動収益	198,230 千円

【藤沢愛光園】

2022年度は入居者に安心・安全・安楽な介護を提供できるよう最新の福祉機器や介護ロボット、ICT技術の活用・導入を積極的に推進し、職員の業務負担軽減と共にその整備を進める。

また継続して感染症対策に取り組みながら、ご入居者の生活の質を高められるようなレクリエーション活動などを行っていく。その他、自然災害等に臨機応変に対応できる体制作りについても近隣の施設、事業所と連携を図りながら取り組んでいく。

次の時代を見据えて、地域においてニーズの高い、医療依存度の高い方や障害者の受け入れができる体制づくりを行政・関係事業者と連携して行っていく。

1. 安心・安全・安楽な暮らしの提供
2. 地域のニーズを取り入れた受け入れ体制づくり
3. 経営の安定化
4. 感染状況に応じた速やかな対応

【数値目標】

	特養入所	短期入所
利用者定員	100床	20床
利用者延べ人数	35,770人	6,680人
営業日数	365日	365日
一日平均利用者数	98.0人	18.3人
稼働率	98.0%	91.5%
単価（1人1日あたり）	15,011円	14,773円
サービス活動収益	537,790千円	98,670千円
職員数（常勤換算）	66.3人	14.8人
職員数（常勤換算）	81.1人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

職員全員が神経難病等の利用者の様々な疾患の知識を深めていき、個々人の生活環境や、疾患に応じた効果的な個別機能訓練メニューを作成し、利用者自身が主体的に機能維持・向上に取り組める仕組みづくりを行っていく。又、個別機能訓練を行うことにより利用者・家族が効果を実感できるようなアプローチを行っていくことで機能訓練型デイサービスとして地域から選ばれる事業所を目指す。

【数値目標】

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	21.5件	552.4件	6629.1件	11.2件	134件	11,750円	39,300円	88,670 千円
半日	2.5件	63.2件	758.2件	—	—	7,250円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

利用者と家族の強みを活かし、自分らしく安心して生活できるように質の高いケアマネジメントを実践する。人材育成を継続し、新規利用者の獲得に努め、経営を安定させる。

【数値目標】

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,525 件	442 件	17,200 円	6,794 円	132 件	4,000 円	29,760 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

利用者が安心して自分らしく自宅での生活が継続できるよう、新しいサービスの構築を図っていく。また、認知症に対しての専門性を高め、職員一人ひとりが認知症に対しての理解を深める。質の高いサービスが提供できるよう人材の育成、確保に努めながら、新規利用者を獲得し経営の安定を図る。

【数値目標】

介護給付		総合事業		障害	
月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数	月平均訪問件数	年間訪問件数
487 件	5,841 件	174 件	2,088 件	238 件	2,856 件

単価			サービス活動収益
介護給付 (回)	総合事業 (月)	障害 (回)	
4,300 円	19,300 円	4,700 円	48,180 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者・家族ができるだけ持てる力を発揮し、在宅で生活して良かったと思えるようなケアを提供する。そのために、職員一人ひとりが自信をもってケアを提供できるように e-ラーニングや事業所内外での研修等で人材育成を図る。昨年度から行っているリハビリテーションスタッフによる訪問もさらに充実していく。また、事業所全体の質の向上のため第三者評価を受講し、連携を図りながら地域に選ばれる事業所を目指す。

【数値目標】

月平均利用者数	月平均訪問数	年間訪問件数	単価 (円)	サービス活動収益
116.0 名	679.0 件	8,141 件	10,272 円	83,530 千円

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2021年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策が必要な年になったが、入居者・利用者・家族の理解・協力のもと、入居者サービスを維持することができた。その中で、園全体で「コロナだけできること」「コロナだからできること」のスローガンを掲げ、介護予防や行事など感染対策を取りながら少しずつ再開することができた。有料老人ホームの一般居室は引き続き高い入居率を維持することができた。ニッセイ聖隷クリニックでは入居者・利用者・職員などは勿論、河合町住民にもコロナワクチン接種を実施することができた。奈良ベテルホーム・在宅部門は、コロナ禍ではあったが収益面もしっかり確保しながら運営を行えた。地域連携では入居者の皆様の協力もあり、地域児童の通学見守りは継続することができた。

2022年度は、新型コロナウイルス感染状況も見えない部分はあるが、今後も換気や三密を意識し新しい生活様式を実践しながら園の運営を行っていく。また、このパンデミックを教訓に、改めて災害対策など緊急事態に備えることの重要性を認識し、常に職員が災害対策意識、危機感を持って行動できるようにしていきたい。近隣の高塚台自治会との防災協定を2021年に締結し、引き続き河合町・近隣自治会等との協力体制を継続し、しっかりとした仕組み作りができればと考えている。奈良ニッセイエデンの園の理念である「健康・生きがい・安心」のある生活を感じて頂けるよう健幸生活推進（造語）、園内地域包括ケアシステムも継続し、足りない部分や弱い部分を強化、見直しをかけていきたい。特に命と尊厳を守ることは、認知症ケアやACP（＝人生会議）が重要で、しっかりと学び正しく理解した上で取り組んでいく必要がある。SDGsについても「何かできることはないか」各職場で考えていきたい。また、ニッセイ聖隷クリニックでは2022年4月より皮膚科を新規開設する予定で、入居者・利用者・近隣の一般住民等の受け入れを行い、特に皮膚トラブルが多い高齢者サービスに繋げていく。奈良ベテルホーム・在宅部門は引き続き河合町や近隣事業所との連携強化、地域支援への取組みに努め、収益面でも実績を継続して確保していく必要がある。2022年4月7日に、奈良ニッセイエデンの園の開園30周年を迎える。WAC 第一号施設として継続してきた事業が後世に残るしっかりとした基礎を作る年としていきたい。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) その人らしさを最期まで支えるケアの推進
 - (ウ) エデン版・地域包括ケアシステムの充実
 - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
 - (オ) 開園30周年記念の取組み

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者・患者ニーズの把握と確保
- (イ) 各部門（有料・クリニック・ホテル・在宅）施設会計収支の安定化
- (ウ) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
- (エ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
- (オ) SDGs の活動を念頭に置いた取組み

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 採用力強化と定着への取組み
- (イ) 働き方改革への取組みの継続
- (ウ) 社会的責任を満たすための多様性に対応した就労環境の提供と雇用の確保
- (エ) 各種ツールを活用した職員教育の実践
- (オ) 気づきと行動力のある職員の育成
- (カ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
- (キ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染症予防対策の徹底と集団感染の防止
- (イ) 接遇マナー改善の取組みによる職員意識の向上
- (ウ) 身体拘束、虐待防止への取組みの継続
- (エ) Pm-SHELL 活用によるリスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (オ) 満足度調査実施結果に基づき改善計画の実践

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) ウェルエイジングコミュニティ（WAC）施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

◆ 有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2021年12月1日現在において、入居契約件数408戸（一般居室359戸、介護居室49戸）入居率は99.0%（一般居室99.2%、介護居室98.0%）、入居者の平均年齢は全体で82.7歳である。

2022年度は、新型コロナウイルスへの感染予防対策を標準とした運営・体制を構築する。

ケア部門では“その人らしさを支える土台”として、マイメモリーシートの多職場間活用をさらに推進し、2021年度に開始した人生会議を介護保険の有無に関わらず実施できるよう、説明会などで入居者への理解を深めていく。

深刻化を極める採用困難に対応するため、ICT化、障がい者・外国人雇用など“多様な働き方”に対応する環境整備とともに、採用力と定着率の向上への取組みを推進する。また、抜本的な業務や組織再編も視野にいれ“変化に強い組織づくり”への取組みと、サービスの質、量を担保できる効率的かつ持続可能な運営を模索・実践していく。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

- (ア) 人生会議に対する理解を深め、その人らしさを支えるケアを推進する
- (イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの浸透
- (ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり
- (エ) “エデン食堂”として身近に感じていただくための企画・運営と満足度向上
- (オ) 開園 30 周年記念の取組み

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 安心・安全なサービスを提供するための適切な住み替え
- (イ) 入居募集活動への協力と連携
- (ウ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
- (エ) “住んでみたい”と思える空間作りのための修繕・設備整備
- (オ) SDGs を念頭においた取組み

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 多様な働き方に対応した採用・定着向上への取組み
- (イ) 働き方改革への取組みの継続
- (ウ) 障がい者・外国人雇用に向けた各職場間の連携
- (エ) 各種ツールを活用し自ら考え行動できる職員の育成
- (オ) 交換研修等の参加・資格取得の支援と職場還元による職場の活性化
- (カ) 活気とやりがいを感じる職場環境整備と風土づくり

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (イ) 接遇マナー改善の取組みによる接遇向上
- (ウ) 身体拘束、虐待防止への取組み
- (エ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止
- (オ) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) ウェルエイジングコミュニティ（WAC）施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制の強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室					計	
契約戸数	359 戸		49 戸					408 戸	
入居者数	472 名		50 名					522 名	
入居率	99.2%		98.0%					99.0%	
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	
	18.0 名	26.0 名	29.0 名	29.0 名	18.0 名	13.0 名	8.0 名	141.0 名	
職員数(常勤換算)	103.9 名					※有料老人ホーム部分			

◆ 高齢者総合福祉センター

2021年度は、河合町立文化会館まほろばホールを使用し、入居者と一般受講生の二部構成で、安全対策を講じた上で一部の文化教養講座を再開した。新たな試みとしてエデン芸術祭期間に合わせて「入江泰吉写真展」を開催しアンケート調査を実施、概ね好評であった。

2022年度は、事業企画数・内容の見直しを図り、感染予防を最優先に考え安全対策を十分に行った上で講座・イベントを開催する。また、新規講師の招聘に向けて調査・研究を引き続き行い、新規企画の立案を行う。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2021年度は、新型コロナワクチンのサテライト型（連携型）として、地区医師会と河合町と接種の調整を行った。ご入居者・職員・地域住民を受け入れ大幅な増収につながった。

2022年度は、高齢者に多い皮膚トラブルに対応するため、新規診療科として皮膚科を4月より開設する。また、近隣住民が高齢化していることから、送迎付きの短時間通所リハビリを開始し、患者数増を目指す。引き続き新型コロナワクチン3回目の受入を行い、収益増につなげたい。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2021年度は、4月～8月にかけて新型コロナ感染症拡大の影響により近隣病院からの新規相談が殆ど無い状況であったが、居宅介護支援事業所からの相談が増加したことにより入所稼働率が向上した。しかし、9月頃より居宅からの相談が無く、近隣病院からの相談も無い事から入所稼働がかなり低下した。通所リハビリテーションに関しては、新型コロナ感染症蔓延時には利用者が減少したが、感染が落ち着くに連れ利用再開や新規利用者の増加もあり稼働維持出来ている。

2022年度は、新型コロナ感染症と向き合いながら何が出来るのかを職場全体で考え取組みを行う。今後も入所、通所リハビリテーションの新規獲得が難しいと予想されるため、新規利用者獲得に向け、近隣のみではなく北葛7町に渉外活動を広げて利用者取得を目指し、「強化型老健」維持と短期利用者のスムーズな受け入れを行い収益確保により経営安定を目指す。

◆ ニッセイせいれい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながらも介護保険収益・福祉用具貸与収益は前年比・予算比ともにプラスとなり、予算達成することができた。これまで要支援の週1～2回の利用者が要介護となり、訪問回数が増えたことが要因と考えられる。

2022年度は、引き続き感染症対策を行い、ヘルパーの高齢化からケアの減少が進んでいるため、人材確保と離職防止のために画期的な対策を考え早急に取り組む。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の感染対策を強化しながら拡大防止に努めた。事業所、医療機関等との連携強化、利用者に寄り添う訪問看護を心がけ、事業の安定運営に取り組んだ。

2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑み、感染対策を継続強化しながら柔軟な対応を心がけ、地域で選ばれる訪問看護を目指し、安定経営の維持に取り組む。

◆ ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下でもタブレットを活用し、地域ケア会議や研修等への参加を通じて、医療・介護・地域と連携を図り予算達成できた。

2022年度は、ICTの活用の継続と、河合町と連携し、地域防災強化に向けた取組みを在宅サービス室全体で行う。また、利用者への満足度調査や、第三者評価を行い選ばれる居宅介護支援事業所運営を目指す。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

2021年度は、2020年度に引き続き新型コロナウイルスの感染蔓延という状況下で、園の運営は感染拡大防止・感染予防を念頭に置いた運営を強いられる事となった。2回のワクチン接種は入居者の協力、職員の事前準備が功を奏し、施設内で安全かつスムーズに実施する事ができた。感染に対する入居者の意識も浸透し、園による感染対策への理解も進んだ。2022年度についても当面は状況の大きな変化はないかもしれないが、入居者への感染拡大防止・感染予防に留意しつつ徐々に行動制限の緩和を実施していく。また、不便ながらも楽しい生活を送っていただくために、安全な余暇活動や行事の推進も図っていく。

経営面においては、2022年7月には新4号館の竣工を控え、増設される6戸を有効活用し収益確保に繋げていかなければならない。また、給食料収益については直営となった2017年度以降、最低の喫食率にまで低下してしまっただけでなく、2021年度途中から取り組んでいる新メニューの導入やイベント食を充実させ喫食率の回復に努めていく。募集活動においては新型コロナウイルスの感染状況により制限が発生する事も予想されるが、職員一人ひとりが募集に対する意識を強く持ち、入居率実質100%を維持しつつ事業の安定化に努めたい。職員の働き方に関しても、他部署との連携を強化して質を落とすことなく業務の効率化を図り、各個人の仕事に対する意識変化と行動変容をさらに求めていきたい。具体的には超過勤務の2021年度比5%削減、有給休暇の取得推進、さらには人員配置の適正化まで実現させたい。またサービスの質の向上については、介護居室に見守りシステムの導入も予定しており、これによって入居者の行動をアセスメントし、適切なケアによるサービスの向上に役立てるとともに、夜間の巡視削減による職員の業務効率化を図っていく。以上のことを視野に入れながら、次の重点目標を掲げ、2022年度の施設運営に臨んでいく。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”とと思っていただけるような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
 - (ア) 入居検討時から最期までその人らしいライフスタイルを尊重したシームレスなサービス体制の提供
 - (イ) 新しい生活様式を意識した、入居者参画型の企画・行事の推進

- (ウ) 関わりの少ないご入居者へのアプローチ（セカンド含む）
- (エ) 見守りシステム導入後の効果検証
- (オ) EQC改訂作業を実施し、職員への周知と業務の統一化を図る

2. 人材育成と連携

- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
- (イ) 不適切なケアの防止と、接遇の質の向上と実践
- (ウ) 他課との交換研修を実施し、お互いの課を認め合う風土の醸成を図る
- (エ) e-ラーニングを活用した教育体制のさらなる質の向上

3. 経営基盤の安定

- (ア) 全職員による新入居者募集への参画（園に関する知識の向上）
- (イ) 職員の定着と適正な人員配置の実践
- (ウ) 選ばれる食堂に向けた新たなサービスの創造（2021年度比喫食率3食平均2%の向上、材料比率46%の維持）
- (エ) 雇用制度多様化への対応と有効活
- (オ) 働き方改革の更なる推進と超勤削減対前年5%
- (カ) 介護居室増築による適正なタイミングでの住替え推進と施設会計の安定化

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 新型コロナウイルスをはじめとした感染予防・感染拡大防止策の実践と徹底
- (イ) 事故や災害から入居者・職員の命を守るための取組み強化
- (ウ) 行方不明、離園防止の訓練と防犯の強化
- (エ) I/Aシステムの活用による事故の再発防止
- (オ) コンプライアンス遵守の徹底
- (カ) BCP（事業継続計画）の立案・策定

5. 社会・地域への貢献と連携

- (ア) 地域におけるウェルエイジングコミュニティ(WAC)施設としての存在意義の発揮
- (イ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的取組み）
- (ウ) SDGsを意識した社会的責任への取組みの実践

【数値指標】

2022年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	307戸/315戸	42戸/43戸	349戸/358戸
入居者数	390名/416名	45名/46名	435名/462名
入居率	97.5%	97.7%	97.5%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	28名	20名	26名	25名	12名	13名	6名	130名

職員数(常勤換算)	120.08名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

2021年度は、新型コロナウイルス感染蔓延に伴い、感染予防・拡大防止の中心的役割を担う1年となった。2022年には3回目の接種も予定されているため、これまでの経験を活かしスムーズに実施していく。新型コロナウイルスをはじめとする感染予防・拡大防止の中心的役割を担いつつ、診療機能を落とさず患者が望む医療を提供していく事が必要である。そのためには、チーム医療だけでなく、個人のスキルアップが求められる。昨今、WEB研修が中心となっている為、設備・環境を整え職員の能力を引き上げていく機会を多く設ける事が重要となる。また、外部医療機関との連携は感染対策に配慮しながらも継続し充実させなければならない。経営面においては、2022年度の診療報酬改定に適切に対応し、取得できる施設基準は速やかに申請し体制整備が必要なものは早期に準備を進めていく。患者、入居者に合わせた医療サービスを提供し安心してクリニックを利用してもらうためにも、安全・感染管理とコンプライアンスに配慮した運営を行なうが求められる。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実
 - (ア) 各課と連携した退院支援・退院調整の実践
 - (イ) 看取り看護の質向上
 - (ウ) 定期健診結果からの受診勧奨推進
 - (エ) コロナ禍における認知機能低下への対応
 - (オ) 高齢者に対する権利擁護の意識向上
2. 人材育成と連携
 - (ア) 専門職としての知識・技術向上の推進
 - (イ) WEB研修受講のための環境整備を行ない看護・介護 e-ラーニング学習の推進
 - (ウ) 中途採用者のフォロー体制の向上と離職防止に向けた職場風土の醸成
 - (エ) キャリアラダーを活用した人材育成の推進
3. 経営基盤の安定
 - (ア) 病床稼働率 90%の維持
 - (イ) 診療報酬改定への対応と新たな加算取得へ向けた体制整備
 - (ウ) 働き方改革の更なる推進と超勤削減対前年 5%
 - (エ) 算定漏れのない請求業務の実践
4. リスク管理体制の強化
 - (ア) I/A および警鐘事例に対する再発防止策の遵守と予防策の再検討
 - (イ) 新型コロナウイルスをはじめとした感染予防・感染拡大防止策の徹底
 - (ウ) 高齢者及び認知症患者への安全確保の推進
 - (エ) クリニックにおける BCP（事業継続計画）の確立

2022年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	5,000円	242日
入院部門	17.0名	12,000円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	750名	600名
職員検診	148名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で入居者及び近隣の方が参加できる季節のイベントや各種教室、大ホール・エントランスロビーでのコンサートは従来通りの開催には至らなかったが、2022年度は、以前のように各種教室を地域の方と入居者が一緒に利用したり、コンサートはソーシャルディスタンスを保った形式での有観客コンサートを増やしたりするなど「新しい生活様式」を意識した取組みを実施し、『生きがい』の創出に少しでも貢献していきたい。

1. 専門職によるエデンの園のノウハウ還元のための取組み
2. 入居者募集につながる魅力ある企画の立案
3. イベント・教室の開催をとおして、地域との交流推進を図る

◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2021年度は、引き続き新型コロナウイルスの感染防止とともに利用者の生活を支えた一年であった。しかしながら、感染防止グッズの配布をはじめ全職員のワクチン接種、頻回なPCR検査などにより2020年度より感染対策を行なった上で支援ができたと考える。2022年度は介護保険改定で義務付けられた「感染症対策の強化」「BCP 業務継続に向けた取組みの強化」「認知症への対応力向上に向けた取組みの推進」（3年の経過措置期間あり）について園と連携しながら対策に取り組むと同時に、職員の専門研修への参加により実際に対応可能な体制を整える。また、新4号館増築に伴う新事務所オープンのための準備にも取り掛かっていく。

2022年度も入院・入所・逝去などによる利用者の急な契約終了に耐えうるよう、常日頃から関係機関と連携し新規受け入れ態勢を整え、安定した経営の継続を図る。

【事業計画】

1. 事務所移転による事業所のハード・ソフト面の体制整備
2. 地域のニーズに応えるため、訪問介護員のさらなるスキルアップ
3. 他課との連携による入居者へのサービス継続
4. コロナ禍においても利用者職員がともに安心できる訪問介護事業の実践

2022年度数値指標

【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	24.0名	4,900円
予防給付（月利用者数）	17.0名	18,500円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	12.0名	8,500円

営業日数=311日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

令和3年度高齢社会白書による高齢化率は28.8%と、2040年(推定)に向かって高齢化が今後も進んでいくと記されている。一方で厚生労働省は介護職員の不足数が2年後には22万人(東京都においては2023年度に24,843人)と予測している。就労人口が減少するなかで到来する“人生100年時代”に対応するために、これまでよりもさらに健康寿命の延伸を図ると同時に介護の質の維持・向上のための、職員の確保・職場環境の整備や介護のICT化が求められていくことになる。

また、新型コロナウイルス感染症流行の長期化に伴って、高齢者の自粛生活による生活の不活化が起これ、これを要因としてフレイルが進むという、いわゆる「コロナフレイル」と言われる健康二次被害の報告もある。当施設においても同様に、感染対策として施設内行事やアクティブ活動、健康増進施設使用の中止や縮小が長期化したことによる影響は表れている。

2022年度は、フレイル予防の基本形として「栄養(食と口腔機能)、身体活動(運動や非運動性活動等)、社会参加(人とのつながりが特に重要)」の三位一体として、健康寿命を延ばす取組みを継続し、「笑顔」溢れる活気ある施設づくりを目指す。同時に認知症施策の推進については、認知症予防活動から、各段階別の進行防止活動を実践する。

また、経営の安定化を図るうえでは、入居率の向上が必須である。近郊では分譲型の有料老人ホームの建設もあり多様化が進んでいる。変遷する社会情勢に応じた柔軟な募集企画による新規入居者の獲得に繋げたい。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 誰もがいきいき暮らせるためのプログラムづくり
 - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取組みの継続
 - (ウ) 介護未認定者やサービスにつながりにくいケースに対する支援の実践
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) サービス充実のための新しい福祉用具・ICT機器導入の検討

2. 人材の育成

- (ア) 次世代の育成・専門性の向上
- (イ) 接遇向上への取組み
- (ウ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 明日見らいふ南大沢の特徴を活かした地域との交流への取組み
- (ウ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動への取組み

- (ア) 入居者と共同・協働による環境活動の実施
- (イ) 省エネへの取組みの継続
- (ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

- (ア) コロナ禍に対応できる新たな募集活動
- (イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

【数値指標】

2022 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	255 戸/317 戸		30 戸/53 戸		285 戸/370 戸			
入居者数/定員	291 名/429 名		30 名/53 名		321 名/482 名			
入居率	80.4%		56.6%		77.0%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	19.2 名	15.0 名	27.2 名	11.0 名	14.0 名	13.0 名	7.7 名	107.1 名
職員数（常勤換算）	104.4 名							
サービス活動収益 ※	114,800 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ

法人本部

健康推進室の設置、Web 会議、電子申請、経費精算システムの普及拡大、投資管理委員会の設置など中期事業計画を推進する基盤整備に努めてきた。情報システム面では情報ネットワーク整備やサイバーセキュリティ対策の強化を図り、円滑かつ安全な情報管理を目指す。人材面では多様な人材の活躍と働きやすい環境づくりのため、健康経営の推進、両立支援の強化や管理職評価の充実を図る。運用面では労務業務の集約化を目指した準備や内部監査の精度向上に努める。さらに聖隷の 2030 年の姿を見据えた聖隷みらい創造プロジェクトの議論を開始する。

1. 社会福祉法人として最高の質・使命の追求と地域共生社会を実現する
2. 聖隷 DX（デジタルトランスフォーメーション）をさらに推進する
3. 大規模広域法人としての強みを活かした機能を発揮する
4. 人材の確保と育成を推進する
5. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）を推進する
6. 現有資源を有効に活用し経営環境の急変にも揺るがない財務体質とする

各部署は、次の年度事業目標（重点施策）を策定する。

[総務部]

1. 地域における公益的な取組等を適切かつ積極的に情報開示する
2. 電子申請のさらなる活用によりペーパーレス化・業務効率化を推進する
3. 情報発信のペーパーレス化を行う
4. 稟議書・契約書の電子化に向けて検討する
5. 広域防災対策本部としての役割の見直しをする
6. 労務業務の集約化に向けて準備する
7. 次世代の総務役職者を育成する
8. 「いつでも」「どこでも」学習できる教材の配信を検討する
9. 両立支援のための休暇などについて制度の検討・導入を図る
10. 医師等専門職の働き方及び処遇の検討をする
11. 福利厚生サービスの検討をする

[人事企画部]

1. 多様な人材・必要な人材を採用する
2. 多様な人材が活躍できるよう育成を行う
3. 公正公平な人事評価を実現する
4. 職員が働きやすい環境づくりと配置を実現する
5. 採用・育成・配置に関する業務の DX を推進する

[財務部]

1. BS 経営、CF 経営の推進により事業団経営管理機能を強化する
2. 聖隷 DX による業務改革を推進する
3. 経理職員の育成を行う
4. 環境問題、災害対策に取り組む

[総合企画室]

1. 2030 年を見据えた事業計画立案に向けて取り組む
2. 効果的な経営支援の実践を通して経営を担う人材を育成する
3. 全国の社会福祉法人の模範となるような広報活動を推進する

[総合情報システム部]

1. ICT を活用した情報基盤の整備と聖隷DXを推進する
2. 事業団各事業部におけるシステム導入を支援する
3. 将来の情報部門の在り方検討と人材の最適配置を行う
4. 情報部門に必要とされる人材の育成と確保に取り組む
5. オンラインコミュニケーションツールの利用拡大と情報セキュリティを強化する

[監査室]

1. 内部監査の精度を向上させる
2. 内部通報制度を充実させる
3. コンプライアンス経営に資する教育活動を実施する